258.2
別庫
258. 2-101
1200501346611
複写

成田山事業年報 昭和十一年

始

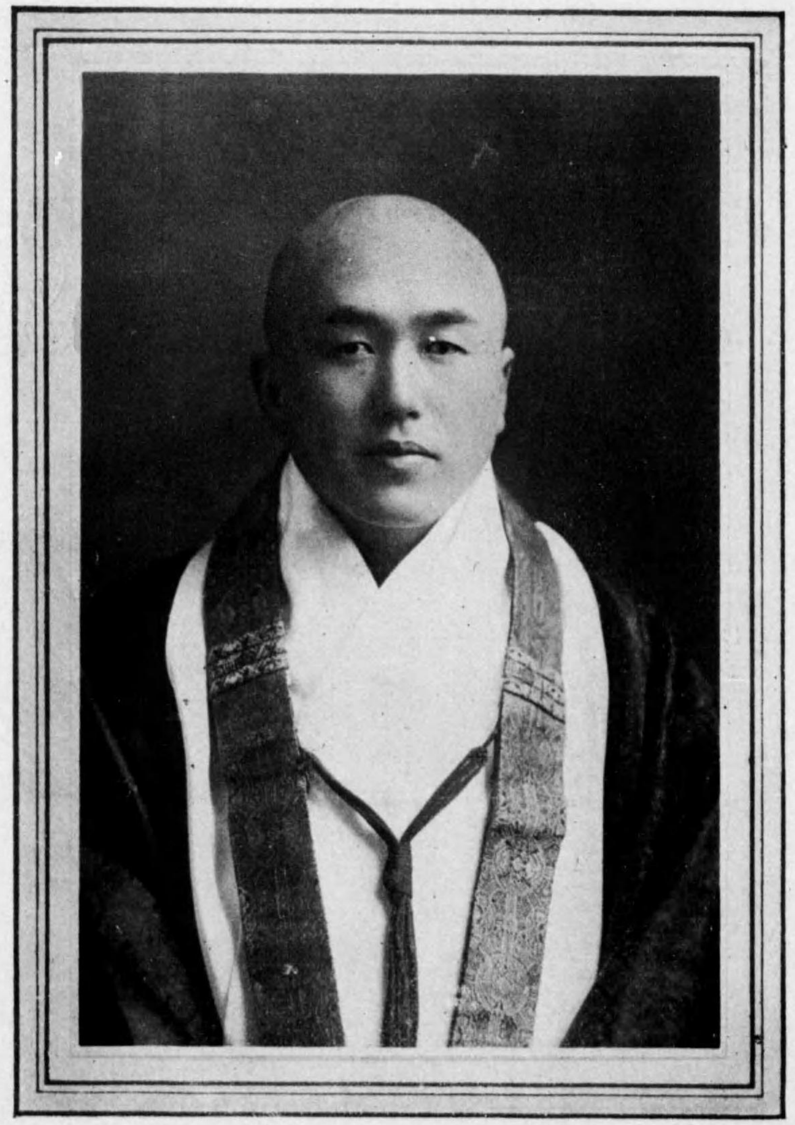
258.
101

成田山事業年報

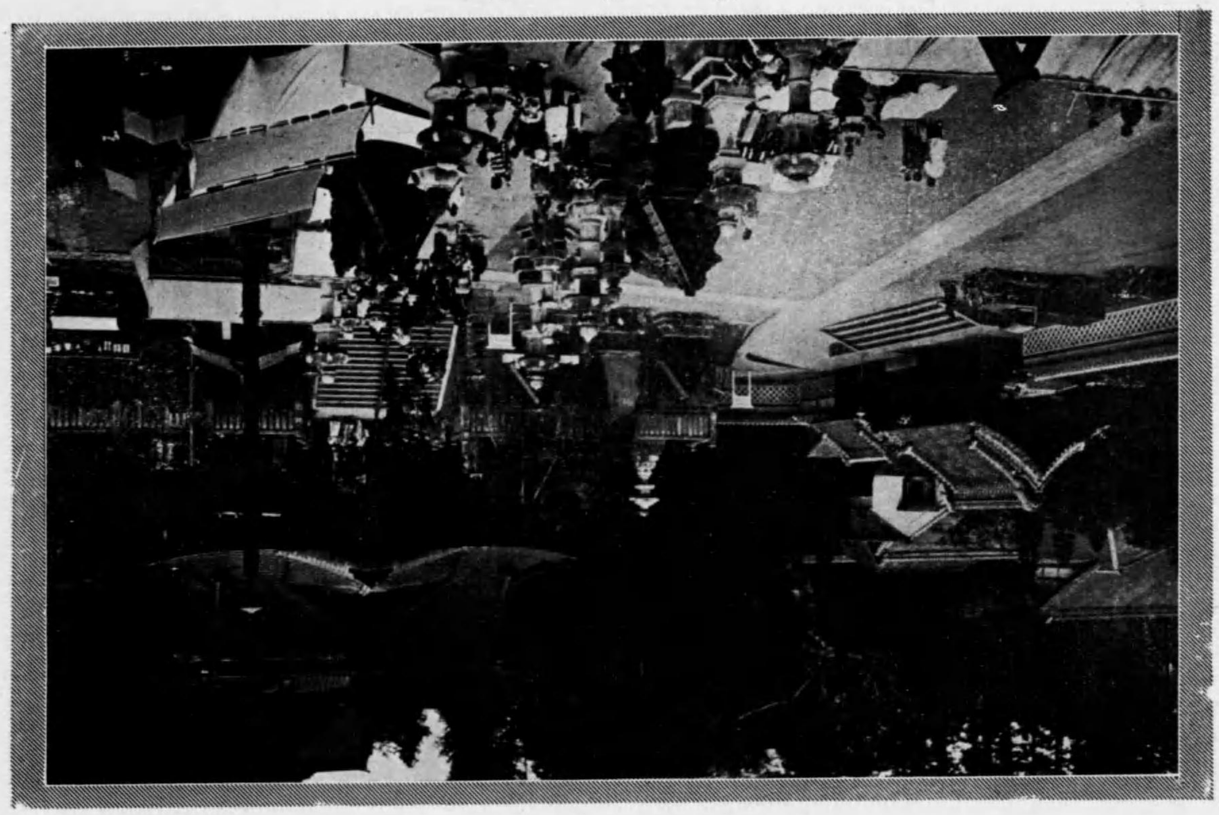
昭和十一年

目次

成田中學校一覽……自一頁至五六頁
成田高等女學校一覽……自一頁至二八頁
成田幼稚園一覽……自一頁至八頁
成田學園一覽……自一頁至一六頁
成田圖書館一覽……自一頁至三三頁
新更會一覽……自一頁至三三頁



荒木山主

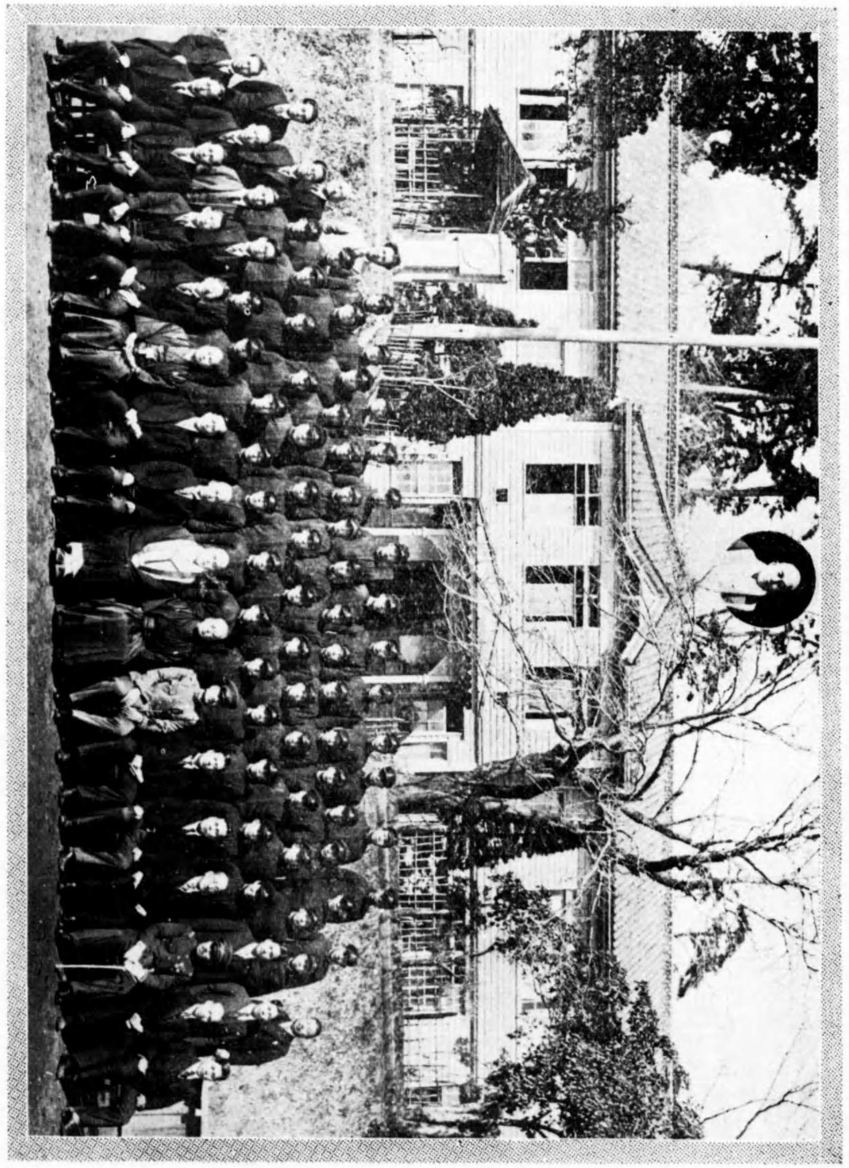


門　主　仁

成田中學校一覽

設立の趣旨……一
教育方針……一
沿革大略……一
歴代校主及校長主監……二
學暦……三
成田中學校々則……五
職員表……九
生徒表……一〇
英漢義塾卒業生……一七
成田中學校卒業生……一八
卒業生及生徒郡別表……五六
經費……五六

露光量違いの為重複撮影



生業卒回五十三第及員職教

校歌

東京女子高等師範學校教授
文學博士 榮 尾上八郎氏作歌

學習院教官
玉 小松耕輔氏作曲
巖

(一)東の海の夜あけて
うねりよる思想の怒濤
大八洲岩をもとよす
さめよさめよ成邱の健兒

(二)靈城は不落のとりで
御すがたは降魔の守
葉牡丹の校旗のもとに
つどへつどへ成邱の健兒

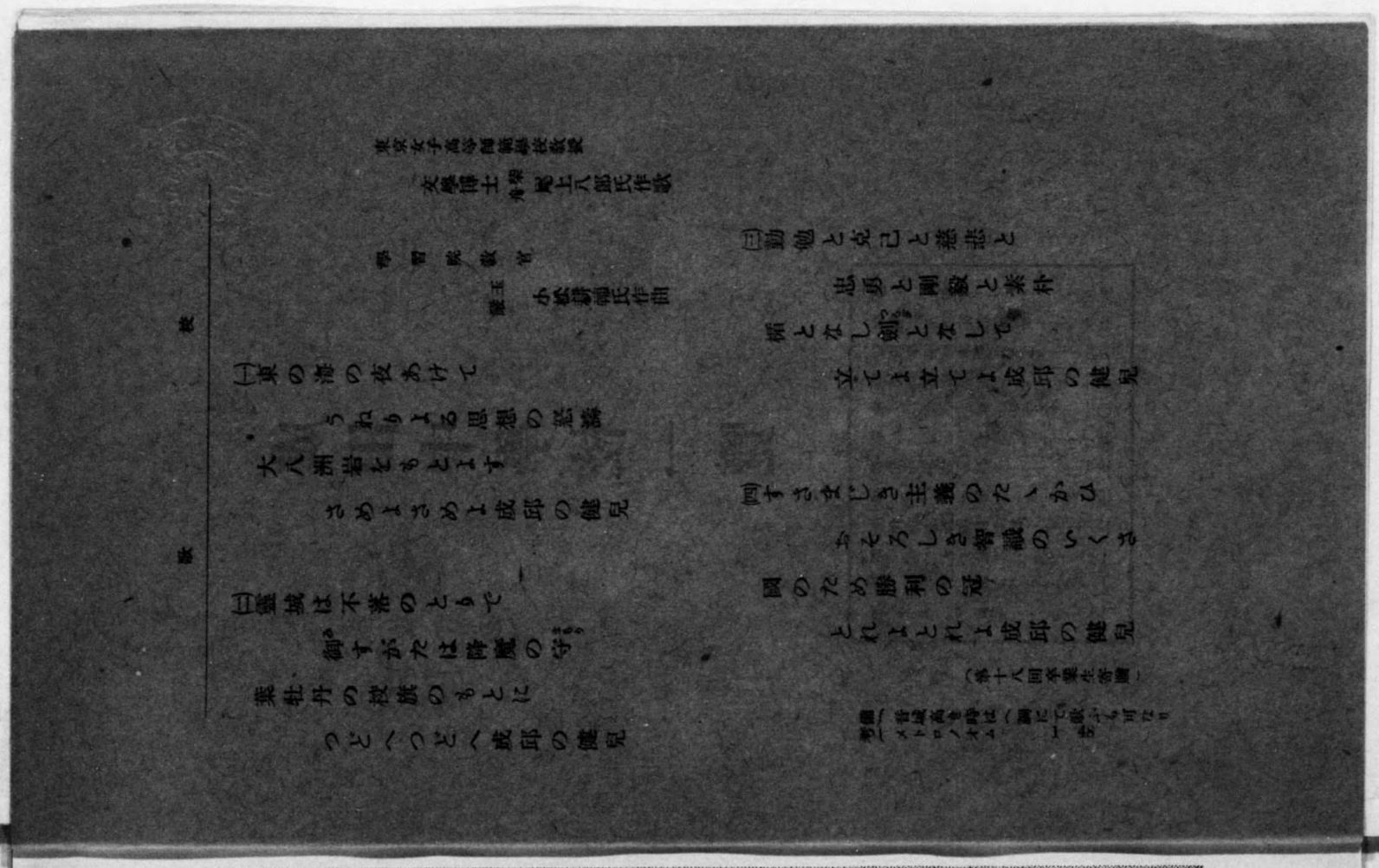
(三)勤勉と克己と慈悲と
忠勇と剛毅と素朴
楯となし劍となして
立てよ立てよ成邱の健兒

(四)すさまじき主義のたゝかひ
おそろしき智識のいくさ
國のため勝利の冠
とれよとれよ成邱の健兒

(第十八回卒業生寄贈)

備考(音域高き時は(調にて歌ふも可なり)メトロノオム 46

露光量違いの為重複撮影



教職員及第三十五回卒業生

258.2
101

私立成田中學校一覽

（昭和十一年四月現在）

成田図書館 寄贈本

◎設立の趣旨

本校は成田山新勝寺六大事業の一として專ら中等教育を施し、國家有用の材を育成せんが爲めに設立せられたるものなり。

◎教育方針

本校設立の趣旨に基き、「先づ人を作る」ことを眼目とす。

從つて訓育の核心は一に、勅語詔書の聖旨を奉戴し、特に實踐の要目としては、剛毅、禮讓、報恩、規律を重んじ、勤敏にして勞作を壓はざる習慣と實力の養成とに努む。

因に、上級學校に進む者に對しては、毎週放課後特別指導を爲し、成績不良の者に對しては、夏期、冬期の休暇を利用して特別指導を爲す。

◎沿革大略

私立成田中學校は、明治三十一年十月七日文部大臣の認可を得て、舊成田英漢義塾を改稱せるものにして、圖書館、高等女學校、幼稚園、學園及び新更會と共に成田山新勝寺の施設せる社會文化事業の一に屬す。

（一）英漢義塾時代

明治二十一年八月新勝寺住職正七位大僧正三池照鳳師が、地方中等教育機關の缺乏を歎じ、石川甚兵衛（先代）諸岡勝太郎（先代）の兩氏と謀りて設立せる、中學程度の學塾にして修業年限を三ヶ年とし、高等小學校卒業以上及び夫れと同等以上の學力ある者を收容することゝせり。全く三池大僧正の篤志に出でしものなり。宮村三多氏最初の塾長に任命せられ、二十三年第一回の卒業生を出せり。斯くて年々卒業生を送りて第九回に及び、其間別に選科履修生を卒業せしむること二回あり。三十一年七月新勝寺院代少僧正服部照和師は、當時在歐中なりし塾主前貫主石川大僧正の命を受けて、中學校認可を文部大臣に稟請す。乃ち千葉縣知事阿部浩氏の實地視察となり。遂に其年十月七日成田中學校と改稱の件認可せらる。英漢義塾として存立せしこと實に十年五ヶ月。此間塾長更迭は宮村三多氏以下濱田義雄、福田龜太郎、和田玉一の四氏に及べり。當時塾舎は成田

東谷なる現圖書館の位置にありき。

（二）現中學校時代

明治三十一年十月成田中學校と改稱の件認可せらるゝや、直ちに現校舍の新築工事を起し、三十三年六月竣功す。是より先、同年三月には徴兵猶豫の特典を附與せらる、又校主前貫主石川大僧正の歸朝せらるゝあり、遂に六月二十七日を卜して落成式を擧行す。文部大臣樺山資紀氏以下、朝野の名士多數の參列あり。斯くて三十一年創立以來本年三月に至るまで、三十五回卒業生を送り、其數千二百四十一名に及べり。此間文部次官奥田義人、商工局長木内重四郎、板垣退助伯、文部省普通學務局長田所美治、文部省參政官大津淳一郎、陸軍大將福島安正、文科大學長上田萬年、千葉縣知事石原健三、同折原巳一郎、等の諸名士或は卒業式に、或は實況視察に臨校せられ、本山社會文化の努力に深甚の敬意を寄せらる。明治二十一年英漢義塾創立以來年を閲すること實に四十八年其中學と改稱せしより三十九ヶ年に及べり。

昭和七年創立第三十五周年記念式を擧行

故三池、石川、服部僧正、故石川正英翁、諸岡勝太郎氏、墓前報告を行ひ三橋理事に感謝狀を贈る。

本校に理事を置く。三橋金太郎氏は創立當初より。石川甚兵衛氏は昭和三年四月より共に其の任に當り現在に至る。

歴代校主及校長主監

校主

石川照勤（明治三十一年七月——大正十三年一月）

荒木照定（大正十三年二月——現在）

喜田　貞吉（明治三十一年十一月——三十二年八月）

竹内　楠三（明治三十二年八月——三十四年七月）

石川　照勤（明治三十四年七月校主自ら學校長を兼ね、以後大正十三年笹川氏就任まで實務は事務代理若くは主監を置きて統督す）

栗根　鐵藏（校長事務代理）—（明治三十五年七月—四十一年九月）

白鳥　庫吉（顧　問）—（明治四十一年九月—現在）

葛原運次郎（校務主監）—（同四十一年九月—大正二年七月）

佐竹　元二（同　　）—（大正二年七月—大正五年三月）

佐藤　禮云（同　　）—（大正五年三月—大正八年七月）

濱田丑之助（同　　）—（大正八年七月—大正九年九月）

名川　彦作（同　　）—（大正九年九月—大正十三年一月）

荒木　照定（名譽校長）—（大正十三年一月——現在）

笹川　種郎（學校長就任）—（大正十三年一月—仝十四年三月）

小林　力彌（同　　）—（大正十四年三月—昭和三年五月）

增田　榮（同　　）—（昭和三年五月—仝九年五月）

今澤　慈海（同　　）—（昭和九年五月—現在）

◎學歴

四月

八日　始業式、入學式

九日　不動尊參拜

十七日　新入生指導會

十八日　校友會各部會各部會計報告

二十七日　靖國神社遙拜

二十九日　天長節拜賀式

五月

五日　端午祭

十五日　一、二、三學年身体檢査

十六日　四、五學年身体檢査

二十七日　海軍記念日

下旬　中間考査

下旬　遠足

六月

三日　故三池照鳳師命日墓參

上旬　五學年生大神宮參拜旅行

七月

十一日～十五日　學期考査、操行會議

十六日　各學科成績表提出

二十日　終業式成績發表備品檢査

二十一日　水泳練習開始

下旬　縣下陸上競技大會

下旬　縣下庭球大會

下旬　縣下野球大會

八月

九月

一日　始業式、不動尊參拜

十八日　父兄會

二十三日　秋季皇靈祭

仝　縣下武道大會

十月

七日　創立記念日運動會

十六日　皇大神宮遙拜

十七日　神嘗祭
中　旬　習志野廠營宿泊
三十日　教育勅語御下賜記念日

十一月

一日ヨリ七日マデ　体育週間　遠足
三　日　明治節祝賀式、競技部、庭珠部大會
二十三日　新嘗祭
下　旬　中間考査

十二月

三　日　教練査閲
十四日ヨリ十八日マデ　學期考査操行會議
十九日　各科成績表提出
二十一日　四、五學年佐倉聯隊射撃宿泊
二十四日　終業式成績發表

一　月

一　日　新年拜賀式
八　日　始業式、不動尊參拜
九日ヨリ十八日マデ　武道寒稽古
三十一日　故石川照勤師命日墓參

二　月

五　日　節分會翌日ニ付休業
十一日　紀元節拜賀式
十五日ヨリ十九日マデ　五學年生考査、操行會議
二十六日　五學年生成績發表

三　月

一　日　卒業式
六　日　地久節
十　日　陸軍記念日
九日ヨリ十三日マデ　學期考査、操行會議
十四日　各科成績表提出
十九日　入學考査
二十一日　春季皇靈祭
二十四日　終業式成績發表、帳簿檢査

成田中學校校則

第一章　總　則

第一條　本校生徒定員は四百五十名とす
第二條　本校の修業年限を五箇年とし一年を以て一學年とす
　但學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る
第三條　一學年を分ちて三學期とす左の如し
　第一學期　四月一日より八月三十一日に至る
　第二學期　九月一日より十二月三十一日に至る
　第三學期　一月一日より三月三十一日に至る
第四條　休業日左の如し
　各日曜日、開校記念日(毎年十月七日)、大祭日、祝日、夏期休業(七月二十一日より八月三十一日に至る)冬期休業(十二月二十五日より一月七日に至る)春季休業(三月二十五日より四月七日に至る)

第二章　學科課程及授業時間

第一條　各學科の配當並に毎週の時間數は別表に依る

第三章　課程の選修

第一條　生徒は第四學年以後に於ては第一種課程若しくは第二種課程の何れかを選修するものとす
第二條　課程の選擇は第三學年の終りに保證人連署の上願ひ出て學校長の許可を受くべし

第四章　考　査

第一條　各學年の課程の終了又は全學年の卒業は平素の學業成績並に操行を考査して之を定む

第五章　入學退學休學及賞罰

第一條　生徒の入學は毎學年の始とす但缺員あるときは第二學期の始めに於て募集することあるべし
第二條　本校第一學年に入學を許可すべき者は尋常小學校第六學年卒業のもの及び入學資格檢定に合格せる者につき入學考査を執行し銓衡す
第三條　入學資格檢定は尋常小學校卒業程度に依り全學科に就いて之を行ふ
第四條　第二學年以上に入學を許可すべき者は相當年齢に達し其學年に相當する學力檢定に合格したる者に限る
第五條　他の中學校より轉校せんと欲する者ある時は欠員ある場合に限り入學を許可することあるべし但全學科に就き檢定を行ふ
第六條　本校に入學せんと欲する者は体格檢査に合格するを要す
第七條　入學を希望する者は本校所定の用紙に必要事項を記入の上願出づべし

第八條　入學の許可を得たる者は一週間以内に左式の在學證明書並に戸籍謄本を差出すべし

第九條　保證人は二名を要し其の一名は親權者後見人親族とし他の一名は成田町在住の一家計を立つる男子とす

在學證書（用紙半紙二つ折り）

印……保證人の印

三錢印紙

私儀今般入學御許可相成候に就ては在學中御規則命令等堅く遵奉可仕候也

住所
誰子弟　族籍　姓　名　㊞
生年月日

前記之通相違無之候に付拙者保證人に相立ち御規則命令堅く相守らせ本人に關する事件一切引受可申候也

住所
族籍職業
右保證人（父母）　姓　名　㊞

住所　千葉縣印旛郡成田町大字　番地
族籍職業　右保證人　姓　名　㊞

年月日

成田中學校長　何　某　殿

右保證人（成田町在住）は丁年以上の男子にして本町内に於て一家計を立つる者に相違無之候也

年月日　千葉縣印旛郡成田町長　何　某　㊞

第十條　保證人の資格上不適當と認むるときは之れを變更せしむることあるべし

第十一條　左の場合に於ては退學を命ず

(一)性行不良にして改善の見込なしと認めたる者
(二)學力劣等にして成業の見込なしと認めたる者
(三)引續き一箇年以上欠席したる者
(四)正當の事由なくして引續き一ヶ月以上欠席したる者
(五)授業料怠納二ヶ月以上に至る者
(六)疾病事故に因り學業を履修し能はずと認めた者
(七)出席常ならざる者

第十二條　中途退學せんと欲する者は保證人連署を以て其理由を具し願出づべし

第十三條　生徒兵役に服する場合は休學を許可す

第十四條　品行方正學術優等の者には賞品賞狀を授與す但特に優秀なる者にありては一學年間の授業料を免除することあるべし

第十五條　規則命令に違反し又は校紀を紊るものは戒飭謹慎停學放校の罰に處す

學科課程毎週教授時間表

	時數	第一學年	時數	第二學年	時數	第三學年	時數	第四學年 第一種	時數	第四學年 第二種	時數	第五學年 第一種	時數	第五學年 第二種
修身	一	勅語謨書 個人生活 社會生活作法	一	社會生活 國家生活 國際生活 作法	一	道德原理 社會生活原理 國民道德作法	一	同	一	同	一	同	一	同
公民科							二	家鄉土府縣	二	同	二	同	二	同
國語漢文	七	國語講讀 作文文法習字	六	國語講讀 漢文講讀 作文習字	六	國語講讀 漢文講讀	六	同	六	同	六	同	六	同
歷史	三	國史	三	外國史	三	外國史	三	外國史國史	三	國史	三	同	三	同
地理	三	外國地理	三	同	三	外國地理	三	同	三	自然地理概說 人文地理概說	三	同	三	同
外國語（英語）	五	聽方讀方解釋 話方作文 書取習字	六	同	五	聽方讀方解釋 話方作文 書取文法	三	同	三	同	三	同	六	同
數學	三	綜合數學	三	同	五	同	三	同	三	同	三	同	三	同
理科	二	一般理科	三	博物物理化學	三	同	四	同	四	同	四	應用理科	四	同
實業							四	綜合實業			四	綜合實業		
圖畫	一	自在畫	一	同	二	自在畫用器畫	一	同	一	自在畫用器畫				
音樂	一	歌典樂典	一	同	一	同	一	同	一	同	一	歌典樂典		
作業科	二	園藝及工作	二	同	一	同	一	同	一	同	一	同	一	
體操	五	體操教練 遊戲武道	五	同	五	同	五	同	五	同	五	同	五	同
計	三〇		三二		三五		三二		三五		三五		三四	

第十六條　學校の建物器具器械標本を毀損又は亡失したるときは相當の賠償をなさしむることあるべし

第六章　授業料及入學料

第一條　授業料は一ヶ月金三圓五拾錢とす

第二條　生徒在學中は出席の有無に係はらず毎月五日迄に納むべし但毎年八月は納むるを要せず

第三條　授業料納附期日を五日以内に尚ほ納めざるものは納入濟まで停學を命じ保證人をして之れを納めしむ

第四條　入學志願者は入學考査料金壹圓を納め入學の許可を得たるときは更に入學金壹圓を納むべし

第五條　左の各項に該當するものは授業料を減免す

(一)　學力優等品行方正にして他生の模範たるべき者

(二)　戰時若しくは事變に際し召集せられたる者の子弟

(三)　貧困にして資力なく學力品行共に佳良なる者

但第三項の場合に於ては父兄又は後見人より特に願書を差出さしめ及本人に對しては相當の義務を負はしむ

第六條　休學を許可したる場合は授業料は徴集せず

第七章　服　制

第一條　生徒登校の際は必ず制規の服裝をなすべし

第二條　制帽の地質は黑羅紗にして本校の徽章を附すべし

第三條　制服の地質は紺色又は黑色の小倉織にして詰襟ホックとす、但夏服は霜降りの小倉織とす

第四條　靴は黑色編上げを用ふべし

第五條　外套は指定の型により黑羅紗金ボタン附とす

但一、二學年生徒は調製せざることを得

第六條　制服を汚損したる者若しくは身体上の故障により着用不能なる者は許可を得て代用服を着用することを得

第七條　代用服は筒袖にして袴を着用すべし

第八條　新入學生に限り指定の期間中代用服を許可す

第八章　附　則

本校則は昭和六年四月一日より之を施行す

本校則施行に關する細則生徒取締に關する規定及び其他必要なる内規は學校長之を定む

（目下改訂申請手續中）

◎職　員

受持學科	職名	氏名	族籍	就職年月
	校主兼名譽校長	荒木照定	千葉縣	大正十三年二月
修身	校長兼教諭	今澤慈海	愛媛縣	昭和九年五月
歴史漢文	教務主任	甲斐重五	熊本縣	昭和九年九月
英語	生徒主事	西原鹿之助	靜岡縣	昭和四年四月
英語	教諭	膽吹明	東京府	昭和十年四月
博物一般理科	教諭	久住雅治	靜岡縣	昭和七年二月
物理化學實業	教諭	瀧澤榮亮	千葉縣	大正十二年二月
國語漢文	教諭	片山辰雄	長崎縣	昭和四年四月
地理公民	教諭	寺内保	千葉縣	大正十四年四月
國語	教諭	三門健一	千葉縣	大正十五年四月
歴史	教諭	廣岡城泉	京都府	昭和四年九月
体操	教諭	下平翹雄	群馬縣	昭和七年九月
數學	教諭	伊藤優	兵庫縣	昭和六年四月

國語漢文	教諭	松山俊雄	千葉縣	昭和九年十月
圖書作業	教諭	土屋一勇	靜岡縣	昭和八年四月
數學	教諭	田淵博	京都府	昭和十年四月
英語	教諭	石井壽男	茨城縣	昭和十年四月
教練劍道	教諭心得	細矢末吉	千葉縣	昭和三年四月
劍道習字	教授囑託	邊田金治郎	千葉縣	昭和五年四月
國語漢文	教授囑託	大石雅次郎	福岡縣	昭和三年九月
音樂	教授囑託	岩本政藏	栃木縣	昭和六年四月
珠算簿記	教授囑託	那波武	東京府	昭和十年九月
柔道	教諭兼書記	榎田正巳	千葉縣	大正七年一月
劍道會計	教師兼書記	南井榮助	千葉縣	明治三十四年四月
教練	配屬將校 歩兵大尉	飯田喜好	東京府	昭和十一年三月
	校醫內科	高川直三郎	千葉縣	明治三十三年九月
	校醫齒科	萩原村次	千葉縣	昭和五年五月
作業	助手	實川賢雄	千葉縣	昭和六年六月

◎生徒表

（昭和十一年四月現在）（◎印特待生、△印正副級長）（級長以下身長順）

第五學年A組（三拾名）

主任（西原鹿之助　門健一）

◎△加藤馨	印旛	成田	小川長榮	同 公津
日暮潔	同	安食	竹村啓一	同 富里
大木甚兵衛	同	公洋	伊藤章造	同 久住
大木忠一	同	成田	根本利一	同 久住
櫻井健	香取小御門		山田有利	同 富里
岩澤泰雄	山武二川		齊藤和行	山武千代田
香取滋夫	印旛	久住	宮本一	印旛 安食
三橋齋助	同	中郷	設樂仁一郎	同 久住
芦田定雄	同	成田	五木田篤三郎	茨城縣水海道
岩舘治郎	同	成田	諸岡淳	印旛 成田
			武士田文雄	同 成田
			支岡一郎	同 富里
			岩澤茂	山武千代田
			酒井孝育	印旛 成田
			山田文天	同 八生
			寺內繁男	同 成田
			藤崎定夫	同 富里
			一色輝越	千葉市寒川
			足立弘	東京府下金町
			△芹山嘉兵衛	印旛 遠山

第五學年B組（二拾一名）

主任（西原鹿之助　門健一）

◎△野々宮勇	印旛	成田	諸岡謙一	同 成田
淺井宏	同	成田	森一郎	同 成田
河崎徹	同	安食	一鍬田英一	同 中郷
山本嘉一郎	同	安食	諸岡愛介	同 成田
荒野卓雄	同	六合	新橋康雄	同 成田
			齊藤直枝	同 遠山
			織田英	同 成田
			川島義雄	同 安食
			中島輝郎	同 成田
			宮崎廣二	同 成田

長谷川篤佐　同　成田
横尾春治　同　富里

池田清　山武千代田
鈴木悌三　印旛　成田

岸本洋之助　同　富里
藤崎義治　印旛　遠山

第四學年A組

（拾九名）

主任（瀧平澤翹榮亮雄）

△日暮正雄　印旛　安食
大木公平　同　公津
中野一郎　同　遠山
岩瀬純　同　成田
川村茂　同　成田
川村國夫　同　成田
藤崎貞治　同　富里

竹本武男　同　公津
長澤文雄　同　富里
後藤敏雄　同　成田
岩澤秀亮　同　遠山
山田清之助　同　安食
京增廣吉　同　成田
本橋誠　同　公津

森川保　同　成田
桑原庄一　同　安食
吉田清　同　公津
大木俊一　同　安食
△湯淺茂雄　同　八生

第四學年B組

（三拾八名）

主任（瀧平澤翹榮亮雄）

◎△長瀧耕一　香取本大須賀
宮田憲三　印旛　成田
勝田吉郎　同　安食
◎山本太一　同　安食
金井誠一　同　成田
土肥憲一　同　公津
高塚英雄　香取　佐原

大木昌一　印旛　成田
鈴木正　同　八生
野口左武郎　同　豐住
藤崎悅三郎　同　遠山
山本望　同　安食
田谷二　同　成田
日暮久彌　同　成田

蛙田光城　同　豐住
植本健次　同　成田
宮永敏一　山武横芝
大木正男　印旛　成田
大木晃　同　八生
山田二郎　印旛　安食
清宮豐　同　遠山

栗原廣德　同　遠山
谷忠助　同　公津
小田垣次郎　同　成田
根本貫治　同　八生
諏訪貫之　山民千代田
青柳武　印旛　成田

小川平次　印旛　遠山
藤崎秀雄　同　遠山
關口金次　同　公津
梶谷博　同　安食
◎△高橋豐日　香取　滑河
清宮敬雄　印旛　八生
小川清　同　中郷
松田武信　同　八生
木村正鄉　同　木下
齊藤啓義　同　成田
椎名義　同　成田
山野勝二　同　成田
石井源祐　同　本埜

第三學年A組

（三拾五名）

主任（廣岡寺內城泉保）

△椎名清介　同　成田
藤崎正一　同　遠山
神崎功一　同　遠山
弘海堯圓　同　安食
小出川邊博　同　成田
敏　同　成田

根本謙　同　成田
清　同　久住
豐田博美　同　成田
皓　同　久住
大谷　同　成田
甲田正夫　同　成田
長谷川成男　同　久住
齊藤鐵夫　同　遠山
藤崎四郎　同　成田
中島克雄　同　成田
△廣田新太郎　印旛　遠山
椎名治喜　同　公津
塩澤清　同　成田
行方規矩夫　山武二川

平澤信行　同　成田
鈴木輝一　同　成田
大坂熙　同　遠山
辻正男　同　遠山
△小泉喜一　同　久住

小島忠良　印旛　成田
諸岡準次　同　遠山
青柳元雄　群馬縣前橋
弘海堯輝　印旛　安食
生駒正　山武二川
山口宰男　茨城縣金江津
丸友衛　印旛　公津
大木光雄　同　中郷
齋藤輝夫　同　遠山

第三學年B組

（三拾五名）

主任（廣岡城泉寺内保）

藤崎忍　印旛　遠山
山本忠男　同　安食
谷昇平　同　成田
◎△青原匡典　同　成田
藤崎富哉　同　成田
小川義久　同　中郷
宮内行雄　同　八生
澤田泰助　同　成田
石井正一　同　遠山
石井新作　同　豐住
浮島芳丈郎　同　安食
石井勇　同　豐住
櫻田國雄　同　成田
高橋省次　同　成田
荒井義一　同　安食
木川嬰　山武二川
後藤敏夫　印旛　八生
岡田富美也　同　本埜
泉水俊　同　公津
吉岡正洋　同　富里
蕨博　印旛　公津
山田孝一郎　同　成田
岩澤健三郎　同　中郷
林晃　同　成田
出山進　山武千代田
原偉敬　印旛　富里
渡邊靜夫　同　成田
川島襄　同　成田
杉田睦男　匝瑳八日市場
齊藤伍市　山武千代田
加藤豐次　印旛　成田
◎△鵜澤成六　同　中郷
相京政德　同　公津
多田敬止　同　公津
貝原塚茂　同　八生

第二學年A組

（三拾七名）

主任（松山土屋一俊雄勇）

大須賀恒　印旛　安食
大須賀尚二　同　安食
鈴木武夫　同　公津
萩原正德　同　遠山
谷武夫　同　公津
高木松雄　同　富里
高梨良英　同　成田
小川俊男　同　成田
△藤崎隆二　同　遠山
清水保　山武二川
土井重次郎　印旛　公津
竹内弘　同　成田
石橋淨光　同　富里
富澤孝　同　永治
邊田金幸　香取高岡

小川保　印旛　成田
△高野政司　神奈川縣横濱
久津春三　印旛　遠山
小川直　同　成田
川口峯作　同　成田
黑川武雄・印旛　成田
石川敏夫　同　成田
信田武　同　成田
河崎五三雄　同　安食
武藤秋民　同　永治
小川登志男　同　成田
田谷廣　同　成田
丸勉　同　公津
吉岡吉右衛門　同　公津
小川豐　同　中郷
勝又勝雄　同　遠山
岩間正盛　同　成田
木内佐男　同　八生
櫻井克衛　同　成田
石原古三　同　富里
宮本武　同　安食
江原良雄　群馬縣太田

第二學年B組

（三拾八名）

主任（松山土屋一俊雄勇）

石橋咸一郎　印旛　成田
△關三郎　同　酒々井
宮本精　同　安食
加藤貫　同　成田
渡邊浩治　同　成田
伊藤市平　同　中郷
山崎昇　同　遠山
山田一郎　同　安食
竹村淳　同　富里
三橋博雄　同　成田
篠崎浩一　同　富里
小窪利秋　同　本埜
小川安之勳　同　公津
郡司武夫　同　遠山
鈴木久光　同　成田
小川光衛　同　成田
稻垣明　同　成田
黑田重信　茨城縣伊崎
小島皓　山武千代田
櫻井俊　香取小御門
秋山好弘　印旛　中郷
末吉繁　同　安食
萩原孝雄　山武千代田
△吉田憲八　印旛　成田
渡邊正男　同　成田
岩井伊惠門　同　本埜
林田亨　同　成田
清宮昌　同　遠山
伊藤愛治　同　八生
大木禮二　同　成田
坂本益男　同　成田
中野榮藏　同　遠山
若林守司　同　成田

平山茂　同　中郷
加藤正敏　同　富里

石橋佳志　同　成田
長谷川成雄　同　成田

成田信　印旛　成田

△古川英一　印旛　成田
坂本豐松　印旛　長沼
鈴木牛平　同　豐住
長谷井義輝　東京　目黒
吉岡丈男　印旛　中郷
松本文雄　同　木下
宮崎良二　香取　佐原
山田隆信　印旛　八生
松本義雄　同　木下
二宮正氣　同　六合
藤崎四郎　同　遠山
木内正　山武千代田
立花文男　印旛　久能
諸岡壽一　同　成田
鶴山俊郎　印旛　成田
富澤太郎　香取　滑河
松本茂　香取　東大戸

第一學年A組

（四拾九名）

主任（石片山辰雄　井壽男）

新藤健　埼玉縣佐谷田
小川俊雄　山武千代田
石原芳文　印旛　成田
藤崎保　印旛　遠山
大友成彥　同　成田
郡司行雄　同　遠山
大木惠介　同　公津
加藤尚武　同　成田
關谷忠雄　同　公津
宮内千秋　同　八生
高橋造　同　成田
石橋愛治　同　成田
小川弘　同　八生
岩澤延光　同　遠山
菅澤啓　同　成田
高木保　同　公津
河崎美津留　同　安食

藤本時藏　同　成田
押田吾道　山武千代田
木内信三　印旛　成田
關川正誼　同　成田
石井晃　同　安食
小川秀平　同　遠山
淺野守　同　中郷
生駒重太郎　同　遠山
丸倪　同　公津
小川邦輔　香取　滑河
山田良輝　印旛　成田
宮本宏之　同　公津
山本正夫　同　安食
三橋喜重　同　富里
△勝田英明　同　安食

木村貞一　山武千代田
足立明　印旛　成田
栗原宏信　同　遠山
根本敏雄　同　八生
土肥精也　同　公津
龍崎恒　山武菱田
堀越秀一　茨城縣金江津
加藤順三　印旛　中郷
小泉太平　同　久住
成毛勘一　同　豐住
山田幸吉　同　成田
齊藤穎一　同　公津
金井亙　同　成田
藤誠規　同　安食
早川邦男　同　遠山
大川幸一　同　富里
吉澤正夫　同　成田

第一學年B組

（五拾名）

主任（石片山辰雄　井壽男）

相川主計　同　富里
根本俊郎　同　豐住
紅谷宇吉　同　成田
諏訪原健吉　同　成田
關野一雄　同　成田
黑川勳　同　成田
山崎孝男　同　公津
篠田幸男　同　豐住
成毛昇　香取　滑河
木原茂一　印旛　成田
內田重信　山武千代田
諏訪原稔治　印旛　八生
岡本武夫　香取　高岡
諸岡孝一郎　印旛　遠山
桑田象雄　香取　高岡
大德省　同　小御門
小川好平　山武千代田

森川久　長生一ノ宮
大竹仁一良　香取小御門
糸川眞雄　印旛　富里
鈴木和夫　同　成田
清宮浩　同　八生
園部稱次　香取　高岡
神崎輝雄　印旛　遠山
田中末治　山武千代田
山田重衞　印旛　成田
小川脩造　香取　滑河
中村茂　印旛　成田
稻葉恒雄　同　木下
鈴木敏雄　君津　吉野
藤崎民也　印旛　遠山
鈴木功一　同　成田
大隅忠義　東京　下谷

正會員

成田英漢義塾卒業生（明治二二年—三二年）（五拾四名）

氏名	卒業回數	住所	職員又ハ勤務先
北田彦三郎	一		
三橋金太郎	一	成田町成田	成田中學校理事
高安元三郎	一	同	
×吉川松太郎	二	中郷村野毛平	
山田兵治	二		
石井佐次馬	三	富里村根木名七五〇	
宍倉高次郎	三	山武郡日向村木原	
山田市太郎	三	八生村山口	
石川英之助	三	香取郡高岡村高	
國本幸藏	三	岡富里村中澤	農業
山田要之助	三	八生村大竹	
林　政治郎	四		
大野市太郎	四	成田町成田	砲兵大佐
湯淺眞二郎	四	千葉郡睦村元吉橋	
藤崎仁三郎	四	成田町寺台	
伊藤幸次郎	五	富里村根木名	
（林田改）内田恒藏	五	富里村十倉	實業
篠崎幸吉	五	長生郡新治村太田	
惠口忠治	五	富里村久能	
山崎傳七	六	福井縣南條郡武生町吾妻一一三	
根本太一	六	香取郡滑川町	
高梨盛太郎	六	君津郡環村東太和田	
太田家纖	六	公津村船形	
山本喜助	六	彌富村內田	
多田　寧	六	公津村下方	
森　寛一	六	千葉郡譽田村野田	
篠原友之助	六	富里村中澤	
×石川昌三	六		
×藤崎欽哉	六		
×林田政吉	六		
赤谷由助	七	匝瑳郡共和村鎌數	
木內民雄	七	成田町成田	
米津重次郎	七	市原郡五井町	
湯淺暉	七	千葉郡睦村吉橋	
石渡恒	七		
林田恒三郎	七		
並木廣	八	山武郡源村底勝	農業

（山本改）河津金四郎	八		
岡本保	八	富里村中澤	
×郡司喜太郎	八		
×山野制	八		
×堀井富五郎	八		
石井喜一	九	山武郡千代田村	農業
長谷川慶	九	成田町成田	印版業
小野寺弘	九	同	實業
玉造泰助	九	香取郡山倉村	實業
細田孝司	九		
×木內啓司	九		
原久藏	選科		
山口要太郎	同	八生村押畑	
戸村喜助	同	公津村	
香取友吉	同	香取郡香取町	
篠田鶴吉	同		
唯謹吾	同		

成田中學校卒業生

第一回（明治卅五年）（六名）

氏名	住所	職業又ハ勤務先
小野寺精一郎	新潟縣松村町	新潟縣立松村中學校長
飯倉文甫	朝鮮京城大和町三丁目遞信局官舍	朝鮮總督府遞信局工務課長
秋山篤英	青森縣八戸市平中町	青森縣立八戸中學校長
黑田政吉	横濱市鶴見區下末吉町二二六ノ一	
×三橋信吉		
×竹尾丑之助		

第二回（明治卅六年）（八名）

神崎義俱	東京市豐峰區巢鴨町五ノ一一二九	有限責任不動信用組合常務理事（電銀座四六）
（藤崎改）加納金助	千葉市椿森	日本大學理事
高橋照文	山口縣仙崎町	東京獸醫學校理事
小川克己	東京市代々木二五二	山口縣水產試驗場長
吉岡猛	酒々井町伊篠	東京時事新報社

加藤芳之助	在米	實業
黑川信		
×京須幸		

第三回（明治卅七年）（拾八名）

小川源一郎	公津村北賀賀	實業
飯倉貞造	佐世保鎮守府	海軍大佐
寺內一夫	東京市荏原區小山町二七一	官吏
後藤七郎	八生村公津新田	實業
遠藤與惣平	公津村飯中	實業
小川利太郎	公津村北賀賀	實業
佐々木牧治		大阪商船紅丸機關士
田中重衞	東京市豐島區巢鴨町三ノ七一二	株式會社第一銀行本店
加藤右二	成田町砂田二四三	實業
神崎庄輔	在米	實業
那須文治	公津村下方	
多田亨		
×渡邊政助		
×額賀清右衞門		
×瀧澤德次郎		
×木內茂助		

第四回（明治卅八年）（二拾二名）

×藤倉精助		
（田中改）×山本順		
（加藤改）伊藤昇	東京市荏原區小山五〇六	芝浦製作所技
萩原義重	京都市伏見區深草鳥居前町一八	日本レーヨン株式會社常務取締役
宮野源一郎	茨城縣筑波郡豊村古新田	醫師
（椎名改）野村竹男	金澤市本田町六番丁一八	醫學博士金澤醫科大學教授
泉仙助		實業
（伊藤改）吉岡保	佐倉町宮小路五五	財團法人關東中學總務兼教諭（千葉市）
大木榮次郎	山武郡千代田村	實業
秋葉有一郎		醫師
小幡久		
（鈴木改）安達胤治	遠山村小菅	三里塚郵便局長
鈴木亮	公津村台方一七八	縣會議○
高仲喜代松	東京市京橋區港町一ノ一八ノ三荒牧方	

湯淺儀三郎	八生村松崎	實業
（藤崎改）爲我井倭一	茨城縣結城郡結城村佐野	實業
藤崎庄平		實業
小川明	中郷村東金山	農業
黑川傳	成田町寺台	實業
松木保	在朝鮮	實業
×秋山三省		
×坪井節爾		
×辻英吉		
×石原泰次郎		

第五回（明治卅九年）（二拾二名）

長谷川治吉		實業
（藤川改）士肥多助	公津村八代	實業
三橋英治	成田町田町	
（繁藏改）佐藤重俊	北海道空地郡中富良野村市街地	醫師
山野衿三		日本生命保險會社々醫
小野寺英二郎		
仁科一		北海道藤田組加比宇牧場技師
（小川改）鈴木七郎	東京市麻布區谷町七〇	東京鐵道局經理課
萩原長三	山武郡千代田村菱田	實業
丸良輔	公津村大袋	實業
石原清泉	大連市文化台一二三	南滿洲鐵道株式會社本社用度事務所
作田紋平	山武郡鳴濱村作田	實業
淺井信之	東京市芝區白金三光町八五	東京瓦斯株會社芝製造所
（加藤改）松本顯三	成田町田町	旅館業
古矢誠助	東京市王子町堀之內	國府商店
宮田七右衞門		實業
清宮俊平		
×小倉榮二郎		
×土屋圓		
×澤田信三		
×山野隆治		
×石橋堯之助		

第六回（明治四十年）（二拾二名）

大塚靜	香川縣木田郡平川町	香川縣立木田農學校長
石川芳太郎		京都市助役

（伊藤改）櫻井重加	香取郡小御門村高倉七一	縣立小御門農學校教諭	
泉顯藏	ペルシヤ國公使館	一等通譯官	
黑川孝	成田町寺台二七三	共榮無盡成田支店	
石橋昇	富里村根本名	實住小學校教師	
石井孝司	豐住村南羽鳥一二〇五	久住東小學校長	
（石井改）篠田憲次郎	安食町北逢田	實業	
（小倉改）葛生孝作	安食町賀賀	農業	
加藤光太郎	成田町田町	實業	
吉田新		不動貯金銀行下關支店長	
（廣瀨改）勝田海治	八生村大竹	公津小學校教師	
（小川改）大木義德	中郷村芦田九〇三	中郷小學校教師	
（成毛改）鈴木啓次郎	豐住村龍台	實業	
丸善助	公津村下方	實業	
（山口改）鈴木忠治	東葛飾郡船橋町九日市	船橋小學校教師（東葛飾郡）	
橋爪石民	香取郡滑河町西大賀賀	千葉縣地方農林技師根木名川水利改良事務所長	
長谷川利吉	成田町仲町	昊服業	
藤崎勇三郎	遠山村取香	官吏	
×石井金次郎			
×川島芳夫			
×藤崎源一郎			

第七回

（明治四十一年）（二拾九名）

三橋治平	富里村日吉倉	實業
竹村克之	富里村七榮一三六ノ三〇	富里小學校長
土井彌一	公津村八代	實業
藤崎繁	遠山村駒井野	實業
丸武夫	公津村大袋三四五	實業
藤田正己	大阪市西成區紛濱中ノ町三ノ一	（大阪）株式會社松原鐵工所常務取締役技師長
龍崎源	山武郡千代田村菱田	實業
三好照嘉	公津村下方	東勝寺住職
飯倉汎三	東海林採本公司ハルビン地段街	北滿洲哈爾賓東海林採木公司理事長
鈴木三郎	遠山村三里塚	下總御料牧場
稻垣保治		僧侶
三好照正	公津村下方東勝寺內	
（大島改）織原三郎	千葉市西院內一三〇一	

櫻原昇	栃木縣大田原	商科醫師
高野照實	成田町仲町	僧侶
木內喜右衛門	八生村山口	實業
山田逸作	成田町田町	
石原岩治		
×五木田康吉		
×石井延太郎		
×飯島貞雄		
×稻生恭平		
×三浦照芳		
×三橋達也		
×香取實		
×石橋清		
（櫻原改）×大島愼三		
×林正四郎		
×松本修一		

第八回

（明治四十二年）（二拾二名）

（玄美改）蛭田一玄	滿洲國熱河省承德馬市街一五	陸軍主計正關東軍司令部付兼滿洲國軍政部顧問
邊田金次郎	香取郡高岡村高岡	成田中學校教師
（小倉改）藪崎久太郎		
土肥忠衛		
平山勘一		
（川崎改）齋藤金吾		
（新行寺改）秋葉義之		
荒木照定		
（平野改）永瀨謙吉		
鈴木五兵衛		
志田照猛		
（秋葉改）加藤昇		
（遠藤改）村島隆治郎		
（大助改）藤崎大八		
石橋茂夫		
（本多改）藤崎靜		
野平興衛		
×橋本修造		
×金澤光雄		

松戸町矢刈	實業	
公津村八代	成田財務出張所	
遠山村三里塚	農業	
和田村上勝田	農業	
山武郡成東町板付三三〇	成田山新勝寺住職	
成田町成田	實業	
長生郡茂原町高師	實業	
成田町本町三五〇	鏡照院住職	
東京市芝區愛宕町一ノ一二鏡照院	實業	
千葉市寒川羽根子一六七七ノ一	千葉縣廳市川市役所	
公津村飯仲市	小學校教師	
市川市須和田	有鄰生命保險會社員	
久住村磯部	實業	
遠山村	實業	

×加藤保		
×櫻井千太郎		
×小川潔		

第九回（明治四十三年）（二拾一名）

（土肥改）諏訪原克己	八生村山口七四〇	實業
大塚篤三	成田町田町	鍋店株式會社社長
（加藤改）竹下清吉	日本製紛會社門司支店勤務	日本製紛會社門司支店
石井榮治	東京市目黒輜重兵第一大隊付	陸軍輜重兵少佐
坂宮浩	成田町幸町	門司鐵道局
加勢胖	久住村小泉	成田小學校教師
椎名憲三	東京市本郷區駒込坂下町二一〇	農業
鈴木重五郎	成田町田町	齒科醫師
（中村改）小川保	安食町安食	新勝寺公園課
（和田改）卯之木照文	市原郡高瀧村	豐住小學校長
平野清司		小學校教師
廣瀨保		
小倉甚四郎		
小倉英次	八生村實田	千葉縣立小御門農學校教諭
吉岡米吉	酒々井町伊篠七〇九	農業
宮島昇	東京市荏原區神明町五〇七ノ一	齒科醫
下村保	東京市麴町區元園町一ノ二二	
（加藤改）×竹村健		
×高橋穀一		
（渡邊改）×櫻井昇		
×澤保邊		

第十回（明治四十四年）（二拾二名）

椎名泰三	千葉市千葉二六四一	醫學博士椎名病院長
石原貞三	東京市杉並區清水町二九	
山口清	川崎市渡田一一九九	日本綱管株式會社々員
（平三郎改）藤崎公道	成田町上町五〇三	醫學博士如春堂病院長
藤田精一	神奈川縣。子町櫻山廣地一〇八六	海軍機關中佐海軍工機學校教官
織田貞	海上郡飯岡町	醫師　飯岡醫院長
小倉壯五郎		

（丸改）丙田省吾	山武郡千代田村岩山一七一〇	農浦
鈴木雄一		
小川清	朝鮮京城	業朝鮮銀行本店
河野毅一		
（岡部改）吉岡秀澄		
（石井改）小出清		
（右馬之助改）秋葉昌己		
蛭田眞民	府豐住村南羽鳥	
（衞改）吉岡七郎兵衞	中郷村和田	
小川新	朝鮮木浦府東洋拓殖株式會社木裏支店	駐在員
×林松之助		
×川島勝信		
×三橋衞		
×四野平郎次		
×額賀忠孝		

第十一回（明治四十五年）（三拾二名）

三橋孝一郎	東京市豐島區目白四ノ五三（電大塚一五六一）	
（秋山改）鈴木靜	東京市牛込區市ヶ谷田町三ノ二二	齒科醫師
（本宮改）大友惟誠	成田町幸町	成田學園主任
梶谷光之助	安食町安食	實業
（小野寺改）瀧川俊雄	大阪市淀川區柴島水源地南公舍	大阪市水道部淨水部長
渡邊和一	成田町土屋一三三四	實業
渡邊由松	成田町土屋四二四	醫學博士　渡邊病院長
河合清	成田町上町	實業
篠田保		
小山正義	茨城縣多賀郡平潟町海德寺內	僧侶
織田順	靜岡縣沼津市	ソーセージ製造業
小池嘉之	仙台市北五番町五二	仙台稅務監督局技師
石橋稔	香取郡滑川町	農業
稻垣恒藏	成田町寺台四五一	實業
長谷川桂		
新橋旭	東京市澁谷區原宿一ノ八九	東京信託所
（須田改）長谷川興仁		

河野和起	東京市本所區東駒形町二ノ一二	
岩館昌美	香取郡滑河町西大須賀	實業
山崎秋平	東京市向島區吾嬬町西四ノ四九	
山田章吾	安食町安食	實業
（中村改）萩原廣	東京市杉並區井荻町三ノ五	東京市吏員水道局
鈴木廣雄	遠山村三里塚	藥種商
×蕨曙		
×池田樂助		
×染谷恒次郎		
×江副節藏		
×綿貫新作		
×大塚七郎		
×青柳公		
×栗原照宣		
×日暮太一郎		

第十二回（大正二年）（二拾八名）

齋藤義秀	遠山村東和田	實業
（加藤改）澤崎英一郎	横濱市磯子區磯子町四一七	關東運輸株式會社横濱營業所勤務
石井鼎	東京市淀橋區上落合二丁目七三八	日本興業證券株式會社本店
鈴木佐太郎	富里村高野	實業
小川浩平	山武郡千代田村岩山	農業
内田毅	八街町ほノ二四四石渡菓子舗方	八街町實住小學校長
瀧澤榮亮	成田町成田二一六	成田中學校教諭
（鈴木改）戸井明	山武郡二川村大台	實業
内海喜男	成田町成田一二二四	鋼店株式會社
（塚本改）葛生清三郎		白井村名内小學校長
三橋有方	富里村日吉倉	農業
岩澤忠治	大阪市住吉區住吉町一三一二	日本綿花株式會社々員
塚本憲一郎	香取郡滑河町西大須賀	實業
青木榮俊	京都市東山區東瓦町	智積院執事（京都）見德寺住職（八日市場）
新橋榮	根郷村石川	農業
（並木改）櫻井和	山武郡千代田村	實業
池田一介	匝瑳郡野田村野手	匝瑳郡東陽小學校教師
大木喜三郎	富里村七榮	富里村役場勤務
竹村和	公津村船形	農業
鈴木高治		

飯塚英夫	香取郡多古町	農業
淺岡惠太郎	飯笹五〇六	
菅澤忠爲	北海道函館市寶一番地五四（電三三八七）	醫學博士
（三橋仙次改）芹山嘉次	遠山村大山	實業
戸村正夫	遠山村堀之内	實業
×東美義照	遠山村大清水	農業
×辻愛吉		
×小柳秀吉		

第十三回（大正三年）（二拾八名）

早川重雄	台灣鹽水港	台灣鹽水港製糖株式會社々員
藤崎源之助	富里村久能	實業
（蛭田改）平松白民	東京大森區雪ヶ谷町九二二	警視廳保安部建築課
山田要	八生村大竹	農業
丸才司	滿洲國哈爾賓市郵政街十六號	滿洲國哈爾賓北滿特別高等檢察廳次長
清水長陽		
山田進	公津村八代	實業
福島照瑞	八街不動院内	僧侶
竹尾弐	八生村大竹	研究室麴町區内幸町一
日暮與一	東京市日本橋區通二ノ四日本橋ビル内日露通報社（電日本橋九〇・九八一）	幸ビル内春風倶樂部（電銀座四四六四）
大木顯一郎	中郷村金山	千葉縣農會技師
藤崎鑽	中郷村芦田	實業
稲川義雄	朝鮮全羅南道光洲須奇屋町一五	全羅南道廳農務課
長竹彦治郎	東京市王子區上十條一二六二	齒科醫師
大木健	成田町幸町	不動貯金銀行
椿利一	香取郡滑河町猿山	實業
出山博	成田町幸町四八二	農業
貝原塚豐	八生村山口	鐵道省東京鐵道局經理課
瀧澤誠	成田町幸町	實業
瓜生勘之丞	成田町幸町	實業
佐瀨旭	茨城縣結城町	八生小學校教師
田島俊一		鐘紡結城工場
（箕輪改）平澤平三	台北市古亭町二〇四	齒科醫師
（淺野改）椎名勝美	久住村小泉一〇九九	台灣台北高等學校助教授
多田喜平	公津村下方	久住東小學校教師
		實業

（宮内改）清宮忠雄	八生村松崎	實業	
石井順			
×三枝照光			

第十四回

（大正三年）（二拾八名）

岡部義磨	京都府中舞鶴海軍官舍丙第二號	舞鶴要港部々員經理部勤務海軍主計少佐	
三橋藤太郎		北海道苫小牧工業學校長	
木川浩逸	東京市下谷區上野櫻木町二三	東京同愛記念病院產婦人科醫學博士	
藤崎總三郎	遠山村東和田	大阪商船株式會社々員新嘉坡支店勤務	
小倉要	成田町寺台	成田町役場	
石井操	遠山村東和田	東京電燈株式會社茂原出張所	
戸村晋	山武郡千代田村大里七七	齒科醫師	
大木嘉平	中郷村赤荻一一二六	農業	
（齋藤改）茂手木篤三郎	茨城縣稻敷郡源清田	源清田小學學教師	
黒羽順教	京都市東山區本町五丁目	京都市社會課	
（吉岡改）大須賀清光	安食町須賀五二四	本埜小學校同補習學校教師	
萩原正雄	香取郡多古町飯笹	實業	
吉岡博	中郷村野毛平	台灣帝國大學理農學部助教授	
加藤浩		實業	
藤崎源一郎	遠山村東和田	多古第二小學校教師	
石井與四郎	山武郡千代田村大里	實業	
長谷川英吉	成田町上町	寫眞業	
（石橋改）加藤暢	印旛郡千代田村四ツ街道	川崎銀行富澤町支店	
齋藤健雄	東京市大森區新井宿四ノ一一三六	內務省東京土木出張所鬼怒川改修事務所	
京須芳雄	茨城縣結城郡佐城町田中新道	豐住小學校教師	
高柳榮三郎	豐住村南羽鳥	實業	
鈴木金侯	山武郡二川村高田	實業	
岩井儀太郎	印旛郡富里村大和	朝鮮總督府京城鐵道局技手京城管理局工務課	
片野純三	成田町田町	實業	
（秀之輔改）鈴木民治郎		小學校教師	
柳澤吉藏	成田町土屋九五四	成田中學校教諭兼書記	
榎田正己	成田町本町	醫師 東京州崎病院	
高安盈仁	東京市麻布區東町三八	麻布獸醫專門學校勤務	
大沼潔	安房郡西條村栗斗	僧侶	
若月義宏			

×丸善一			
×所晃一			

第十五回

（大正五年）（三拾五名）

（大木改）藤澤武雄	北海道利尻郡鬼脇村（電三九）	醫師 鬼脇病院長	
板倉誠			
（石井改）木村亮都	香取郡多古町多古	中村小學校長	
（大三川改）小川關次	安食町安食	千葉縣立佐倉中學校教諭	
湯淺健一	八生村松崎	實業	
藤崎穣	遠山村取香		
本田傳	香取郡佐原町諏訪下（電四二〇）	醫師	
（信一改）內田勝一郎	富里村兩國	實業	
（渡邊改）山口富吉	宮城縣牡鹿郡石巻市泉町一六	仙台遞信局海事官	
石川富士雄	東京市豐島區池袋町二ノ一一二七	富山房編輯部	
安達國一			
（小川改）八角彌	山武郡大總村木戸台	實業	
手島徹	山武郡千代田村朝倉	實業	
瀧澤榮一	中華民國上海仁記路三二號	古河電氣株式會社上海出張所	
河野八郎	八生村大竹	千葉縣產業組合學校主事（千葉市）	
秋葉一吉	山武郡蓮沼村二ノ四七三三	實業	
熊切儀一	横濱市鶴見區二九	醫師	
片野春吉	公津村下方	實業	
齋藤七司	富里村日吉倉	小學校教師	
（木內改）伊藤功	成田町上町	醫師 山內病院	
山內誠	成田町伸町	實業	
伊藤保次	成田町花咲町	實業	
（篠崎改）紺谷旭	公津村船形	實業	
小川吉之助	富里村日吉倉新田	農業	
鈴木治郎	香取郡多古町	實業	
池田喜一	白井町折立	官吏	
（鈴木改）萩原賢治	東京市本郷區駒林町一（團子坂上大通）	貴金屬眼鏡一式銀器製作	
宇賀近治	香取郡本大須賀村津富浦一一〇九	實業	
平山久一郎			
飯高多一郎			
×伊藤茂			

×戸村達郎			
×大竹茂			
×阿部良策			
×岩井平男			

第十六回（大正六年）（三拾七名）

秋山寅雄	銚子市清川町三ノ八三一（電七三一）	醫學博士秋山病院長（銚子）	
（照保改）諸岡市郎左衛門	成田町本町	實業	
（仲改）秋葉英世	富里村高野五六六	富里村役場	
齋藤陽一	東京市平塚町小山二二六	實業	
深山浩一	千葉市院内	大日本赤十字病院産婦人科醫局勤務醫學博士	
長竹達三	成田町花咲町	實業	
（能勢改）鵜澤邦藏	市川市眞間鉛田一六三	明治生命保險會社本所事務所主任	
神山雅一		日本電線株式會社	
竹尾剛		千葉縣立匝瑳中學校教諭	
内藤達夫		東京市千住小學校教師	
渡邊陸三			
地田義夫	富里村日吉倉	農業	
大嶋文吉	八生村押畑		
堀越誠	東京市大森區新井町新井五ノ一五二	齒科醫師	
（姉崎改）永田令藏	香取郡本大須賀村		
加藤久次郎	東京市赤坂區青山南町二ノ二六	三井鑛山株式會社々員東京本社	
（日暮改）湯浅彦治	横濱市鶴見區西二見台七一	鐵道省本省經理局	
檜垣達也	遠山村駒井野六八三	農業	
本多義	公津村北須賀	實業	
土井平重	公津村台方	實業	
青柳忍	安房郡大山村平塚常福寺	僧侶	
長谷川祐元	酒々井町伊篠新田	農業	
（多田改）森田元二	公津村北須賀	實業	
根本東海男	豊住村長沼	實業	
篠田欣吾	富里村高野	實業	
石橋健二	千葉市椿森一四二	陶藝	
土肥卓	茨城縣鹿島郡白鳥村中居		
方波見仲男	公津村船形	實業	
（鈴木改）櫻井斌敏	香取郡小御門村高倉	實業	
櫻井一郎			

（龍雄改）宇井常吉	成田町上町	酒類販賣業	
×堀田彌太郎			
×池田伊重郎			
×石橋保			
×小川斌			
×大木康			
×秋葉三省			

第十七回（大正七年）（三拾五名）

野平忠	東京市澁谷區櫻ヶ丘町五五	慶應義塾大學豫科教授	
西谷謙堂	東京市足立區與野町三七〇	スタンダード製靴株式會社	
飯塚忠	東京市澁谷區神泉町一一	東京市立葛飾病院副院長	
中野圭曦	津市丸ノ内殿方九九	三重縣師範學校教諭	
（山内改）高屋卯之助	東京市杉並町成宗一〇九	東京遞信局技手	
鈴木豐	成田町上町	醫學博士山内病院醫師	
清水東四郎	東京市中野區上高田一ノ二七四	著述業	
鈴木德治	日色四郎	奈良縣高京郡八木町	奈良縣立畝傍中學校教諭
神戸隆太郎	大阪市東淀川區三國本町一八五	東神倉庫株式會社々員	
後藤浩次	東京芝區新橋四ノ一	巖松堂書店	
（豐田改）小野寺謹悟	成田町本町	實業	
山田好助	甲府市水門町四	甲府運輸事務所勤務	
石井勝男	成田町田町	實業	
（越川改）松岡明	成田町寺臺	富里小學校教師	
伊藤七右衛門	久住村水掛	實業	
寺内保	成田町土屋二二三	成田中學校教諭	
田中藤治	山武郡千代田村菱田	實業	
小川總良	山武郡片貝町	實業	
古川廣	成田町土屋	千葉縣耕地整理課技手	
長谷川藤市	香取郡多古町	成田鐵道株式會社々員	
武士田胖	東京市本所區横綱一三	東京瓦斯株式會社々員	
實川和男	成田町成田八八九	成田信用組合	
（藤崎改）吉岡英亮	久住村大室		
安藤俊行	遠山村駒井野	實業	
伊藤文亮			

（林改）谷口一郎	東京市澁谷區金王七	第一生命保險株式會社々員	
宮原三郎	久住村大室	實業	
（藤崎改）神崎忍		實業	
鈴木茂喜	久住村土室		
（宍倉改）×木内貫一			
×吉田善四郎			
×高橋巖			
×土井規短藏			
×日暮輝雄			

第十八回

（大正八年）（三拾七名）

湯淺三吾	中華民國北平東單三條胡同三六號	株式會社三菱銀行々員本店勤務	
石川順		大阪毎日新聞特派員	
糸川平	久住村荒海	實業	
石橋正也	市川市市川新田一丶二六二	川崎貯蓄銀行五之橋支店	
葛生幸吉	安食町須賀	實業	
藤崎信助	東葛飾郡野田町上町七一九	株式會社野田商誘銀行	
林正雄	成田町花咲町	東京高等獸醫學校講師	
（澤田改）平井武	大阪府下豐中日本生命寄宿舍	日本生命保險株式會社會計課	
（小川改）長坂了介	香取郡滑河	滑河小學校教師	
（廣瀨改）鈴木光亮	木下町竹袋一四四五	千葉縣立印旛實業學校教諭	
石橋孝三郎	成田町田町三一七	實業	
丸善衛	公津村下方		
福田直四郎	成田町奥山	成田參光協會	
（藤崎改）飯泉隆二郎	成田町本町	實業	
（日暮改）山内貞	成田町砂田	成田高等女學校教諭	
（池田改）山田春之助	八生村山口		
伊藤公平	千葉市西池上	千葉縣女子師範學校教諭	
椎名操	香取郡本大須賀村前林	小學校教師	
小川太郎	茨城縣久慈郡大子町	鐵道省水戸保線事務所技手茨城縣大子驛勤務	
大三川弘之	香取郡多古町飯笹	千葉縣共榮無盡會社專務取締役	
瀧澤德治	東京市中野區新井町五七五	東京鐵道局	

小倉仁	成田町寺台	接骨醫	
猪瀨堯澄	永治村和泉八五三	永治小學校教師	
武藤行敬	遠山村三里塚		
山崎信男	久住村磯部四七二	同上會社員	
檜垣省吾	京都市外向日町驛東ライヂングサン石油株式會社々宅		
四宮操			
吉川巖	遠山村川栗	農業	
神崎俊之助	酒々井町上岩橋二八八		
相原理三郎	富里村高野	實業	
石橋進	中郷村新妻		
伊藤源右			
×湯淺武之助			
×千脇晟			
×篠原岩次郎			
×根本新一			
×香取舜治			

第十九回

（大正九年）（三拾四名）

鷸田郁次郎	東京市葛飾區奥戸町高沙	京成電軌會社技師	
深山陽			
（若命改）岡本富郎	靜岡縣西遠町	西遠高等女學校長	
岩立源一郎	香取郡滑河町大菅三七五	千葉合同銀行々員成田支店勤務	
高橋勇雄	公津村北須賀	實業	
加藤武夫	成田町土屋三四	海軍大學校機關科學生	
山崎一雄	成田町幸町四六一	醫師	
鈴木藤吉	成田町上町	醫師　成田醫院	
木内芳雄	成田町田町三二四	實業	
大野龜之助	酒々井町酒々井一七六四		
宮崎廣則	成田町鄉部一四七	神官	
藤崎章	東京市世田ヶ谷區代田大原一〇七		
伊藤豐	五茨城縣麻生町	醫師	
（小川改）中臺俊一	酒々井町新堀	實業	
竹村秀壽	成田町谷津	齒科醫師	
下村好一	東京市赤坂區永川町一七		
石井權之尉	遠山村畑ヶ田四〇二	農業	
石井庄平	酒々井町岩橋八〇七	實業	
萩原英一	千葉市千葉驛前	齒科醫師	
（甲田改）小倉與一	成田町花咲町	實業	

千葉實乘	神奈川縣小田原町新國町二	神奈川縣立小田原高等女學校教諭
林稜二	八生村押畑	實業
石井美雄	富里村根木名七五〇	實業
山崎守	木下町小林二四七九	實業
竹村利雄	富里村七榮	大森小學校教師
（篠崎改）稲村忠雄	東葛飾郡葛飾町西海神四九三	安田貯蓄銀行々員田嶋町支店（東京）
（大貫平吉改）吉江淨光		
磯山儀一	公津村台方二二一	實業
寺内五市	中郷村赤荻一一八四	實業
藤崎慶司	成田町幸町三九七	齒科醫師
飯田榮亮	香取郡本大須賀村新田三一五	實業
×阿部規矩治		
×吉岡彰		
×平山榮昌	香取郡多古町間倉	

第二十回

（大正十年）（三拾六名）

（萩原改）泉野良作	堺市材木町西一丁目二二	大阪市住吉區阿倍野筋株式會社鹿島組支店
（青柳改）高田定吉	成田町成田圖書館々舍	成田圖書館司書
安達一郎	遠山村小菅八九二	
齋藤光治	成田町成田八三九	
（松岡改）日暮勝重	成田町砂田	富里小學校教師
鈴木徐人		千葉縣立山武實科高等女學校教諭
高野照典	成田町土屋高野千代松方帝國軍艦盤手乘組（佐世保）	海軍機關大尉
（大宮改）森竹雄		
菅澤英	富里村新橋	實業
松田照應		
内藤榮	横濱市野毛山	僧侶
和田英	成田山延命院	全院主任
大貫定吉	茨城縣稻敷郡金江津	實業
泉瑞敏正	酒々井町上岩橋	小學校教師
小倉良太郎	安食町安食	官吏
椎名永良	夷隅郡古澤村桑田	
小海川昌則	八生村寶田一九六四	農業
	安食町龍角寺	小學校教師
手島英	盛岡市吳服町	日本動産保險株式會社
秋山榮吉	日本動産出張所	盛岡出張所勤務
齋藤貞雄	八生村押畑	遠山小學校教師
	佐倉町田町	實業

萩原道三	安食町酒直	實業
後藤愼平	香取郡高村室原三五	實業
山崎信夫	公津村台方二七七	八生小學校教師
磯山宣	酒々井町上岩橋	實業
福田登		
藤崎巖	中郷村赤荻一〇八八	農業
寺内彌茂	成田町上町	實業
宇井聖	北海道增毛町	實業
（石川改）山本秀雄	公津村下方	實業
丸善兵	久住村大室七七五	農業
山倉文雄	成田町仲町三六一	實業
關川雅司	成田町寺台	接骨醫
小倉桂	東京市葛飾區本田町篠原三一八	小學校教師
小川勳	福島縣安達郡與應近町一ノ四〇八	官吏
永山敬榮		
×原義雄		

第二十一回

（大正十一年）（三拾八名）

大島仁	市川市市川新田一五〇	醫學博士東京帝國大學醫學部附屬醫院分院内科
竹村猛壽	東京市赤坂區青山南町五ノ二一	醫師
石橋廣吉	香取郡滑河町西大須賀九九四	竹村小兒科醫院
（榎田改）羽方章	秋田縣角館町新町	秋田縣立角館中學校教諭
平山諦	成田町荏柴町三四五	東北大學理學部大學院學生
關谷重雄	公津村大袋	實業
淺井義一	東京市世田ヶ谷區玉川奥澤町二ノ五九七	不動貯金銀行々員東京乃木坂支店勤務
島村治助	海上郡銚子町新生通イノ七〇（電二五六）	銚子合資會社勝味屋本店
太田家倚	公津村船形八二六	成田小學校教師
飯高治夫	山武郡二川村牧野一二六	富里小學校教師
（岩澤改）湯淺丈夫		
藤崎昇	八生村松崎	實業
	和田村來戸二二六	農業
（埜平改）岩澤統一	中郷村西泉一三一	近海郵船株式會社
岩澤多門	遠山村取香二一	實業
小林博	成田町幸町四七八	實業
高橋清	東村市杉並區高圓寺六ノ七四一	鐵道省
（相川改）坂田己一郎	富里村七榮	酒々井小學校教師

（安正改）關川博道	成田町上町五〇三	千葉醫大附屬醫院高橋外科	
（木内改）中原正夫	東京市麻布區飯倉五ノ二九	日本火災保險株式會社	
渡邊三郎	成田町成田四二五	公津小學校教師	
桑原啓次郎	安食町安食三七〇五	成田小學校教師	
（伊藤改）寺本巖	八生村實田一一五〇		
本多己代治	遠山村駒井野六八三	不動貯金銀行々員	
諸岡一次	東京市淀橋區柏木九七六	兩國支店勤務	
藤崎勸司	海上郡飯岡二三〇三	飯岡小學校教師	
石木晃	神奈川縣縣山町一色一八一九	西浦小學校教師（神奈川縣三浦郡）	
丸山正臣	椿太眞岡上町	眞岡第二小學校教師（椿太眞岡郡）	
萩原喜知太郎	豐住村北羽鳥二一七一	實業	
湯淚八郎	八生村大竹		
山田恕	フイ業ツピンバンカス州ダバオカクレナ耕地		
加藤北二郎	朝鮮慶尙北道尙州郡南州邑	尙州砂防事務所勤務	
伊能春夫	山武郡二川村新井田新田一五九	農業	
吉岡順	千葉市吾妻町一ノ一二五七	兩國驛勤務	
吉田義法	成田町花咲町三二三	實業	
竹田正吉			
×加藤曉治			
×根本五郎			
（根本改）×芝山克己			

第二十二回

（大正十二年）（三拾八名）

（應切改）馬場修二	東京市牛込區矢來町三七電牛込四八九一	東京帝國大學醫學部藥理學教室	
檜垣兼三	久住村磯邊	小御門農學校教諭	
戶村照學	北海道稚內田實來通五丁目	北海道廳立稚內中學校教諭	
三門健一	木下町竹袋	成田中學校教諭	
小泉國衞	成田町伸町三七六	千葉合同銀行本店	
三橋監物	成田町伸町三六	東京帝國大學醫學部藥學科化學教室	
大塚謹三	成田町田町	鍋店株式會社	
石井假男	山武郡千代田村大里一四八	小學校教師	
山口忠	八生村押畑七七	東京市本所區役所	
大須賀誠	東京市豐島區駒込町四ノ七	南津興業株式會社（麹町區山下町）	
香取利雄	久住村輔谷一二九二	成田小學校教師	

（小川改）香取忠裕	久住村輔谷	實業	
加藤文一	成田町土屋三四	實業	
石橋三郎	東京市豐島區駒込町六ノ八四七	東京市役所	
多田清	公津村下方九一	實業	
長澤博	大阪市東區京橋三丁目大林組設計部	大林組本店設計部	
鈴木三郎	公津村船形	實業	
松崎正重	小樽市潮見台町一三	量德女子小學校教師	
平山正夫	香取郡多古町間倉三〇九	實業	
新村新助	東京市瀧野川區田端新町三ノ一二〇	協和國產自動車株式會社	
原公	酒々井町中川	佐倉小學校教師	
島照康	成田町花咲町	宗教師	
（青柳改）大木信雄	成田町鄕部四八八	成田山十善布教會館	
篠原幸次郎	東京吾嬬町六八三小松井	成田小學校教師	
平山祝	滑河町西大須賀	中川小學校教師	
（渡邊改）飯塚泰亮	中鄕村東食山二五六	成田小學校教師	
小川重雄	遠山村山之作	農業	
石川明		實業	
平山幸一	香取郡多古町多古二六二	農業	
竹尾隆	酒々井町下岩橋一四九	實業	
石渡四郎	山武郡南鄕村上橫地一	遞信省官吏	
石山堯	新田一九四	農業	
鈴木平	公津村船形		
×齋藤操			
×篠崎操			
×片岡勇			
×桑名善雄			
×大澤鱚太郎			

第二十三回

（大正十三年）（三拾四名）

藤崎浦治	成田町上町	三井銀行々員上前津支店勤務	
水野岩雄			
牧野佐次郎		北海道帝國大學理學部動物學教室助手	
遠藤與惣次	北海道函館市仲濱町日露漁業株式會社內	同上會社員	
加藤韓三	朝鮮京城府三坂通七六	朝鮮總督府遞信局電氣課技手	
山內康夫	成田町上町	實業	

渡邊進一	朝鮮木海府大和町二ノ一	朝鮮總督府遞信局木浦海事出張所勤務	
土屋清	山武郡二川村大字	二川小學校教師	
篠田光治	茨城縣稻敷郡金江津村		
神崎謙三	滿洲國營口北本街	滿洲國海邊警察隊	
岩內貫	遠山村東和田	警視廳巡査	
加藤岡武	成田町幸町	千葉縣運輸事務所車掌	
行方喜一	成田町本町	新勝寺事務員	
木內基治	香取郡滑川町	實業	
林貞一	八街町住野	實業	
高橋忠司	公津村北須賀二七八	實業	
佐藤寬	東京市玉子區上十條七二	商工省時計局調査課	
武田有信（末壽雄改）	八生村新田		
鳴田滿	富里村中澤	千葉運輸事務所	
藤崎正義			
吉川克己	山武郡千代田村朝倉		
手島寬	本埜村卜杭八七	千葉共榮無盡株式會社	
日暮秀明	大阪市此花區春日出町	農業	
小川貞助	中一ノ一東洋紡績社宅	同上會社技師	
伊藤清	富里村根木名		
青柳晴美	香取郡滑川町	實業	
佐伯忠夫	香取郡多古町飯笹	實業	
大三川雄啓	公津村下方	實業	
湯淺義雄	成田町寺台		
黑川富夫			
×諏訪原四郎			
×谷上勝太郎			
×三橋新			
×安達次郎			

第二十四回

（大正十四年）（四拾五名）

生駒靜雄	山武郡二川村牧野四二九	農業
伊藤馨	茨城縣麻生町	
伊藤汎	東京牛込區築土八幡町二六	財團法人軍人會館
石川虎之助（仁一郎改）	成田町木町三三五	醬油釀造業
石川豐	遠山村山ノ作一八七	東京工業大學應用學科內田研究室
湯淺亨（石田改）	安食町矢口	實業
石井雅衞	匝瑳郡野田村野手	齒科醫師
岡城寺次郎	公津村下方	中外商業新報經濟記者

林田武雄	秋田市川反町一ノ二	秋田縣女子師範學校教諭	
林清風	東京市大森區雪ヶ谷町六三	川崎第百銀行小山支店（東京）	
大友廣高	東京市世田ヶ谷區野澤町一ノ四〇	東京市第二日野小學校教師	
岡野秋夫	東京市荏原區中延町五三六荏原消防署內	荏原消防署	
大木丈夫	東京市中野區新井町四一八加藤方	株式會社三省堂書店學事課勤務	
渡邊市左衞門	成田町土屋	久住小學校教師	
金子忠治	千葉市南道場一五四二	千葉醫大研究生	
神崎廸太郎	茨城縣稻敷郡金江津村金江津四二五三	呉服商	
海保芳郎	久住村飯岡一九九	農業	
大場香苗（海保改）	濱松市平田町一一八	濱松淑德教諭	
神崎武夫	遠山村小菅一〇七七	農業	
勝又勝伊	東京市赤坂區青山北町三ノ六六山內方	東京遞信局遞信講習所教官、東京市立商業學校囑托	
高安愛之助	東京市江戸川區小岩町五ノ七五九	齒科醫師	
中村賢爾	白井村富塚八二二ノ一	酒類商	
內海門鷹	成田町幸町	實業	
山本愛	安食町安食三七八九		
山田彌	安食町安食一七五〇	養鷄業	
武士田讓	東京市江戸川區小岩町七ノ二七五	帝都製氷工業組合	
神戶剛	山縣爲三方市川市市川眞間鉛田一七五工藤方	三井生命保險株式會社	
寺內一郎	東京市淀橋區柏木町一ノ八九昭和アパート	不動貯金銀行東京本店（電五九七六）	
寺內秀雄	成田町圍護台	東京電燈株式會社成田出張所	
淺井銳次	東京市杉並區阿佐ヶ谷一ノ八五六	不動貯金銀行々員東京兩國勤務電本所一一六六	
秋山虎一	富里村根木名	農業	
櫻井泰	遠山村山之作二四八	六合小學校教師	
木內野々宮浩（木內改）	安食町安食三四八七	荒物商	
湯淺栽樹	成田町土屋	東京電燈株式會社木下支社	
宮內喜夫	安食町矢口二三八七	實業	
清水文治	東京市澁谷區幡ヶ谷笹塚二七三（電四谷六五四〇）	東京瓦斯株式會社	
新橋重三	成田町上町	天理教々師	
關川安世	東京市豐島區池袋七ノ二二九〇	鐵道省新宿驛	
清宮博	成田町上町五〇三	千葉醫科大學附屬醫院佐々內科	
	八生村松崎二〇三八	實業	

×海瀬健爾		
×高川俊夫		
×田中純一郎		
×淺井隆		
×相田重義		

第二十五回（大正十五年）（四拾五名）

石橋浩	東京市中野區野方町二ノ一五〇五	東京市赤坂區役所
（池田改）丸芳洋	公津村下方	實業
磯部貢	久住村大室三八一	薪炭材木商
（石橋改）増田與七		絲海小學校教師
石井昌治	山武郡千代田村菱田一二〇一	農業
萩原章	山武郡千代田村大里	農業
大竹清	香取郡大須賀村前林	齒科醫師
大木晋一郎	中郷村赤萩	
大木得三	東京市京橋區月島東仲町四ノ一三	實業
大久保貞治	安食町安食	商業
小川茂	長野縣松本市片倉製絲紡績株式會社內	同上會社員
小海川重雄	名古屋市南區大江町豐國セメント株式會社內	豐里小學校教師（香取郡）
小川進		同上名古屋工場
大須賀信乃	東京市麻希區材木町四八	板倉事務所
海保三千三	成田町花咲町牛作	東京鐵道局千葉運輸事務所
金澤俊亮	茨城縣稻敷郡金江津村平川	小學校教師
加藤正則	長生郡茂原町二三五	東京電燈株式會社茂原出張所
田村義教	房州吉尾村細野照善寺內	僧侶照善寺住職
塚本克己	香取郡滑川町西大須賀	小御門小學校教師（香取郡）
（根本改）高見菊次	香取郡小御門村名古屋	高岡小學校教師（香取郡）
中村一	東京市世田ケ谷區奥澤町一ノ三三七	東京中目黒小學校教師
村山信次	長生郡一松村丙一〇四八	南白亀小學校教師（長生郡）
内田榮	公津村宗吾	實業
黒田正信	山武郡千代田村	實業
久保田潔	香取郡多古町	醫師
山崎博	成田町本町五九五	新勝寺事務員
	東京市丸ノ内東京日日新聞社內	同上社員

山田一雄	東京市牛込區市ケ谷富久町一三八	官吏
丸三郎	東葛飾郡葛飾町小栗原六四	司法省刑事局
松本重雄	東京市目黒區向原町二一二	警視廳巡査芝愛宕署
福田廣	安食町安食	木下小學校教師
藤崎廣夫	遠山村駒井野	川崎第百銀行佐原支店
藤崎傳	東京府下大嶋町一丁目一一二藤崎方	東京市役所
佐久間誠一	豐住村北羽鳥	農業
佐藤智雄	香取郡大須賀村	安食小學校教師
齋藤仲次	群馬縣高崎市大橋町一二	高崎高等女學校教諭
吉祥照芳	成田町田町	新勝寺僧侶
密嶋和一	公津村宗吾	公津小學校教師
平山岩雄	香取郡多古町	
森谷善正	安房郡鴨川神藏寺	神藏寺住職
（藤改）諸岡延和	成田町田町	文房具商
（鈴木改）神貫照澄	北海道函館市松風町三〇函館成田山住職	僧侶
諏訪原貞夫	成田町	實業
三橋誠一		農林省横濱生絲檢査所
×川嶋千秋		

第二十六回（昭和二年）（四拾八名）

石井竹松	六合村瀬戸	宗像小學校教師
石井章	富里村	
今關忠三	成田町鍋店株式會社本店內	同上店員
伊藤倉三	遠山村	
伊井與助	豐住村龍台	實業
石井三郎	東京市芝區田村町五ノ四ノ五（電芝五三二一）アンドカード容器商會	實業
幡谷有吉	香取郡多古町五辻驛前	同上商會經營
萩原治房		實業
郡司辰二	東京市本郷區弓町一ノ一	齒科醫師
山室勝身	東京市目黒區芳窪町一〇三四	麻布聯隊區司令部
山崎巖	香取郡良文村久保一一六〇	良文小學校教師（香取郡）
福田茂重郎		
後藤愛	八生村公津新田	實業
後藤重司	安食町酒直	實業
芦田菊次郎	成田町花咲町	實業

秋山禎康	中郷村赤荻一〇〇五ノ一	成田小學校教師	
（秋山改）梶正	大阪市西成區新開通四丁目二十八	梶芳合名會社市内販賣部	
南井重雄	東京市城東區亀井戸町	水神小學校同夜學校教師（亀井戸）	
實川賢雄	成田町不動ヶ岡二〇三一	成田中學校助手	
清水定雄	香取郡多古町	齒科醫師	
平野新藏	東京市江戸川區逆井二ノ二四六	安田貯金銀行本所支店	
泉水淳	公津村		
鈴木善照	東京隅田公園東京帝大製庫	東京帝國大學々生	
萬來親	成田町成田八一〇	鐵道從事員	
大木賢三	成田町鄕部二四七	成田町役場	
（小倉改）山崎敏夫	公津村北須賀	實業	
小川德英	山武郡千代田村岩山	農業	
大見川正		三重縣土木技手津土木出張所勤務	
小川政已	中郷村東金山	實業	
渡邊操	成田町土屋	千葉縣土木部耕地整理課本埜村水利改良事務所勤務	
高橋健吉	東京市京橋區銀座三ノ四	大倉土木株式會社	
渡邊昇司	香取郡滑川町西大須賀	實業	
（吉岡改）小川一二	八生村實田	中郷小學校教師	
高橋忠	東京市杉並區高圓寺六ノ七四一	鐵道省監督局	
武田利良	東京市品川區南濱川町一八九二	小學校教師	
武田豐	八生村	實業	
（利一改）瀧澤德次郎	成田町上町五一三	酒造業	
村田榮量	埼玉縣比企郡西吉見村御所		
上野頼榮	福島縣石城郡赤井村常福寺	常福寺執事	
葛生幸常		横濱市役所勤務	
×石橋瑞穗			
×大野正			
×横田四郎			
×鵜澤廣吉			
×清宮清介			
×吉岡俊夫			
×高橋重雄			
×多田實			

第二十七回

（昭和三年）（三拾九名）

石井保	遠山村東和田	實業	
石川薫	遠山村山ノ作	實業	
飯田清太郎	香取郡滑川町西大須賀一一	雜貨商	
磯山茂	東京市赤坂區青山北町四ノ七 須原齒科醫院内	齒科醫須原齒科醫院	
（岩館改）黒田英亮	千葉市寒川一二四一		
林俊吾	八生村押畑	農業	
堀井克已	香取郡小御門	實業	
富澤章治	香取郡滑川	實業	
戸村正作	遠山村三里塚	農業	
（小川改）巽賈	公津村北須賀	實業	
小川英一	中郷村東金山	農業	
小川晃	中郷村東金山	實業	
小倉信輔	酒々井町驛前	運送倉庫業	
大須賀仁	静岡縣安東町一ノ三八下川方	静岡縣蚕業課農林技手	
（大竹改）北崎久直	香取郡本大須賀村前林	實業	
大野政治	成田町本町五三八	新更會書記	
大竹憲司	東葛飾郡野田町總武鐵道株式會社内	同上會社	
川村三郎	門司市丸山一丁目川邊方	門司税關員官房	
香取不二夫	久住村幡谷	兵役	
根本甚三	豐住村龍台	實業	
中村三樹	東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ七九九	日本大學醫學科生	
黒川正雄	棒太敷香郡敷香町上敷香本通リ二ノ一八	接骨醫	
矢萩俊一郎	安食町矢口一五三	農業	
福田一太郎	茨城縣稻敷郡金江津村四〇四	實業	
藤崎光治	東京市神田區小川町一ノ八		
小窪仁	安食		
寺内賢治	成田町本町		
（秋葉改）西海武夫	久住村水掛		
（青柳改）細川亮	公津村下方		
齋藤吉三	東京市江戸川區小岩町二ノ三五八〇 西村商店		
木川忠	山武郡二川村大台		
平間輝雄	大阪市住吉區我孫子町二二二		
手賀小學校教師（東葛飾郡）			
早稲田大學々生			
久住小學校教師			
船穂小學校教師			
同上店員			
實業	大阪鐵道同天王寺驛		

日暮眞	本埜村卜杭	
砂山謙一	大阪市住吉區田邊東之町七ノ八	日本人絹染色聯合大阪堂嶋株式會社々員
鈴木準一	東京市豐島區巢鴨六ノ一二五〇	大日本弓道會事務員
×堀川和		
×武藤文哉		
×山田勳		
×佐藤芳雄		

第二十八回

（昭和四年）（六拾二名）

伊藤武雄	遠山駒井野	南洋渡航中
伊藤久四郎	安食町	中央大學々生
池田大輔	成田町上町	齒科醫師
（石橋改）谷白	萩原齒科醫院內	齒科醫師
飯塚金次	公津村臺方二八六	商業
細野彰	東京市足立區與野町三七〇	
細矢三郎	東京市荒川區日暮里町二ノ一四井關方	警視廳巡査部長
戸塚四一郎	船橋町五日市一六八	下谷坂本署勤務
戸村一作	遠山村三里塚	千葉車掌所兩國支所
		商業
土井平治	公津村北須賀四六八	繭絲商
小川利明	中郷村東金山	實業
小川貞雄	成田町土屋	新更會書記
小川茂	東京市本所區亀澤町四ノ八	日本大學工學部電氣科
小倉格司	成田町花咲町八一六	倉庫業運送取扱業
小澤文治郎	成田町論田	時事新報社
若海登	千葉市東院內一四八六	千葉運輸事務所車掌
金子孝道	中郷村芦田八九九	農業
川崎茂	東京市目黑幟重兵第一大隊第一中隊幹候班	兵役
吉田松年	成田町砂田	鐵道驛員船橋驛勤務
谷貞悟	公津村臺方	農業
高橋熏	公津村北須賀	實業
高橋亥年生	成田町上町	拓殖大學々生
瀧澤昇	成田町幸町四九四	實業
高橋浩	千葉郡更科	實業
根本誠	東京市芝區西久保巴町三二	同商會員
鵜澤幸雄	東京日ノ出商會內	二川小學校教師
大野孝	山武郡千代田村菱田九九〇	東京エレベータ會社
大澤新吾	安食町	
	朝鮮慶尙北道尙州警察署	

大木春基	島根縣立島根中學校教諭	
大木一夫	中郷村赤萩	實業
大島卓	東京市京橋區二ノ五ノ四三橋礎雄方	日米ラヂオ商會技術部
山田保		
松田清源	成田町本町	弘前高等學校學生
藤崎末夫		
古郷清	東京市澁谷區元廣尾町二七大塲方	警視廳巡査
小柳謙二	東京市小石川區關口町水道町五〇吾小民果物店內	
笹川克己	山武郡千代田村大里	實業
寺內良則	大阪市三島郡高槻町芥川三五鐘紡高槻工場內	高槻絹絲工場
木村秀明	香取郡小御門	
木內憲一	東京市淀橋區戸塚町三ノ八九一	日本放送協會送技術局工務部勤務
木內喜久雄	成田町仲町電二一〇	
木內季男	成田町寺臺	
宮內德次郎	茨城縣鹿島郡波崎町	實業
宮本庫二	八街町西林	飲食店
諸岡新一	成田町本町	小學校教師（八街町交進）
		早稲田大學々生
篠田惣壽	東京市麴町區竹平町三番地八ノ四八號	
諸岡胖	電丸ノ內三三番九五〇番	
關川順道	東京市江戸川區小岩五ノ三五	
諏訪原民雄	成田町上町	
菅孝一	八生村山口	
菅谷嘉夫	遠山村三里塚	
鈴木順吉	東京市谷中初音町四ノ一六六相本家具店內	
鈴木照汎	東京市江戸川區小岩町四ノ二〇三五	
×羽入一男	東京市京橋區木挽町六ノ四西野製作所內（電話銀座局二七九）	
×萩本和	東京市本所區大平町二ノ八	
×高橋仁		
×大木勤吾		
×山田正美		
×山崎盛一		
×丸要		
×平野伸次		
×鈴木覺		

第二十九回（昭和五年）（四拾八名）

飯田四郎三郎	香取郡滑河町	佐原小學校教師（香取郡）
伊藤正治	岡崎市日名町レーヨン社宅クラブ	日本レイヨン株式會社宇治工場
岩館正美	東京市小石川區白山前町六城戸又三郎方	小見川小學校教師
岩澤善一郎	東京市世田ケ谷區下馬町三ノ四七六	內閣調査局
稻垣昌則	成田町寺臺	實業
（石原改）湯淺登	八生村松崎二〇四二	菓子玩具卸商
石橋芳郎	横濱市中區西戸部町八三〇	農林省生糸檢査所（横濱）
石橋武四郎	神尾清方	大同學院學生
堀井信義		埼玉縣立浦和中學校教諭
豊田利郎	朝鮮京城府光熙町一ノ二一八	朝鮮總督府電氣局工務課
小野幸	三谷方	明治大學卒業
加藤進	成田町砂田二四八ノ一	東京市財務局收納課
加勢和	埼玉縣入間郡高麗村梅原	警視廳巡査四ツ谷警察署
勝又康	成田町田町	小學校教師
高橋孝	公津村宗吾	實業
田中昇	成田町成田三七〇	東京商科大學々生
根本正二	豐住村南羽鳥	實業
根本寛	佐倉歩兵第五十七聯隊二ノ二	兵役
成瀨和	東京市目黒區下目黒一ノ七八	蓄音器商會
中路敬一	東京市小石川區上富坂町二三 太田館	不動貯金銀行白山支店
中山芳久	千葉市寒川九四九	農業
武藤時哉	永治村和泉八五三	農業
大木忠七	中郷村赤荻	農業
大木七繼	中郷村赤荻	農業
大島良一	八生村押畑	成田小學校教師
山田勇	八生村大竹	實業
山田武夫	東京市中野區野方町上沼袋五八一	日本大學々生
山岸林三郎	東京市杉並區方南町二八三	八都小學校教師（香取）
藤崎健造	茨城縣稻敷郡金江津村金江津	實業
福田茂	山武郡千代田村朝倉	農業
手島正爾	東京市淀橋區角筈三ノ二四一貝塚方	實業
出山誠一		

相川長	香取郡高岡村高岡	物理學校學生
秋葉忠	東京市麹町區五番町一八勝村方	東京地方裁判所檢事局
秋山健夫		片貝小學校教師
齋藤一郎	東京市赤坂區一ツ木町八九 市川方	實業
佐藤寅吉	成田町花咲町	實業
佐瀨卓	八生村上福田	實業
三橋廣	富里村日吉倉	
光本照元	公津村大袋三〇七	東勝寺僧侶
椎野齋	茨城縣稻敷郡高田村桑山	實業
篠原重明	富里村中澤	農業
森田敏雄	朝鮮咸鏡北道阿山憲兵分隊	兵役
×大木市正		
×山田正元		
×椎名勤		
×丸健		
×諸岡武		
池田五郎	富里村日吉倉	實業
石井秀雄	布鎌村南一五六	農業
石川英一	遠山村山ノ作	實業
石原文雄	成田町不動ヶ岡二〇二八	
石原斌	東京市淺草區北清島町一三 村田方	東京市淺草區役所
岩井正夫	大森町亀成	實業
萩原貢	東京市日本橋區久松町一五 羽生方	日本大學醫科學生
土井茂材	六合村吉倉	上智大學文學部大學院
土肥輝雄	東京市小石川區久堅町三二 志田方	英吉利文學研究室
岡野小市	安食町北邊田	東京高等師範學校學生
小川信雄	赤羽工兵第一大隊	實業
小川源衛	佐倉歩兵第五七聯隊第一中隊	兵役
小川三郎		兵役中
小川源之助	公津村北須賀	司法大臣官房保護課
川崎英利	公津村八代	實業
神崎純一	成田町成田二四三	海軍志願兵
加瀨充雄		早稲田高等學院學生
多田政司	八生村松崎二五八九	東京中央電氣製作所
瀧澤清	成田町上町五一三	本埜小學校教師
		實業

第三十回（昭和六年）（五拾五名）

飯田實	香取郡滑川町西大須賀八四四	和協信用販賣購買組合（滑川町）

武田敏夫	公津村大袋	實業
竹尾潮	八生村大竹	國學院大學高等師範部學生
竹村安央	東京市澁谷區常盤松町廿六	兵役
村島久四	南滿洲海城野戰重砲兵第九聯隊四ノ五	
鵜澤虎雄	中郷村赤荻	實業
山口一	香取郡多古町喜多川平克藏方	
山田皖士（文太郎改）	東京市澁谷區中通二ノ六	
山田章	八生村山口	小學校教師
山出衞	本大須賀村吉岡	實業
丸寛二	東京市小石川區表町一九〇井上家内	沖電氣株式會社々員
松田保	八生村松崎	兵役
藤崎忠一	安食町矢口	慶應義塾理財科學生
藤崎肇		
藤倉靜男	東京市小石川區表町一〇九成田中學同窓會寄宿舍	日本大學醫科學生
青野七衞	茨城縣稻敷郡金江津村金江津	
秋葉直次	支那天津日本租界福島街天津日報社内	
荒木武雄	安食町安食	弘前高等學校學生
秋山光雄	中郷村新妻	早稲田大學理工科學生
三枝清亮	成田町郷部	實業
齋藤秋次郎	布鎌村北	日本大學商科學生
佐藤棟太郎	香取郡多古町	實業
澤田良修	香取郡佐原町澤田嘉一郎方	店員
久古一	豐住村安西	兵役
三橋信	成田町田町	實業
三好義政	公津村大袋	
塩田重雄	東京市江戸川小岩町二ノ三ノ三江戸川病院	
椎名茂雄	香取郡小御門村長澤	
鳥照功	成田町土屋	實業
日暮充雄	本埜村安食卜杭	兵役
杉田清	成田町寺臺	白井村根小學校教師
鈴木映亮	中郷村西和泉四一	大興電氣株式會社（東京）
清宮信之助	東京市杉並區清水町二九石原貞三方（電芽場三一三一）	中郷小學校教師
×成毛敏夫		東京株式取引所
×小林清		
×相田秀夫		

第三十一回

（昭和七年）（五拾五名）

伊藤彰	安食町安食	東京麴町出張所勤務日本生命保險株式會社
飯田作藏	公津村成木新田	實業
石井芳雄	山武郡千代田村大里	東京市淺草區役所勤務
石井富明	遠山村畑ヶ田	實業
石井茂雄	千葉歩兵教導學校通信隊第六班	兵役
岩澤三男	中郷村新妻	成田圖書館事務員
岩館衞	遠山村久米	志津小學校教師
岩館正二	富里村兩國	兵役
內田啓二郎	山武郡千代田村岩山	日向小學校教師
小川茂	香取郡小見川町新町	千葉縣巡査小見川警察署
小川仁	山武郡二川村境	實業
小川正雄	成田町寺臺四一三	
小倉八郎	佐倉五十七隊第四班	兵役
大久保喜八郎	仙臺陸軍教導學校第二中隊	兵役
大木勝	銚子市富田町大政旅館内	東京電燈株式會社成田出張所勤務
川崎三彌	中郷村菅田	小學校教師
金子仁	横須賀重砲聯隊第五中隊第四班	早稲田高等工學校學生
加藤昌美	宇都宮市一條町三〇	兵役
小泉伊之助	市田良平方	早稲田高等學院學生
小出茂雄	東京市中野區打越四三中島三郎方	朝鮮京城遞信分掌局工事課勤務
駒林清一	京城府旭町一丁目一一〇寶田方	本埜小學校教師
後藤敬止	布鎌村脇川	國學院大學々生
塩田林太郎	東京市中野區新井町二六一大木豊方	東京高等獸醫學校學生
櫻井芳雄	東京市麻布區本村町一七七高野方	東京高等商船學校學生
清水文康	深川越中崎東京高等商船學校	實業
鈴木福雄	成田町花咲町	僧侶
菅澤忠男	公津村宗吾東勝寺	東京市役所
田中照完	東京市中野區昭和通リ二ノ五新昌閣内	千葉縣耕地課出張所
田谷秀雄	夷隅郡大原町北町萬屋書店内	兵役
高木善明	習志野騎兵第十六聯隊二ノ四	中郷信用組合
武田健	成田町土屋	
野々宮茂毅		

武田武雄	四街道野戰重砲第四中隊	兵役	
寺內三郎	神戸市下山手六丁目九九 宮哲夫方	加藤合名會社	
長谷川秀吉	成田町仲町（電話成田五番）	實業	
長谷川正道	東京神田區美土代町一ノ八 合資會社美術工藝會內	同上會社代表者	
長谷川能通	京城府黃金町四ノ二三九	朝鮮總督府遞信局貯金管理所	
長谷川勝司	成田町土屋	實業	
林田實	富里村新澤	農業	
萩原儀助	山武郡千代田村菱田	多古第一小學校教師（香取郡）	
萩原孝	東京市本所區綿糸町二ノ二 野口義雄方	日本大學商科學生	
原正計	富里村中澤	實業	
日暮靜	成田町本町（電一二三）	實業	
藤崎昌良	富里村中澤	農業	
藤田知義	東京市麹町區富士見町二ノ一六 高島方	千葉保線事務所	
松田正夫	香取郡高岡村	實業	
三池豐	成田町仲町	實業	
三橋清	富里村日吉倉	實業	
矢村文雄	公津村宗吾	志津小學校教師	

× ×

諸岡信吾	東京市小石川區表町一〇九 成田中學同窓會寄宿舍	日本大學工科豫科學生	
山崎昇平	東京市世田ヶ谷區世田ヶ谷三ノ三五一 西野喜一方	東京市役所	
湯淺重雄	横須賀海軍工機學校第一分隊	海軍機關兵	
蕨愛	公津村八代	實業	
×土井義邦			
×林光夫			

第三十二回（昭和八年）（五拾六名）

伊藤市郎	成田町上町五一八	實業	
伊藤衞	東京市小石川區大塚坂下町八八 小川留三方	東京芝浦製作所員	
五十嵐貫治	香取郡多古町多古	實業	
石井勝衞	富里村根古名七四二	農業	
石井實	滿洲國奉天省關東軍獨立飛行隊	兵役	
石井一良	東京市江戸川區小岩町二ノ三一五六	馬橋小學校教師	
石井秀雄	六合村萩原五四〇	農業	
石川一成	東京市赤坂區青山南町二ノ七三		
石橋一太郎	安食町龍角寺	兵役	

幡谷千尋	川崎市池田町六二一	川崎乘合自動車株式會社	
林五三郎	舟山久藏方 八生村押畑		
林田秀雄	千葉師範學校二部寄宿舍一ノ六	千葉師範學校二部學生	
吉岡茂	東京市江戸川區平井町二ノ八九六 中村方	實業	
吉岡巖	豐住村南羽鳥	鐵道職員	
谷民藏	東京市澁谷區千駄ヶ谷町五ノ八五三	千葉縣產業組合學校學生	
澁澤新介	東鐵新宿自修寮 成田町幸町四九四		
塚谷正能夫	東京府下立川町二四九〇 秋本光雄方	實業	
成毛利幾雄	中郷村東和泉	八街町實住小學校	
郡司佐兵衞	香取郡多古町島	實業	
山口宏明	遠山村馬場	兵役	
山本喜一	安食町安食	農業	
谷ヶ崎滿	滿洲國步兵五十七聯隊	早稲田高等學院學生	
小泉啓二	久住村成毛四〇五	農業	
藤田勇	東京市日本橋區本町四ノ一四 久古方	早稲田高等學院學生	
遠藤武男	東京市世ヶ谷區下馬町二ノ九四八 吉野方	東京高等獸醫學校學生	
青柳安正	香取郡滑川町滑川		
青野延良	茨城縣稻敷郡金江津村金江津	滿洲國新京南嶺板花部隊中西中隊第三內務班	
豐田正三	成田町幸四町八六	東京合同運送會社	
土井良輔	成田町 諸岡市郎左衞門商店方	實業	
小川武夫	中郷村東金山	實業	
小川健司	中郷村東金山	物理學校學生	
大口政司	東京市杉並區宿町	亞細亞航空機關學校	
大澤襄	帝國軍艦八雲第三分隊	兵役	
大見川好之	東京市足立區千住五ノ三〇 諏訪原辰藏方	早稲田大學商科學生	
蕨八郎右衞門	公津村八代	實業	
加藤信之	中郷村海老川	農業	
加藤弘	横濱市磯子町山王谷一〇二〇 安田金三方	横濱高等商工業學校學生	
河合定次	成田町花咲町電二〇九	商業	
荒木武雄	東京市小石川區表町一〇九 成田中學同窓會寄宿舍	早稲田大學學生	
佐久間榮一	成田町成田四二五	兵役	
澤田演男	中市村野毛平	實業	
木內武之助	北海道小高商寄宿舍	小樽高等商業學校學生	
三橋茂	成田町田町三〇三	慶應義塾商科學生	
宮內實	八生村大竹	農業	

塩田俊夫	市川市眞間寒室二六二飯田方	千葉高等園藝學校學生
篠原精一	富里村中澤	農業
篠原正三	中郷村關戸	物理學校學生
日暮茂	東京市澁谷區櫻ヶ丘町五五西谷方	海軍經理學校將校生徒
日暮正市	東京市京橋區小田原町三丁目	八生小學校教師
一鍬田芳郎	中郷村芦田	實業
菅沼仁兵衛	富里村中澤	東京帝國大學法科學生
諏訪原達衛	八生村山口七四〇	明治大學豫科學生
鈴木覺祐	中郷村西和泉	
江森巳之助	成田町本町	
鈴木一		
×萩原轍郎		

第三十三回（昭和九年）（四拾九名）

安達三郎	遠山村小菅	成城高等學校學生
淺井武男	東京市小石川區大塚町七一片野三郎方	早稲田大學商科專門部學生
石井俊次	滿洲國公主嶺第一中隊	兵役
石橋八郎	公津村下方	農業
岩澤七郎	山村郡千代田村岩山	農業
糸賀次郎	茨城縣稲敷郡金江津村	名古屋高等商業學校學生
萩原英雄	豐住村北羽鳥	早稲田高等學院
小高辰夫	久住村飯岡	青山師範學生
海保活郎	八生村大竹	農業
加藤晴芳	中郷村海老川	實業
加藤晴己	銚子市末廣町二丁目	
香取茂	高櫻庄次郎方	商業
河合成訓	成田町成田四九七	
久保庭俊男	成田町郷部	東京商科大學專門部學生
小林市郎	八王子市横山町三六一久保木方	
小林重一郎	市川市眞間	市川市眞間小學校教師
小關義信	富里村立澤	實業
五木田紀一郎	八生村押畑	成田自動車會社々員
櫻井定一		廣島高等師範學校學生
澤田吉藏	中郷村野毛平	實業
澤田榮稔	四ツ街道野戰重砲第四聯隊五ノ三	兵役中
新橋隆雄	福島市外清水村福島高等商業學校	福島高等商業學校學生
宍倉精一	信夫寮四〇香取郡滑町源田	實業

竹本信夫	公津村宗吾	早稲田專門部商科
寺島誠一	千葉師範學校二部寄宿舍	千葉師範學校二部學生
出山良	公津村下方	農業
成毛鐵二	安食町矢口一二八四	千葉區裁判所大和田出張所
行方正己	東京市足立區梅田町二四六 行方惜夫方	早稲田大學法科專門部學生
根本正夫	東京市小石川區松ヶ枝町一二中島新次方	會社員
野島武夫	京城府三坂通總督府官舍第三號 岡崎靜雄方	朝鮮總督府遞信局工務課
野平靖	香取郡八都村田部	實業
萩原友三郎	香取郡多古町飯笹	實業
萩原操	山武郡千代田村菱田	東京芝浦製作所大井工場所員
橋本謙受	香取郡高岡村高岡	陸軍々醫學校學生
平山辰夫	東京市牛込區辨天町一五三 依知川正義方	日本農士學校本科學生
藤崎義男	埼玉縣比企郡菅谷村	
藤崎春男	安食町矢口	
藤崎三郎	東京市本所區平川町二ノ三	兵役
丸修三	公津村下方	實業
宮本高雄	富里村七榮五七六	實業
村島守正	公津村宗吾宗吾靈堂	宗教家
山田武雄	名古屋市中區荒田町三ノ六 田谷守常方	名古屋高等商業學校學生
山田義一郎	安食町安食	實業
山田圭宥	成田町幸町四〇二	法政大學專門部學生
矢萩正司	安食町矢口一五三	中央氣象台測候所技術官養成所講習科學生
（矢野改）秋葉豐三郎	成田町土屋	千葉師範學生
谷ヶ崎龍二	東京市牛込區市ヶ谷山伏町五 興眞牛乳株式會社內	東京商大專門部學生
湯淺欣一	仙台陸軍教導學校第四中隊第三區隊	兵役
横尾優	東京市豐島區池袋二	教師

第三十四回（昭和十年）（四十七名）

生駒重雄	山武郡二川村牧野四二九	青山師範學校學生
石井健二	豐住村南羽鳥一、五六六	實業
石井顯	同　同　一、一〇五	根木名川改修事務所員
石原三夫	富里村日吉倉二、〇三八	高島屋新京支店員
岩舘重雄	滿洲國新京豐樂路六一〇	慶應義塾理財科學生
小倉一三	成田町上町五五九	
大野正德	安食町安食三、五九八	

大見川寛	中郷村東金山二九二		
渡邊通雄	成田町土屋七七六		
渡邊朝吉	同　九二四		
渡邊博	同　砂田五三	大倉高等商業學校學生	
渡邊洪	同　土屋二四六		
渡邊功	成田町土屋五八五		
貝原塚十	八生村山口一、七五		
川崎浩	東京市牛込區市ヶ谷山伏町五興眞牛乳株式會社内		
川崎吉哉	東京市大森區堤方町四四八	大野化學機械株式會社員	
川村明	滿洲國ハルビン傅家甸北五道街江岸	松黒運輸公司	
柏木博	遠山村吉倉七		
（清改）竹村好央	富里村中澤六七八	成田中學校助手	
武田智信	東京市荒川區千住二ノ八九高橋久野方	東京市淺草區役所	
田代惠一	成田町上町九〇七		
高川幸夫	東京市小石川區表町一〇九成田中學同窓會寄宿舍	拓殖大學々生	
鶴見照碩	成田町成田一	智山大學々生	
根本改治	八生村大竹一、〇五〇	東京帝大農學部實科學生	
成毛半平	豐住村長沼六五一		
野平令夫	同　興津一、一三五	兵役	
郡司洋	遠山村駒井野		
山口黨	香取郡多古町東臺九八五		
山口章	東京市本所區亀澤町二ノ二三富章司方	ベルト製作會社々員	
牧野圭司	成田町幸町九二		
藤倉高三	同花咲町五三八		
古矢元佑	同田町三三二		
古手進	東京市荒川區南千住町五ノ七〇	大和商行員	
後藤忠雄	布鎌村字北八五四		
遠藤武	八生村下福田一八五		
出山七衛	豐住村長沼一、一四七		
淺井禮三	東京市杉並區阿佐ヶ谷一ノ八五六	早大專門部學生	
齊藤八郎	遠山村東和田七五〇	千葉師範學生	
齋藤房久	同　同　二、九〇一	日本大學商科學生	
櫻井卓	成田町谷津五九五		
木川克己	香取郡滑河町西大須賀一〇六一		
吉川正巳	中郷村野毛平三〇三	千葉縣產業學校學生	
南井方	成田町土屋	智山大學々生	
平野照識	同　成田一		
鈴木教資	遠山村川栗二九五		

蕾澤忠一	遠山村遠山三八ノ二	實業	
渡邊哲利（準卒）	水戸高等學校寄宿舍	同上校學生	

第三十五回（昭和十一年）（五拾八名

石原巍一	成田町成田三〇八		
石川清春	成田町成田四〇五		
石橋裕	公津村下方二九五		
飯塚嘉一	本埜村安食卜杭二五		
稲垣公亮	成田町寺台四五二		
林信男	八生村押畑八〇		
西内光一	成田町成田二六二		
土肥晃	公津村八代七九二		
大堀喜三郎	成田町土屋九四七	高松高等商業學生	
大木茂	成田町郷部一八四	新勝寺事務員	
沖田正	八生村山口三八二		
大谷正一	千葉郡睦村佐山二、三九五		
大須賀三郎	安食町須賀五三二		
小川勇	中郷村東金山三六五		
小川紀一	豐住村長沼五〇三	拓殖大學々生	
小倉善之丞	久住村土室八五一		
渡邊吉三	成田町土屋一九七		
川村勇	遠山村東和田三七八		
加藤貞	中郷村芦田一八三九		
加藤典	成田町成田三二三		
柏熊壽	遠山村駒井野無番地		
加藤邦一	中郷村芦田八三四	青山師範學生	
金子義正	中郷村芦田八九九		
香取四郎	久住村輔谷一二九二	青山師範學生	
吉岡榮一郎	中郷村和田一四一		
高塚源次	布鎌村四ッ谷一二一		
高橋洋司	公津村宗吾五七四		
高柳正平	京城府下往十町二一〇矢萩和佑方		
谷武雄	公津村台方一三八一	鎌倉師範學生	
辻照山	東京市小石川區高田豐川町四三	京城遞信省分掌局工事課	
野口次郎	豐住村北羽鳥二一一二		
黒川順三	滿洲國鞍山南三條町十二　平尾勇方	平尾鑛業所々員	
山本勳	安食町安食三七三四		
山田一萬	公津村八代八〇三		
小泉好雄	久住村成毛四〇〇		
小林嘉男	遠山村駒井野無番地		
寺内隆治	中郷村赤荻一一五二		
寺本馬之助	成田町成田五三二		

露光量違いの為重複撮影

成田高等女學校一覽

學暦……
教育方針及施設概要……一
沿革略……一
學則……三
職員表……五
成田山女學校卒業生人名……六
卒業生人名現況表……七
現在生徒及卒業生郡別表……二九
經費統計表……三九

相川　隆	富里村立澤二八五	宮田悅二
淺倉龍巳	布鎌村北七三五	信田　博
青柳謙一	成田町壬屋九五一	篠田忠義
淺井勇夫	成田町成田三四二	芝野勘一郎
齋藤末吉	公津村台方七二六	關口政好
齋藤健次	遠山村東和田三二三	角谷實夫
佐久間秀夫	豐住村北羽鳥二〇五二	鈴木　鼎
湯淺正吉	八生村松崎二〇四七	鈴木守一
湯淺浩璋	八生村松崎二〇五九	

成田町成田三〇五
成田町成田五〇三
豐村住興津一八二ノ二
安食町安食宮堤一四
山武郡千代田村大里一八
三重縣飯南郡川俣村七日市九三〇
成田町成田一一一八
成田町成田二八

早稲田高等學院學生
日本大學工科

卒業生及生徒郡別表

昭和十一年五月現在

	印旛	香取	山武	千葉	市原	東葛	匝瑳	海上	長生	夷隅	君津	安房	他府縣	計
五學年 A組	二	一	三	一									二	三〇
五學年 B組	二〇		一											二一
四學年 A組	一九													一九
四學年 B組	三四	二	二											三八
三學年 A組	三〇	一	二											三五
三學年 B組	三一		三				一							三五
二學年 A組	三三	一	一										二	三七
二學年 B組	三四		二					一					一	三八
一學年 A組	四〇	四	三										二	四九
一學年 B組	三四	七	五											五〇
計	二九八	一七	二二	一			一						一一	三五二
卒業生	九四六	九〇	七三	六	四	三	五	一	五	三	四	七	九四	一、二四一

經費

年度	俸給	雜給	需用費	雜費	賞與	營繕費	合計
昭和十年度決算	三五、八三九、六六〇	三、〇四三、二一〇	一、二三三、三四〇	三、三一〇、九四〇	三、五一八、〇〇〇	七三六、四五〇	三七、六二二、六〇〇

露光量違いの為重複撮影

成田高等女學校一覽

學　　暦……
教育方針及施設概要……一
沿　革　略……一
學　　則……三
職　員　表……五
成田山女學校卒業生人名……六
卒業生人名現況表……七
現在生徒及卒業生郡別表……二九
經費統計表……二九

相川　隆	富里村立澤二八五	宮田悅二	成田町成田三〇五
淺倉龍巳	布鎌村北七三五	信田　博	成田町成田五〇三
青柳謙一	成田町土屋九五一	篠田忠義	豐村住興津一八二ノ二
淺井勇夫	成田町成田三四二	芝野勘一郎	安食町安食官堤一四
齋藤末吉	公津村台方七二六	關口政好	山武郡千代田村大里一八
齋藤健次	遠山村東和田三二三	角谷實夫	三重縣飯南郡川俣村七日市九三〇
佐久間秀夫	豐住村北羽鳥二〇五二	鈴木　鼎	成田町成田一一一八
湯淺正吉	八生村松崎二〇四七	鈴木守一	成田町成田二八
湯淺浩璋	八生村松崎二〇五九		

日本大學工科

卒業生及生徒郡別表

昭和十一年五月現在

	印旛	香取	山武	千葉	市原	東葛	匝瑳	海上	長生	夷隅	君津	安房	他府縣	計
五學年 A組	二	一	三	一									二	三〇
五學年 B組	二〇		一											二一
四學年 A組	一九													一九
四學年 B組	三四	二	二											三八
三學年 A組	三〇	一	二											三五
三學年 B組	三一		三				一							三五
二學年 A組	三三	一	一										二	三七
二學年 B組	三四	一	二										一	三八
一學年 A組	四〇	四	三										二	四九
一學年 B組	三四	七	五										二	五〇
計	二九八	一七	二二	一									一一	三五二
卒業生	九四六	九〇	七三	六	四	三	五	一	五	三	四	七	九四	一、二四二

經費

昭和十年度決算	
年度俸給	三五、八三九、六六〇
雜給	三、〇六三、二一〇
需用費	一、一二三、三四〇
雜費	三、三三〇、九四〇
賞與	三、五一八、〇〇〇
營繕費	七三六、四五〇
合計	三七、六三一、六〇〇

露光量違いの為重複撮影

昭和十年度

學曆

第一學期　自四月一日至八月三十一日
第二學期　自九月一日至十二月三十一日
第三學期　自一月一日至三月三十一日

四月

五日　始業式、入學式、新入生父兄會
六日　午前八時十分始業
中旬　教授豫定記入
中旬　身體檢査
二十九日　天長節祝賀式
下旬　口腔檢査

五月

上旬　修學旅行四、三、二學年
遠足一學年
二十七日　海軍記念日

七月

十八日　第一學期授業終
二十日　成績發表、終業式

九月

一日　始業式
上旬　授業豫定記入
三、四學年志望調査
下旬　縣下中等學校女子競技大會

十月

中旬　校友會學藝部會
下旬　遠足四、三、二、一學年

十一月

三日　明治節祝賀式
四日　明治節體育デー
上旬　縣下中等學校女子競技大會

十二月

二十一日　第二學期授業終
二十四日　成績發表終業式
同　校友會雜誌原稿募集
二十五日　大正天皇祭

一月

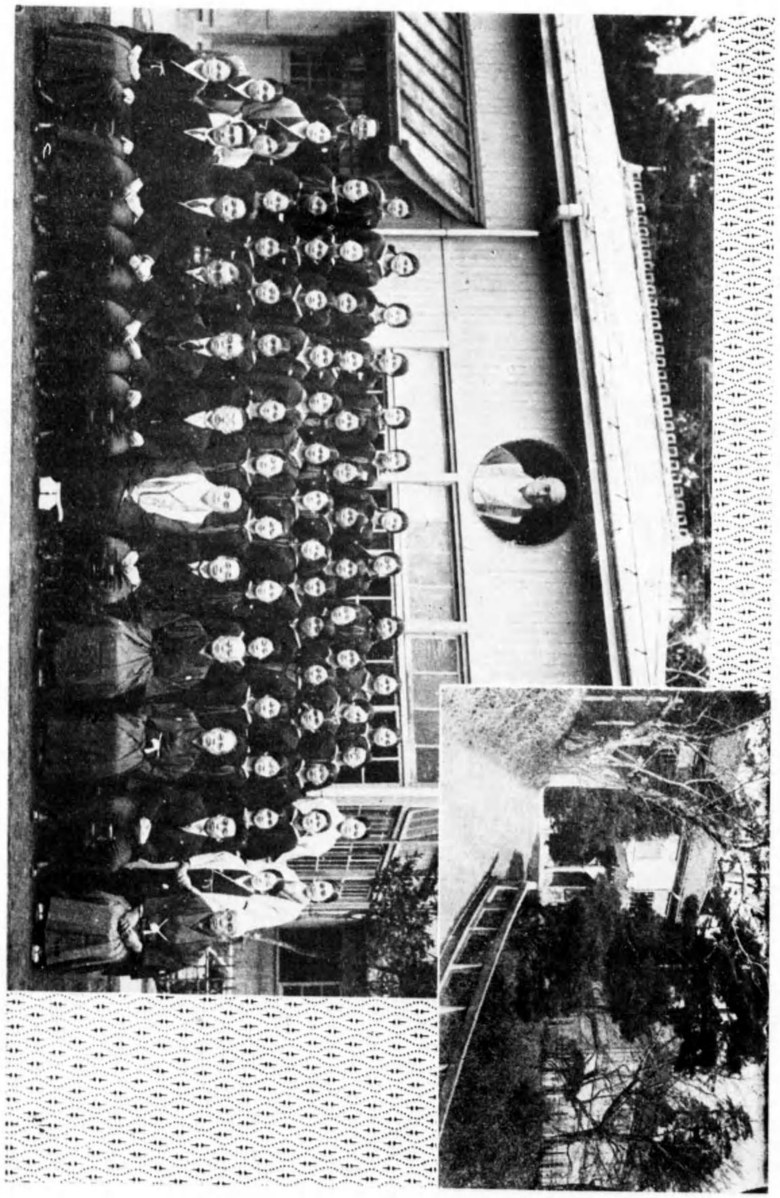
一日　新年祝賀式
八日　始業式
中旬　教授豫定記入
中旬　來學年度教科書選定

二月

十一日　紀元節祝賀式
十三日　創立記念祝賀式
同日　校友會學藝部會

三月

六日　地久節祝賀式
十日　陸軍記念日
十二日　第三學期授業終
十五日　成績發表終業式
十八日　證書授與式
未定　入學考査及成績發表



成田高等女學校

生業卒回五十二第及員職教

露光量違いの為重複撮影

昭和十年度

學曆

第一學期　自四月一日至八月三十一日
第二學期　自九月一日至十二月三十一日
第三學期　自一月一日至三月三十一日

四月

五日　始業式、入學式、新入生父兄會
六日　午前八時十分始業
中旬　教授豫定記入
中旬　身體檢査
二十九日　天長節祝賀式
下旬　口腔檢査

五月

上旬　修學旅行四、三、二學年
遠足一學年
二十七日　海軍記念日

七月

十八日　第一學期授業終
二十日　成績發表、終業式

九月

一日　始業式
上旬　授業豫定記入
下旬　三、四學年志望調査
下旬　縣下中等學校女子競技大會

十月

中旬　校友會學藝部會
下旬　遠足四、三、二、一學年

十一月

三日　明治節祝賀式
四日　明治節體育デー
上旬　縣下中等學校女子競技大會

十二月

二十一日　第二學期授業終
二十四日　成績發表終業式
同　校友會雜誌原稿蒐集
二十五日　大正天皇祭

一月

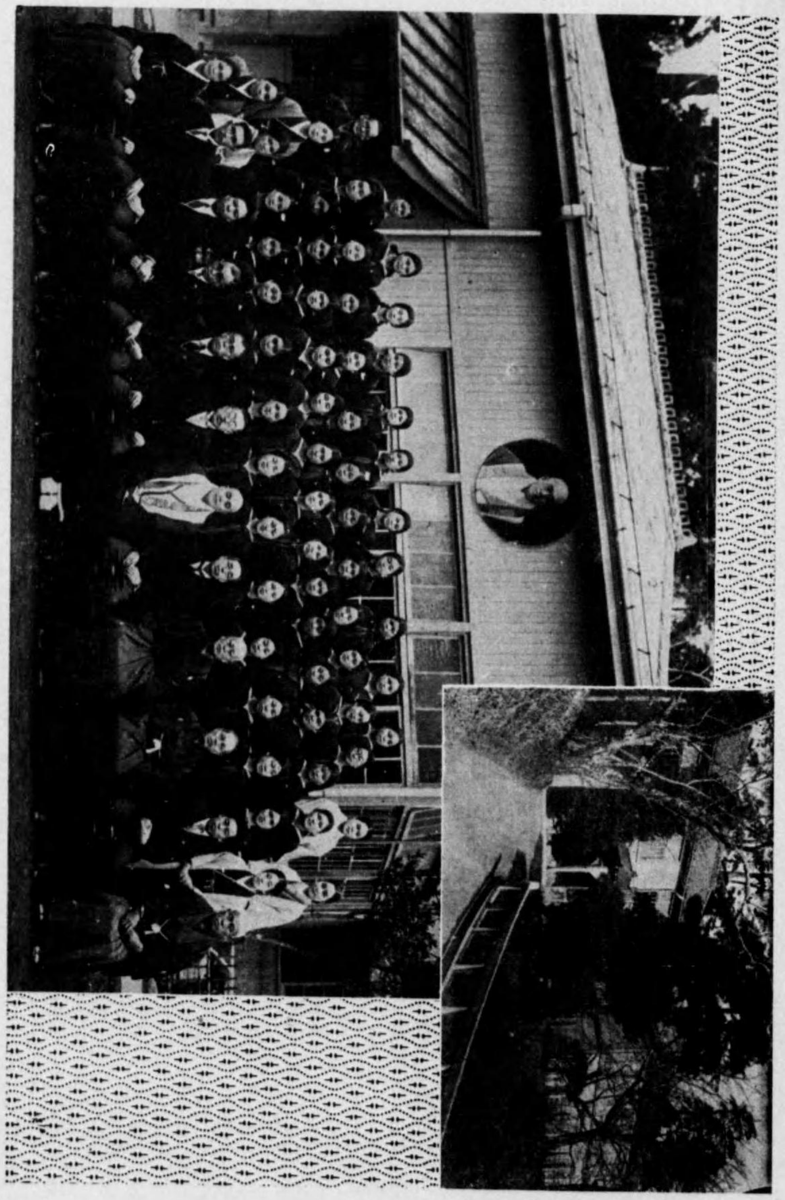
一日　新年祝賀式
八日　始業式
中旬　教授豫定記入
中旬　來學年度教科書選定

二月

十一日　紀元節祝賀式
十三日　創立記念祝賀式
同日　校友會學藝部會

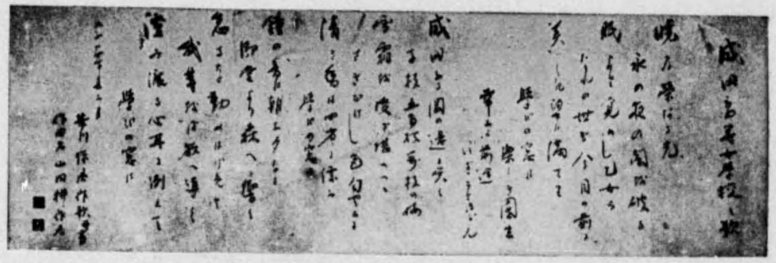
三月

六日　地久節祝賀式
十日　陸軍記念日
十二日　第三學期授業終
十五日　成績發表終業式
十八日　證書授與式
未定　入學考査及成績發表



生業卒回五十二第及員職教

成田高等女學校

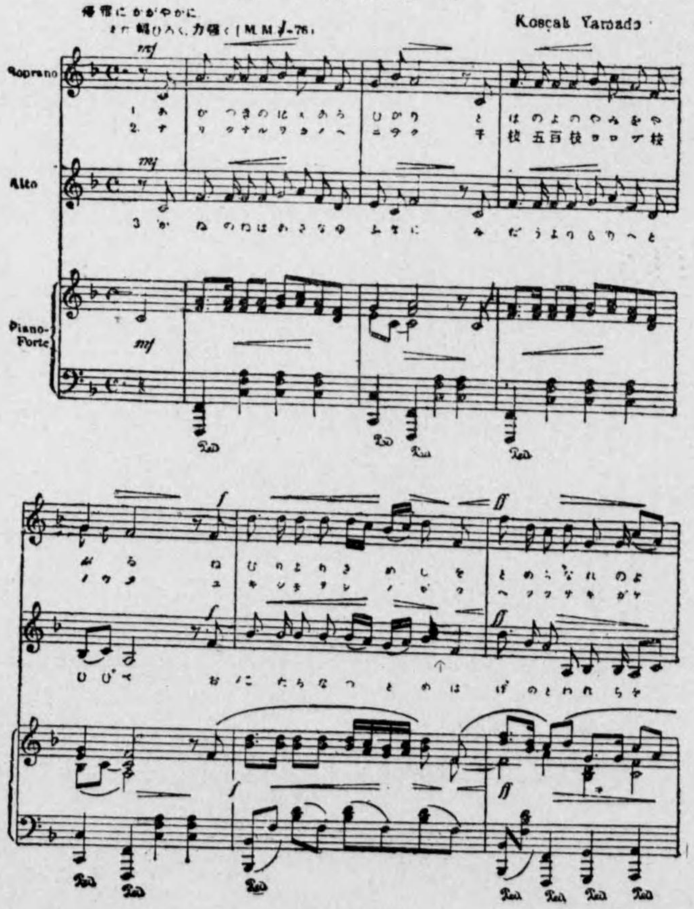


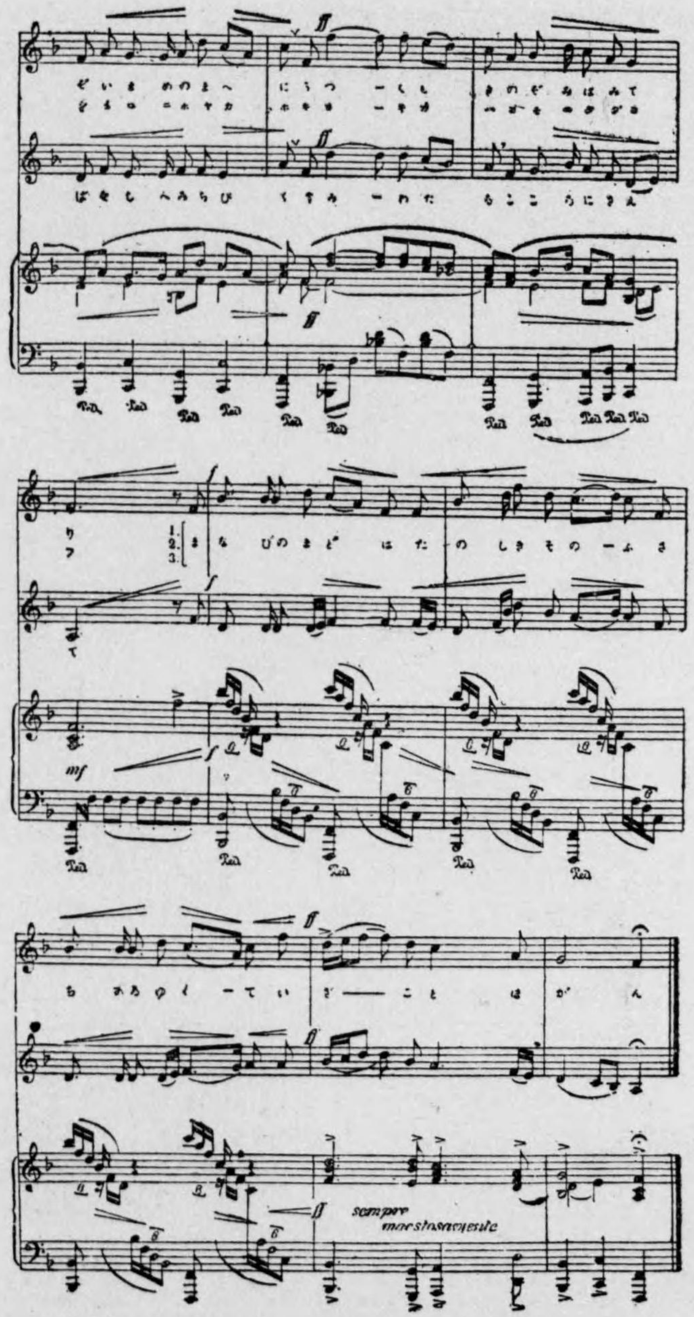
第十三回卒業生寄贈

成田高等女學校々歌

笹川臨風作歌

山田耕作作曲





成田高等女學校々歌

笹川臨風作歌
山田耕作作曲

曉の榮ある光
永の夜の闇を破る
眠より覺めし乙女ら
なれの世ぞ今目の前に
美しき望は滿てり
學びの窓は樂しき園生
幸ある前途いざこゝほがん

成田なる岡の邊に咲く
千枝五百枝萬枝の梅
雪霜を凌ぎ堪へつゝ
さきがげし色匂やかに
清き香は四方に漂ふ
學びの窓は……
幸ある前途……

鐘の音は朝な夕なに
御堂より森へと響く
怠るな勤めはげめと
我等をば教へ導く
澄み渡る心耳に冴えて
學びの窓は……
幸ある前途……

私立成田高等女學校一覽

◎教育方針及び施設概要

本校は成田山の經營に屬すゝ雖も確實に高等女學校令に準據し、絶對に宗教的布教宣傳の機關に供せず。專ら社會奉仕を目的として、國民教育の一部を負擔するものなり。

本校の教育方針は、教育勅語の御聖旨を服膺して、飽くまで其の實行を期し、學業を勵み、淑德を修め、女子の本分を遵守せしめ、成田山事業の精神に鑑み質實勤儉を旨として心身の鍛錬を怠らず、以て他日の社會奉仕を心掛けしむるにあり。

本校の經營たる、素より營利事業にあらざれば、成る可く父兄の負擔を輕減するのみならず、學資支辨に困難なる者の爲には、貸費、若しくは補助制度あり、奬學の爲には特待生、優等賞、精勤賞、等の制を設け學科に於ても正科の外、隨意科として手藝挿花、茶の湯、按摩を課し、體操科には薙刀を加へ形式を通じて武士道の精神を體得せしめ、音樂科にはオルガン數基の外、ピアノ二基を備へ、生徒に指導練習せしめ、創立記念日唱歌及校歌を制定して、本校の理想を明示し、併せて温雅優美の思想を涵養するに努む。

◎沿革略

（昭和十一年四月現在）

本校は元私立成田山女學校と稱し明治四十一年四月の創立に係り明治四十四年二月文部大臣の認可を得て成田高等女學校と改稱す所謂成田山事業の一にして校主兼校長たりし故成田山貫主石川大僧正の後を承け現貫首名譽校長荒木僧正慈心の下に生々發達しつゝあるものなり。

本校に理事ありて校主校長を補佐す石川甚兵衛、三橋金太郎の二氏は即ち其人にして石川理事現に專務たり。

明治四十四年二月十三日文部大臣より本校設立の認可を受けてより爾後の沿革は左の如し。

一 明治四十四年三月廿一日本校校則を制定す
一 同 四月一日成田中學校教諭中島喜二（高等師範學校出身）校務主監兼教諭に任ぜらる
一 同 四月一、二日の両日を以て二、三、四學年の編入試驗を行ふ
一 同 四月五日生徒八十四名に入學を許可し之を本科第四學年以下の學年に分編し、同日始業式を行ふ

一 明治四十五年三月第一回卒業生を出し　千葉縣知事臨席す
一 明治四十四年十二月增築に着手せし講堂兼雨天體操場、理科教室普通教室等工を竣へ大正元年十一月より使用したり
一 大正二年三月第二回卒業生を出す
一 大正二年九月校務主監兼教諭中島喜一休職を命ぜらる
一 同　十月理學士菅野皆可校務主監兼教諭に任ぜらる
一 大正三年三月第三回卒業生を出す
一 大正四年三月第四回卒業生を出せり
一 大正五年三月第五回卒業生を出す
一 大正六年三月第六回卒業生を出せり
一 同　十一月校務主監兼教諭菅野皆可休職を命ぜらる
一 同　十一月文學士中村安之助校務主兼監教諭に任ぜらる
一 大正七年三月第七回卒業生を出せり
一 大正八年三月第八回卒業生を出せり
一 大正八年十月中村校務主監死去
一 大正八年十二月文學士矢野太郎校務主監に任ぜらる
一 大正九年三月第九回卒業生を出す
一 大正十年三月第十回卒業生を出せり
一 大正十一年三月第十一回卒業生を出せり
一 大正十二年三月第十二回卒業生を出す
一 大正十二年十二月校務主監兼教諭矢野太郎依願解職を命ぜらる
一 大正十三年校主兼校長石川大僧正御遷化
一 大正十三年成田山貫主荒木僧正校主の認可を受く
一 大正十三年二月文學士笹川種郎校長に任ぜらる
一 大正十三年三月第十三回卒業生を出す
一 大正十三年五月神奈川縣立横濱第一中學校教諭佐藤國二校務主監兼教諭に任ぜらる
一 大正十四年三月第十四回卒業生を出す
一 大正十四年三月笹川文學士校長辭任
一 大正十四年四月笹川文學博士顧問となる
一 大正十四年三月校務主監佐藤國二校長兼教諭に任ぜらる
一 大正十四年七月理事小野寺清三郎死去
一 大正十五年三月第十五回卒業生を出す
一 昭和二年三月第十六回卒業生を出す
一 昭和二年三月荒木僧正を名譽校長に推戴す
一 昭和二年四月理事三橋重郎兵衞病氣の爲隱退す
一 昭和三年三月第十七回卒業生を出す
一 昭和四年三月第十八回卒業生を出す
一 昭和五年三月第十九回卒業生を出す

一 昭和六年三月第二十回卒業生を出す
一 昭和七年三月第二十一回卒業生を出す
一 昭和八年三月第二十二回卒業生を出す
一 昭和九年三月第二十三回卒業生を出す
一 昭和十年三月第二十四回卒業生を出す
一 昭和十一年三月第二十五回卒業生を出す

◎學　則

第一章　總　則

第一條　本校の修業年限は本科四箇年とす
第二條　生徒定員は二百人とす
第三條　休日は左の如し
一、祝日、大祭日
二、日曜日
三、皇后陛下御誕辰
四、記念日二月十三日
五、夏季休業七月廿日より八月卅一日に至る
六、冬季休業十二月廿六日より翌年一月七日に至る

第二章　學科課程教授時數

第四條　本校の學科目に編物袋物挿花按摩茶の湯を加へ隨意科目とす
第五條　學科課程及び教授時數左の如し

學年 / 日課	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年	
修身	一	人倫道德ノ要旨、作法	一	同	一	同	一	同
公民				上		上		上
國語	六	講讀、習字、作文、文法	六	同	五	同	五	同
英語	三	讀方、譯解、書取、習字	三	同	三	讀方、譯解、書取、文法、作文	三	同
歷史	三	本邦歷史	三	同	三	外國歷史	三	同上國史
地理		本邦地理		外國地理		同上		地理通論
數學	三	整數、小數、諸等數、珠算	三	約數、倍數、分數、比例、代數初步	三	比例、步合、代數初步、珠算	三	開平、幾何初步、珠算
理科	二	植物、動物	二	前學年ノ續、生理衞生、鑛物	三	化學、物理	三	同
圖畫	一	自在畫	一	同上、幾何畫	一	同		上
家事					二	衣食住	三	家政、看病育兒等
裁縫	四	縫方、裁方	四	同上、編方	四	同	四	同
音樂	二	單音唱歌	二	同	一	同 複音唱歌	一	同
體操	三	普通體操遊戲	三	同	三	同	三	同
教育				上		上		上
計	二八		二八		三〇		三三	一 理論ノ大要
編物	(一)	編物	(一)	同	(一)	袋物	(一)	同
袋物				上		物		上
挿花	(一)	挿花	(一)	同	(一)	同	(一)	同
茶湯				上		上		上
按摩					(一)	按摩	(一)	同上

備考　編物裂物挿花茶湯按摩ヲ課外ニ於テ志望者ニ課ス

第三章　入學及退學

第六條　生徒募集は學校長期日學年及人員を定め之を公告すべし

第七條　入學志願者は本校所定の入學願書を差出すべし

第八條　一學年入學志願者は小學校長の内申に基づき試問及身體檢査に依りて之を檢定す

第九條　前條の試問は小學校卒業程度に依りて之れを行ふ

第十條　他校より轉入學を願出てたる者には缺員ある時に限り人物學力を檢定の上許可することあるべし

第十一條　入學を許可せられたる者は在學證書に戸籍謄本を添へて差出すべし

（在學證書は印刷しあるを以て省略す）

第十二條　保證人は親權者若くは後見人又は親族にして一家計を立て本人に關し一切の責を負ふに足るべきものたるべし

第十三條　保證人の住所學校所在地より一里以内に在らざるときは一里以内に住所を有し一家計を立つる者を以て代理保證人と定め保證人連署の上之を學校長に屆出づべし

第十四條　學校長は必要と認むるときは保證人又は代理保證人を變更せしむることあるべし

第十五條　保證人若くは代理保證人住所氏名を變更し又は改印したる時には直ちに學校長に屆出づべし

第十六條　生徒退學せんとするときは其理由を記し保證人連署の上學校長に願出づべし

第十七條　生徒病氣其の他止むを得ざる事由に由り三ヶ月以上出席し難き時は期間を定め休學を願出づることを得

但し期間は一ヶ年間を超ゆることを得ず

第四章　修了及卒業

第十八條　各學科の課程の修了又は卒業を認むるには平素の學業成績を考査して定むべし

第十九條　卒業證書及修業證書は所定の形式に依る

第五章　授業料及び入學料

第二十條　一、授業料は月額金三圓として毎月十日迄に之を納め特に其期日を指定したる時は其當日納むべし

但毎年八月は之を徴收せず

二、入學志願者は入學考査料金壹圓を納附すべし

第廿一條　入學料は金壹圓として入學許可の際之を徴收す

第六章　賞　罰

第廿二條　品行方正學術優秀なる者は特待生として授業料の全部又は一部を免除し若くは賞品褒狀を與ふ

第廿三條　學校長は左の各項に該當する者には退學を命ず

一、性行不良にして改善の見込なしと認めたる者

二、成業の見込なしと認めたるもの

三、出席常ならざる者

第廿四條　規則命令に違背し學校の風紀を害する者は其の輕重に依り戒飭停學又は退學に處す

第廿五條　生徒取締に關する規定は學校長之を定む

第七章　附　則

第廿六條　本校則施行に關する細則及び其の他必要なる内規は學校長之を定む

◎職員

受持學科	職名	姓名	原籍	就職年月
修身	校主	荒木照定	千葉縣	大正十三年二月
國語、歷史	名譽校長	笹川種郎	東京府	大正十三年二月
數學、物理	顧問	佐藤國二	新潟縣	大正十三年五月
英語、歷史、教育、公民	文學博士	平野太市	千葉縣	昭和九年六月
博物、地理、作法	校長兼教諭	並木潔太	千葉縣	昭和四年九月
圖畫、習字、英語	教諭	唐木順三	長野縣	昭和十年一月
家事、化學、地理、作法	教諭	綿貫幾久	千葉縣	昭和七年四月
裁縫	教諭	山内貞	千葉縣	昭和三年二月
裁縫	教諭	岡しづ	山梨縣	昭和五年四月
體操	教諭	大木とし	千葉縣	昭和二年四月
	教諭	小倉治子	千葉縣	昭和四年一月
	教諭	平山鋏子	千葉縣	昭和六年九月

國語、歷史	教諭	中野美津子	千葉縣
音樂	囑託教師	小山滿壽	東京府
挿花	同	櫻井文吉	千葉縣
按摩	同	酒井泰作	福島縣
	書記	伊藤總平	千葉縣
	學校醫	山内平治郎	千葉縣
	學校醫（齒科）	三須重五郎	千葉縣

◎成田山女學校卒業生人名（明治四十四年三月）（イロハ順）（○ハ結婚ノ印）

（舊岩瀨）○藤崎好
伊藤きよ
石原みや
○幡谷もと
○長谷川りう
○長谷川きみ
戸塚ひさし
○小川とし
○小田垣近
（舊吉岡）○泉とみ
吉田とよ
田中あい
（舊上原）○杉山あい
大塚とく
○大木りよう
○山野かよ
（舊丸）○若林きよ
○香取てい
○深栖喜久
○秋葉ふさ
○櫻井ハナ
木内けい
木内欣
三澤タイ
○菅澤いち
鈴木せき

◎卒業生人名現況表（イロハ順）（○ハ結婚ノ印　×死亡ノ印）

第一回卒業生（明治四十五年三月）（十名）

小學校訓導

（岩瀨改）○藤崎好　印旛成田
（幡谷改）○平井もと　同成田
×田中あい　同成田
（上原改）○本吉かね　同成田
×大木りう　同中郷
（丸改）○香取てい　同公津
○山野かよ　同成田
（木内改）○生田欣　同成田
×木内けい　同成田
×三橋妙子　同中郷

第二回卒業生（大正二年三月）（十二名）

（池田改）○勝田ゆき　印旛中郷
池田みち　印旛成田
○石原静　同成田
（林改）○川村ふく　同八生
（渡邊改）○林清喜　安房湊
（加藤改）○竹村きん　印旛中郷
（田中改）○横山菊子　印旛成田
×黒澤きく　同富里
（中島改）○齋藤朝　君津青堀
（大友改）○石井光子　宮城仙臺
（小林改）○武津キン　東京牛込
（秋葉改）○土屋ふで　山武城東

第三回卒業生（大正三年三月）（二十一名）

（伊藤改）○澤田ひさ　印旛八生
×○飯泉しげ　同成田
○石原ひろ　同同
（林改）○谷田部ゆき　同同
（幡谷改）○師岡幸　同同
（土井改）○永塚わき　同本埜
○加藤あい　同成田
（吉岡改）○鈴木てい　同公津
（吉岡改）○鈴木とし　同同
（谷平改）○平山かね　同久住
（露崎改）○荒木キク子　長生五郷
（成田改）○綿貫きよ　印旛佐倉
（武藤改）○渡邊さだ　同永治

小學校訓導
（大島改）。石橋のぶ　同八生
。大須賀ゆう　同安食
東京和洋裁縫學校卒業
（桑原改）。加藤くに　同安食
小學校訓導
（山下改）。藤崎たか　同成田
（藤崎改）。茂木包　同富里
佐竹和歌子　東京下谷
（宮崎改）。土屋けい　印旛成田
（塩田改）×。化村菊代　同布鎌

第四回卒業生　大正四年三月（二十八名）

（岩井改）。大木美津　印旛安食
×。土井わか　同公津
×。蕨くに　同公津
（綿貫改）。青柳うめ　茨城取手
（加藤改）。安田もと　印旛成田
神戸もと　同成田
×川島フサ　同富里
小學校訓導
（竹村改）。鈴木しげ　同富里
（根本改）。古川菊　千葉椎名
（並木改）。打木すづ　印旛遠山
。武藤きみ　茨城文
（猪野改）。松戸その　山武源
戸板裁縫女學校卒業
（平山改）。伊藤ゐい　印旛成田
。大竹たい　香取小御門
小學校訓導
（大木改）。鈴木あやめ　印旛中郷
小學校訓導
（黒川改）。行方りき　同成田
（桑原改）。岩井なみ　同安食
。山野いく　同成田
（山田改）。土井滿喜　同安食
（山田改）。柴宮よし　印旛八生
（山田改）。齋藤わか　同豐住
小學校訓導
。增岡りき　埼玉藤田
。秋山うめ　印旛八生
東京高等師範學校保育科卒業
。天野眞知　夷隅大多喜
×淺倉みつ　印旛安食
湯村とよ　宮城仙臺
（宮内改）。篠原みや　印旛八生
。谷とく　同公津

第五回卒業生　（大正五年三月）（二十六名）

（磯部改）。大野いく　印旛久住
石原ゆう　印旛成田
。飯倉きく　同成田
。馬場ちよ　同宗像
（土井改）。作羽内とし　同六合
小川敬　同志津

。高橋きく　香取滑河
小學校訓導
×。上原こう　印旛成田
。野平吉野　同豐住
（野平改）。横堀ゆき　同豐住
東京裁縫女學校卒業
（大三川改）。尾形本子　香取多古
（大木改）。廣澤てい　印旛成田
（奥澤改）。染谷春野　同白井
（山内改）。土肥德子　同成田
。山本くに　同安食
京增たか　同酒々井
（藤崎改）。相京くに　同遠山
。小坂ひめ　同酒々井
。圓城寺てい　同公津
。齋藤こう　同成田
。湯淺うら　同八生
。三橋みち　同富里
（三橋改）。東たか　同成田
平野香根　市原高瀧
（關川改）。藤崎鳳　印旛成田
鈴木けい　東葛飾明
和洋裁縫女學校卒業
日本女子大學卒業

第六回卒業生　（大正六年三月）（二十九名）

×岩館かね　印旛遠山
（石原改）。原田やす　同成田
（小川改）。吉原晁　同八生
萩原美子　同千代田
戸板裁縫女學校卒業
渡貫はる　同根郷
（川口改）。森田ユウ　同佐倉
（川崎改）。齋藤よし　同公津
。吉岡豐子　同成田
（高川改）。山崎綾子　同成田
（露崎改）。上原君子　長生五郷
（夏海改）。岩井千代　印旛遠山
。大友らく　宮城仙臺
東京女子音樂學校卒業
（武藤改）。江口ミヤ　印旛永治
×大木道子　同成田
（大野改）。榎澤千代　同旭
（岡本改）。佐久間とし　同富里
（山本改）。鈴木せき　同豐住
。山本米　同成田
山崎たけ　同阿蘇
戸板裁縫女學校卒業
東京高等師範學校保育科卒業
成田幼稚園保姆
（淺井改）。瀧澤よし　同成田

（相京改）。後藤ひな　同　公津
。安西よし　同　遠山
（京須改）。德田菊江　同　成田
。水野しま　同　成田
（宮川改）。寺口きよ　新潟　源
（篠田改）。石井喜久重　茨城金江津
（廣瀨改）。永島てい　印旛成田
。諸岡米　同　成田
（須藤改）。五十嵐けい　同　六合

佐倉大石裁縫女學校卒業

女子醫學專門學校卒業
千駄ヶ谷鐵道病院在勤

第七回卒業生（大正七年三月）（二十七名）

日本女子大學卒業

（岩井改）。石野ふじ　印旛本埜
（岩井改）。近藤こう　同　大森
（石井改）。杉野ゑい　同　豊住
（石川改）。日暮てい　同　成田
土井きく　千葉大和田
（土肥改）。鈴木はな　印旛公津
土肥なつ　同　公津
。神崎りん　印旛遠山
（加藤改）。福島千代　香取多古
（大德改）。横瀨三枝　印旛久住
。谷よし　同　公津

小學校訓導

（玉村改）。三橋千代　茨城布川
。山口ふじ　印旛成田
（山田改）。岩井よし　同　豐住
。藤崎いし　同　遠山
。小林とし　同　阿蘇
小坂てる　同酒々井
（後藤改）。高橋とき　同　安食
（遠藤改）。石井はる　同　公津
。筋慶子　同酒々井
（深山改）。押尾とく　同　六谷
（宮内改）。丸きよ　同　八生
（宮内改）。石橋三千江　長生一松
。檜垣千代　印旛久住
×關川利子　同　成田
。諏訪原てる　同　久住
。鈴木きよ　同　成田

第八回卒業生（大正八年三月）（三十二名）

。五十嵐ゆき　東葛飾布佐
石原つや　印旛四街道
（石上改）。梶谷圭子　海上瀧郷
（池田改）。北村喜代　福岡城内

長谷川よし　埼玉小林
（岡部改）。阪井雪子　三重蒲田
（小川改）。伊藤はつ　印旛八生
×小川喜美　東京淺草
。小川喜以　印旛八生
×勝田ふみ　同　安食
（吉田改）。諸岡のぶ　同　公津
。瀧澤喜久　同　成田
（高川改）。東種子　安房北三原
中村はる　印旛成田
（中島改）。加勢清子　長野西寺尾
。上野直枝　東京麻布
。大久保しげ　印旛本埜
（大川改）。石橋さい　同　成田
（山田改）。加藤みつ　同　豊住
（山田改）。大野滿壽　同　安食
。山内登波子　同　成田
（山内改）。佐野泰子　同　成田
（藤崎改）。小倉三代　千葉更科
。福田とら　印旛成田
（淺井改）。石岡いし　同　成田
（坂本改）。伊藤はま　茨城文間

小學校訓導

東京共立女子職業學校卒業

女子美術學校卒業

小學校訓導

東京共立女子職業學校卒業

東京女子高等師範學校卒業

●湯淺達　印旛八生
。島田惠　同酒々井
（日暮改）。佐藤てい　同　中郷
。清宮いつ　同　八生
（本橋改）。小島こう　同　本埜
（關川改）。原郁　同　成田

奈良女子高等師範學校卒業
前橋高等女學校教諭

第九回卒業生（大正九年三月）（三十一名）

女子醫學專門學校卒業

×（岩館改）。飯高やす　印旛成田
（石井改）。木下やす　同酒々井
（石井改）。鶴岡タケ　同　遠山
（伊藤改）。石井喜代　同　富里
（伊藤改）。野坂てる　同　成田
（飯田改）。池田敏子　茨城八原
（池田改）。菊池きよ　印旛富里
（土井改）×小出とみ　同　公津
（土井改）。岩井とし　同　公津
。大木とし　同　成田
（小川改）。藤崎きよ　同　八生
。小川かく　同　公津
（小川改）。山田靜　同　八生
。香取操　同　船穂

共立女子職業學校專攻科卒業
成田高等女學校教諭

和洋裁縫女學校卒業

（川上改）○笠井　謙　同　白井
○加瀨はな　同酒々井
小學校訓導
（竹村改）○林田きみ　同　富里
○根本テル　同　豐住
（仲山改）○本多千代　同　公津
×宇井幾久子　同　成田
×（山田改）○塚本喜代　同　八生
山本こう　山武日同
○清水貞子　印旛成田
（山本改）○石田しげ　同　和田
（福田改）○小倉光子　同酒々井
○小林せい　同　白井
○寺内三枝　同　成田
小學校訓導
東京津田英學塾卒業
○坂田コウ　同　富里
○宮島頼子　同　大森
（三須改）○高知衣　同　川上
○杉田はな　印旛安食

第十回卒業生（大正十年三月）（二十六名）

石川婦久　印旛成田
○伊藤とも　山武上堺
小學校訓導
（林　改）○湯淺君代　印旛八生
東京裁縫女學校卒業
○島村サト　山武松尾
（小川改）○根本てい　印旛公津
○小野寺千代子　同　成田
東京女子高等師範學校保育科卒業
成田幼稚園保姆
（海瀨改）○高田よし江　安房稻都
（神崎改）○遠藤あい　印旛遠山
○吉岡きやう子　同　木下
（谷　改）○檜垣うめ　同　公津
×（中山改）○木村たつ　同　成田
○中越加津子　同　成田
小學校訓導
帝國女子專門學校卒業
○葛生かつ　同　安食
（山田改）○岩瀨布知　同　八生
（山田改）○藤崎せい　同　八生
×中野哲子　香取高岡
×松田さだ　印旛成田
×丸　みち　同　公津
女子醫學專門學校卒業
（古田改）○湯淺千代　東葛飾布佐
（兒島改）○中野愛　茨城金江津
（後藤改）○鈴木たま　印旛安食
○篠田みつ　同　遠山
（遠藤改）○石井ゆう　同　公津
（須藤改）○富井靜子　同　六合
（鈴木改）○守永好枝　茨城布川
（鈴木改）○佐山いく　印旛六合

第十一回卒業生（大正十一年三月）（三十八名）

（石橋改）○伊藤喜代　印旛成田
（飯倉改）○片山ひさ　同　成田
×泰野とく　同　公津
（堀　改）○難波千代　東京大久保
（堀内改）○清岡三鶴　高知津呂
○大木みつ　印旛八生
○加藤くに　同　八生
○神崎やす　同　遠山
×川村長子　同　成田
○川島まつ　同酒々井
○田中はな　茨城龍崎
○高橋こと　印旛大森
（高川改）○深見興子　安房北三原
（谷　改）○秋山すい　印旛公津
小學校訓導
高野嘉代　同　富里
×增淵才　同　安食
×小倉松　同　成田
×黑田くに　同　成田
（山本改）○後藤たか　同　安食
東京女子高等師範學校
專攻科卒業
（矢野改）○二瓶敬　愛媛久米
（山田改）○小倉てい　印旛八生
○藤崎しん　同　遠山
○藏崎鈴　同　遠山
○横井たい　同酒々井
藤崎ふみ　同　遠山
小坂とめ　同酒々井
○寺本きみ　同　八生
○齋藤たけ　市原八幡
×齋藤てい　印旛遠山
○佐瀨より　同　八生
（湯淺改）○神崎はな　同　八生
○宮崎秀子　長生八積
○篠原芳枝　印旛木下
（日暮改）○西谷トミ　同　中郷
（泉對改）○石井ヒロ　千葉豐富
菅壽美　匝瑳椿海
（鈴木改）○竹尾とし　印旛成田
（鈴木改）○松崎錦　秋田本莊
共立女子職業學校卒業
東京裁縫女學校卒業
千葉女子師範二部卒業
小校學訓導
東京女子美術學校卒業

第十二回卒業生（大正十二年三月）（三十九名）

（伊藤改）○大久保きわ　印旛中郷
（岩井改）○瀧田淑子　同　大森

保姆

○井浦多美香取小見川
（石橋改）○荒井なか印旛成田
×飯沼つね同酒々井
○石原とみ同富里
（林　改）○腰川八千代同八生
（原　改）○大木えつ同佐倉
○細川喜代同遠山
○土井ゑい同公津
（土井改）○土井よし同公津
○野平きい同公津
岡田はな東葛飾布佐
○大澤しげの印旛本埜
○大木美代同八街
×○小野寺シゲ同成田
○小倉茂子同成田
（太田改）○大野鹿子同公津
勝田　俊同八生
×海保けい茨城金江津
（吉橋改）○海保きん印旛旭
○椿　たき香取滑河
（並木改）○三屋菊子印旛遠山
○鵜澤喜代山武蓮治

小學校訓導

○山本くに印旛八生
山本佐多同和田
○増田溫子同成田
（京増改）○小川はる同酒々井
（藤崎改）○林　まつ同安食
（後藤改）○内藤瑞子同八生
小池よし同遠山
（安達改）○藤崎靖子同遠山
相京いく同酒々井
○秋山ツヤ同中郷
櫻井けい香取小御門
×島田輝代印旛酒々井
平野和子同八生
○平山まさ同成田
平山はつ同成田

東京共立女子職業學校卒業

小學校訓導

和洋裁縫速成科卒業

小學校訓導

第十三回卒業生（大正十三年三月）（四十七名）

（石川改）○今井たけ印旛成田
岩田とみ同市鯉
石原　節同安食
○豐田登代同成田
（土井改）○増淵てい同公津
及川ナカ匝瑳榮

京都同志社在學

小學校訓導

岡田けい印旛本埜
○大木まつ同中郷
○大久保ちか同本埜
（小川改）○北村貞女同八生
×小川ふじ同八生
○綿貫綾子同酒々井
片岡とめ印旛成田
吉岡　誠同中郷
玉村ハナ茨城布川
○高槻洋子福島木幡
×高橋しのぶ香取滑河
瀧澤喜代印旛成田
○中島さき同安食
○仲山せい同公津
（野口改）○田中とき同豐住
（山田改）○神崎かつ同成田
○山内聰江同成田
○山口ひで同八生
（松田改）○大竹ふく同成田
増田とき香取加藤津
（藤原改）○居城せつ同小御門
（船橋改）○目黒つね印旛成田

小學校訓導

紺谷滿枝同成田
○小泉繁子同成田
○秋山みつ同八生
○坪井むつ香取高岡
相京タケ印旛公津
齋藤あい同遠山
齋藤きよ同酒々井
×佐伯とみ長生土睦
○湯淺ゆう印旛八生
○湯淺つね同八生
×三橋孝子同成田
（宮川改）○長竹幾子同酒々井
宮内はる同八生
島田　清同酒々井
（平山改）○伊藤とし香取多古
（關川改）○淺尾　昭印旛成田
鈴木とし同公津
○鈴木つる茨城布川
菅谷とし同白鳥

共立女子職業學校卒業

東京女子大學校卒業

和洋裁縫女學校卒業

第十四回卒業生（大正十四年三月）（四十四名）

×石井かつ印旛富里
×岩館はる同成田

日本女子大學校家政科卒業

小學校訓導
○飯田ちよ茨城金江津
○伊藤みつ印旛八生
石橋あき同中郷
林しめ子同成田
○長谷川のぶ同成田
體操學校卒業
大澤敦同八生
×岡田喜美埼玉興野
共立女子職業學校專門學部卒業
成田高等女學校教諭
○小倉治子印旛成田
○小倉まさ同富里
×大木ヤヰ同中郷
○大木ゆき同八生
小學校訓導
○小川春子同富里
大竹かね同富里
竹尾きよ同和田
實踐女學校專門學部國文科卒業
成田高女教諭
中野美津子香取高岡
小學校訓導
（永田改）○蝦原順子印旛成田
岡崎律同豐住
（牧野改）○川内とし同成田
○丸よし同公津
（京須改）○汪八重同成田
○藤崎けい同遠山
○藤倉しげ同成田
（古川改）○吉川壽同成田
（小林改）○田中はる茨城金江津
○越川富美子印旛木下
後藤てる同八生
○小川歌同安食
遠藤ゆき同公津
秋山ふさ同八生
○相川とく同公津
×青柳のぶ同公津
齋藤きよ同公津
齋藤いと同木下
坂田信同富里
木内つね同酒々井
○湯淺てい同八生
莊司てる同成田
○諸岡ます同成田
○野村益代同成田
關口しげ同久住
鈴木こと同富里
櫻井女塾卒業
、
和洋裁縫女學校卒業
（手島改）○神戸せつ同遠山
小學校訓導
秋山ふさ同八生
○相川とく同公津
×青柳のぶ同公津
齋藤きよ同公津
齋藤いと同木下
坂田信同富里
木内つね同酒々井
○湯淺てい同八生
莊司てる同成田
○諸岡ます同成田
○野村益代同成田
關口しげ同久住
鈴木こと同富里
小學校訓導

第十五回卒業生（大正十五年三月）（四十五名）
石橋たみ印旛成田
石橋つたい香取滑河
石橋とよ印旛中郷
石原せつ印旛富里
石川せつ同富里
（伊藤改）○大塚千代同白井
池田頼子山武千代田
和洋裁縫女學校卒業
今井春子印旛成田
堀江智惠同成田
土岐裁縫女學校卒業
戸村千代同和田
小學校訓導
小川つぎ同八生
臨時教員養成所卒業
小川みち同公津
小倉梅同成田
女子高等學園卒業
小野寺アイ同成田
小倉とり同成田
×渡邊愛同成田
（加藤改）○伊藤きん同成田
勝田倭同安食
吉岡たか同北須賀
共立女子專門學校卒業
多田喜代同公津
女子師範專攻科卒業小學校訓導
高橋さゆり香取滑河
高橋さだ茨城金江津
野々宮みつ印旛成田
葛生千代同久住
柳本喜惠子同成田
山崎きく同豐住
淺井壽同成田
麻生菊枝山武千代田
（青木改）○石渡こう印旛本埜
青山まつ茨城金江津
佐久間かつ印旛成田
佐伯智惠子同成田
（木村改）○山崎よし香取多古
木下けい印旛成田
日本女子大學校卒業
龍崎しづ同遠山
○湯淺公己同八生
湯淺みつ同八生
女子高等學院在學
椎名靜同大森
○柴崎ゆき同大森
○平山いち同成田
檜垣穎印旛久住
森谷ミネ同成田
菅谷幾世同成田

鈴木とみ　同　成田
鈴木喜惠　同　船穐

小學校訓導

第十六回卒業生（昭和二年三月）（四十六名）

（石井改）。岩澤イワ　印旛豐住
石原あや子　同　富里
岩澤利子　同　遠山
岩瀨かつ　同　成田
。伊藤登美　同　永治
林田まき　同　成田
（豐田改）。久保田喜美　同　成田
大竹さと　同　富里
大久原節　同　成田
勝田よし　同　八生
平山ミツ　同　安食
吉岡薫　香取滑河
高橋あゑ　印旛公津
高橋よね　同　成田
瀧澤由子　同　成田
中島こと　同　成田
中野雪子　香取大和田
桑原米　印旛久豐
古矢春子　同　成田

女子美術學校卒業

女子職業學校卒業

千葉高女家庭科卒業

女子高師保育科卒業

千葉高女家庭科卒業

小學校訓導

實踐女學校專門部卒業

和洋裁縫女學校卒業

藤倉さだ　同　成田
荻原あい　同　豐住
。小倉みち　同　八生
。小倉タケ子　同　成田
（渡邊改）。佐藤すま　同　成田
渡邊よし　同　成田
（渡邊改）。木原ゆき　同　成田
。荒木淑　同　八生
片岡てる　香取多古
（片岡改）。木内いく　印旛遠山
（神崎改）。林榮　同　遠山
福田やす　茨城金江津
。秋山テル　印旛中郷
。秋山はる　同　八生
内田愛　山武千代田
寺内八重　同　成田
（堺改）。加藤けい　同　成田
坂田りう　印旛富里
齋藤よし　同　公津
齋藤なみ江　同　公津
木内ふじ　香取多古
湯淺とし　印旛八生

小學校訓導

大妻裁縫女學校卒業

土岐裁縫女學校卒業

×水野愛子　同　成田
宮田節　同　成田
平山しづ　香取多古
（諸岡改）。藤倉貞子　印旛成田
諸岡琴子　同　成田

女子美術學校卒業

千葉高女家庭科卒業

第十七回卒業生（昭和三年三月）（四十九名）

石川きく　印旛成田
石川ちか　同　遠山
×石川文枝　同　成田
（伊藤改）。中村みさ子　同　遠山
飯塚まつ　同　成田
林花子　同　成田
土肥みさを　同　公津
鳥居薫　同　成田
小川くに　同　公津
小川のぶ　同　中郷
小倉豐　同　成田
小倉えい　同　成田
太田愛知夫　同　公津
（大島改）。大竹春江　同　八生
×荻原とみ　同　豐住
渡邊つる　同　成田

障除女學校卒業

山脇高女家政科卒業

小學校訓導

小學校訓導

神戸光子　同　成田
加藤カッヱ　同　公津
×加藤なみ　同　遠山
。海保富美代　茨城金江津
多田光子　印旛公津
（大德改）。幸田愛子　印旛成田
竹尾ます　同　酒々井
（長竹改）。池上勅子　同　成田
（野口改）。小川七五三　同　豐住
（葛生改）。檜垣つる　同　安食
（久保庭改）。狩野菊江　同　成田
。郡司和歌子　同　遠山
矢村仁枝　同　公津
矢村美都江　同　公津
山田とよ　同　八生
。山本雅子　同　成田
。山本幸　同　安食
丸千代　同　公津
（增淵改）。山田英子　同　成田
藤江和子　同　安食
藤崎こと　同　同
圓城寺つね　同　公津

青木トク　同本埜
×秋山弘　同富里
佐久間ふみ　同成田
木内しげ　同成田
湯淺ちい　同八生
湯淺つる　同八生
（清水改）。間中文代　同遠山
島田治子　同成田
鈴木志津　同成田
鈴木隆子　同木下
（鈴木改）大久保ぎん　茨城布川

小學校訓導

第十八回卒業生（昭和四年三月）（四十七名）

池田いく　印旛安食
（石橋改）。大木はつ　同成田
（伊藤改）。澤田千代　同八生
稲葉文子　印旛公津
遠藤くに　同公津
本多ちよ　同遠山
細川喜美　同遠山
堀江正子　同成田
小野寺キク　同成田
小山マス　同六合
大木貞子　同成田
渡邊もと　同成田
松本まさ　同安食
勝又千代　同遠山
吉岡きみ　同公津
高久繁　同安食
高川春野　同成田
谷信　同公津
根本敏子　同豐住
（成島改）。古池きい　同大森
。宇島みさを　夷隅國吉
郡司秀　香取日吉
黒川喬　印旛成田
山田包子　同公津
山口精　東京
藤崎きく　印旛成田
藤崎のぶ　同安食
藤崎千代　同成田
越川春江　同遠山
小林富子　同成田
宮下有年子　同遠山
荒井たまほ　同布鎌

佐倉大石裁縫女學校卒業

小學校訓導

小學校訓導

和洋裁縫女學校卒業

大妻技藝學校高等家庭科卒業

佐倉伊藤裁縫女學校卒業

日本女子大學校卒業

小學校訓導

吉岡節　同中郷
坂本富美代　香取滑河
坂田米　印旛富里
菊池喜代　同公津
（木内改）。塚本とよ　香取滑河
（湯淺改）。成山きよ　印旛公津
三橋壽子　同公津
新橋千代　同成田
（白田改）。柿崎キワ　山形大谷
日暮環　印旛成田
瀬尾ふく　同安食
鈴木きい　同公津
鈴木秋江　同公津
鈴木ふぢ　同成田
鈴木君江　同公津

小學校訓導

第十九回卒業生（昭和五年三月）（四十七名）

石井八千代　印旛布鎌
稲垣シゲ　同成田
伊藤久子　同成田
伊藤清子　同木下
池田百子　同遠山
五十嵐はる　同木下
飯岡文　同豐住
土井しづ　同公津
土肥こう　同公津
加藤きよ子　同中郷
勝田すま　同安食
吉岡九重　香取滑河
瀧澤ひさ　印旛成田
武田まさ　同八生
根本せつ　香取滑河
。根本ふで　印旛成田
成毛喜美枝　同豐住
宇佐見智惠　同中郷
小川志津江　同公津
小川あい　同成田
小川きくえ　同成田
小川けい　同遠山
小倉とし　同八生
小高ふよ　同公津
桑原あい　同布鎌
。山田きん　同豐住
山田はる子　同成田
×藤崎貞子　同遠山

小學校訓導

藤田　好　同　八生
後藤よね　同　八生
後藤正子　同　八生
相京サダ　同　公津
淺野ふみ　同　中郷
佐久間やす　同　成田
（木内改）石川よね　同　成田
×湯淺孝子　同　八生
湯淺きみ　同　八生
宮内たけ　同　八生
水野鶴子　同　成田
下村妙　同　八生
新橋美子　同　成田
平山はな　香取多古
平間きみ　同　同
廣瀨はん　同　同
泉水志滿　印旛公津
鈴木美江　同　公津
鈴木かつ　同　成田

第二十回卒業生（昭和六年三月）（四十二名）

小學校訓導

伊藤千代　印旛遠山
八田羽コウ　同　安食
長谷川すみ子　同　成田

幼稚園保姆

西内せゑ　同　成田
戸村喜美　山武千代田
豊田　德　印旛成田
土井とし　同　成田
小川みつ　同　成田
小川てる　同　遠山
小倉のぶ　同　八生
小倉たか　同　久住
大川登志　同　成田
織原はる　同　本埜
海瀨廣子　同　成田
吉岡　絲　香取滑河
○高津かな　印旛成田
谷　いわ　同　公津
○久保庭しづ　同　成田
黒川マチ子　同　成田
黒川　滿　同　成田
黒澤たけ　同　富里
山田ゑい　同　安食
山崎よし　同　公津

山本みちゑ　同　安食
松田まさ　同　成田
丸　ふさ　同　公津
古矢茂子　同　成田
古矢光子　同　成田
古郷波子　同　成田
小泉うめ　同　富里
淺井きし　同　成田
（相川改）○藤崎しん　同　富里
（秋山改）○木内トヨ　同　中郷
佐藤芳子　同　遠山
木内文江　同　成田
三橋梅子　同　遠山
三橋千代子　同　中郷
椎名八千代　同　大森
澁谷きよ　同　遠山
一鍬田よし　同　中郷
菅沼　文　同　富里

日本女子大學卒業

稲垣ふみ　印旛成田
飯山靜子　同　大森
岩澤菊枝　山武二川
新田美穗子　宮城鷹來
土井とき　印旛公津
大須賀かつ　同　安食
大木まつ　香取小御門
小川トシ　印旛中郷
小川　景　同　八生
小川すい　同　公津
萩原とし　同　豐住
渡邊佐喜子　同　成田
渡邊茂代　同　成田
渡邊由子　同　木下
渡邊せい　同　成田
川村春子　同　遠山
田中節子　同　成田
多田せつ子　同　公津
竹内たつ　同　成田
葛生ふじ　同　安食
山田春枝　印旛八生
山野その　同　成田

共立女子專門學校在學

第二十一回卒業生（昭和七年三月）（四十六名）

石川　壽　印旛成田
石川ちい　同　成田
石橋もと　同　中郷

東京女子醫學專門學校在學

前田みや　同　大森
丸　たけ　同　公津
藤崎ゑい　同　成田
藤崎ヒサ子　同　成田
後藤みつ　同　八生
後藤しま　同　八生
青野茂子　香取高岡
赤海のぶ　印旛八生
佐久間政子　同　成田
佐瀬　光　同　八生
坂田文子　同　安食
櫻井千惠　印旛成田
眞田　倫　安房千倉
木川キクエ　中旛印郷
木内ふみ　同　富里
湯淺こう　同　八生
篠原セイ　同　中郷
諸岡　新　同　成田
清宮こい　同　八生
關川春江　同　成田
鈴木俊枝　同　公津

共立女子專門學校在學

川村女學院在學

高仲ッル　同　遠山
多田元子　同　八生
塚本節子　同　遠山
山本まさ　同　安食
山口くに　同　木下
京須希伊　同　成田
武士田喜久江　同　成田
佐藤貞子　同　成田
（齊藤改）。在津せつ　同　遠山
齊木歌子　同　成田
木内あさ　同　八生
湯淺つや　印旛八生
湯淺えい　同　八生
宮本てい　同　安食
篠原ちづ子　同　本埜
日暮照子　同　成田
關川澄子　同　成田
杉山八重子　同　成田

家政女學院卒業

第二十三回卒業生（昭和九年三月）（五十三名）

稻垣モト　印旛成田
石井けい　同　遠山
石井てる　同　豐住
石井淑枝　同　布鎌
石橋園子　同　公津
伊藤てる　同　八生
岩井伊喜子　同　本埜
二宮りやう　同　富里
大塚てつ　同　成田
大平美代三　重四日市
大矢晴江　香取多古
大坂てる　印旛遠山
小川て津　同　公津
小川美い　同　八生
小川喜已　同　同
小川千代　同　公津
小海川　貞　同　久住
若海ひろ　同　遠山
柏原房子　同　成田
吉岡てい　同　公津
吉田ヤエ　同　同
高梨　稔　同　成田
田谷なか　同　成田
瀧澤エセ　同　成田

共立女子專門學校在學

大妻技藝學校在學

家政女學校卒業

家政女學校卒業

第二十二回卒業生（昭和八年三月）（三十九名）

岩井　愛　印旛大森
岩内なつ　同　遠山
石原のぶ　同　成田
石原とし子　同　成田
五十嵐　孝　同　木下
長谷川初子　同　成田
長谷川道子　同　久住
長谷川悅子　同　成田
土肥かをる　同　公津
大須賀　みちい　同　八生
大木てい　同　中郷
大久保あい　同　本埜
大塚美智子　同　安食
小川壽美子　同　同
小川　繁　同　成田
小倉いく　同　八生
渡邊ふみ　同　成田
勝田幸子　同　八生
勝田かよ　同　安食
加藤りつ　同　中郷
加藤昌子　同　成田

大阪女子高等職業學校

村島貞子　同　公津
工藤あい　同　八生
山田美津　同　同
山本穎子　同　安食
山内智惠子　同　成田
山田照子　同　中郷
松田長子　同　成田
淺井ます　同　成田
安達　泰　同　遠山
秋山律子　同　成田
佐々木みや　同　成田
坂本孝子　同　成田
坂田タカ　同　富里
澤田貞子　同　久住
木内照代　同　成田
湯淺こう　同　同
湯淺貞子　同　公津
湯淺まさ　同　八生
三橋てる　同　成田
島　君枝　同　同
椎野よしい　茨城高田
椎名つね　香取多古

帝國女子藥學專門學校

實踐女子專門學校
共立女子專門學校

東京音樂學校邦樂部

戸板裁縫女學校

千葉產業組合學校

成鐵事務員

宍倉きよ　印旛成田
白石小夜　同　同
日野　郁　同　遠山
泉水とみ　同　公津
諏訪原よし　同　八生
鈴木　正　同　公津
杉田さた　同　安食

日本女子高等商業學校

第二十四回卒業生（昭和十年三月）（四十八名）

石川文子　印旛成田
石井　長　同　成田
伊藤多美子　同　成田
磯山きよ　同　公津
萩原しん　香取多古
萩原ます　同　多古
橋本せつ　印旛成田
豐田トク　同　成田
大須賀いい　同　八生
大須賀久子　同　安食
小川ひさ　同　公津
小川瑞江　同　安食
小倉澄夫　同　中郷
小倉しづ　同　成田

共立女子專門學校在學

佐倉高女研究科在校
目白保姆學校在學

渡邊　恭　同　成田
梶谷純子　同　安食
吉植文子　同　本埜
大德靜子　同　成田
大德順子　同　成田
橘　千榮子　同　成田
高橋うめの　同　公津
根本キヨ　同　安食
野々宮喜美江　同　安食
桑原とし　同　安食
桑原眞喜　同　安食
黑澤こう　同　富里
山口孝子　同　木下
山田しん　同　成田
山本勝子　同　成田
丸　ちゑ　同　公津
丸　きぬ　同　公津
福田まさ　同　酒々井
武士田照子　同　成田
越川光子　同　中郷
秋葉正子　山武千代田
秋山よう　印旛成田

東京女子藥學專門學校在學
實踐女子專門學校在學

成田幼稚園保姆見習
佐倉高女研究科在學
日本女子齒科醫學專門學校在學
佐倉高女研究科在學

笹川　光　山武千代田
木村　利　印旛成田
木内キヨ　同　成田
岸本美代　同　富里
湯淺勝代　同　八生
三橋正子　同　成田
島　正子　同　成田
肥後俊子　同　遠山
關端綾子　同　成田
菅澤多美　同　成田
鈴木せつ　同　公津
鈴木きみ　同　遠山

佐倉大石裁縫女學校在學

帝國女子專門學校在學
佐倉大石裁縫女學校在學

第二十五回卒業生（昭和十一年三月）（四十九名）

石井こう　印旛成田
石井きみ　同　同
石毛タカ　香取多古
稻垣ヨシ　印旛成田
伊地山悅子　印旛久住
岩井三喜子　印旛本埜
岩澤正子　山武二川
八田羽　京　印旛安食
土井こう　印旛成田

家政學院

東京目白保姆學校

川村女學院

私立大石裁縫女學校

東京目白保姆學校

帝國女子醫學專門學校

和洋女子專門學校

東京目白保姆學校

川村女學院

和洋女子專門學校

戸村　孝　印旛大森
大友文子　印旛成田
大塚かく　印旛成田
小川英子　印旛安食
小花さき　印旛大森
加藤多喜子　印旛八生
加藤ヨシ　印旛成田
香取たか　印旛久住
川崎以津　印旛公津
海保きみ　印旛八生
柏原和歌子　印旛成田
横田すみ　印旛久住
吉原春江　印旛成田
高瀬春子　印旛大森
立花久代　印旛富里
高岡たい　印旛遠山
久保庭ひで　印旛成田
山本とら　印旛安食
山野好子　印旛成田
丸　智惠　印旛公津
藤崎まさ　印旛安食
淺岡聖子　印旛成田

坂本慶子　印旛成田
齋藤榮子　印旛八生
佐藤ハツ　印旛久住
木村　文　山武千代田
湯淺きよ　印旛八生
湯淺いく　印旛八生
水野とし　印旛成田
三橋しん　印旛富里
清水ふさ　千葉千葉
清水久子　印旛遠山
芝山公重　印旛公津
塩田茂止子　印旛布鎌
江上とく　印旛成田
平間民子　東葛葛飾
諸岡君江　印旛成田
諸岡輝子　印旛成田
須合千代　印旛富里
鈴木智惠　印旛遠山

現在生徒及卒業生郡別表

昭和十一年四月現在

郡別＼區別	一學年	二學年	三學年	四學年	計	卒業生
印旛	四三	四七	四二	四一	一七三	七五四
香取	三	三	二	三	一一	三四
山武	二			二	四	一一
千葉						四
市原						二
東葛飾	一		一	一	三	四
匝瑳						二
海上						一
長生						五
夷隅						一
君津						一
安房						六
他府縣	五	五	三	一	一九	四七
計	五四	五五	五一	五〇	二一〇	八七二

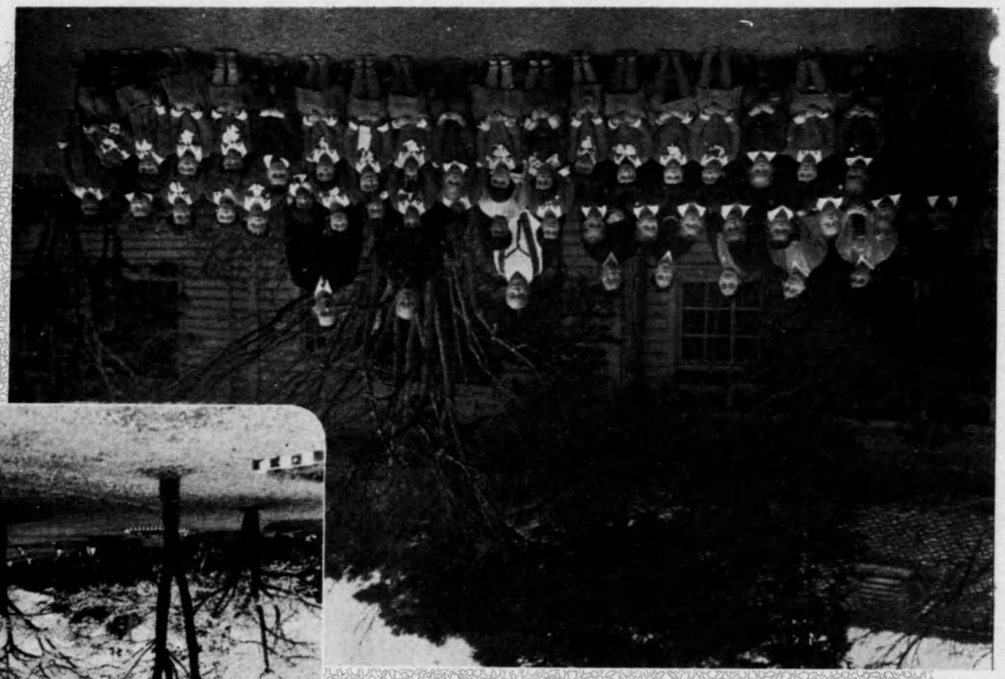
經費概表

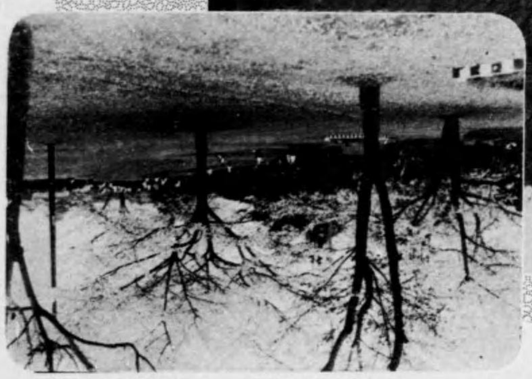
	俸給	雜給	修繕費	退職給與金死亡賜金	合計
昭和五年度決算	一三、〇七六、五〇	四、三三一、三一	五五二、五六	一、四七〇、〇〇	二二、四七九、〇三
昭和六年度決算	一三、六四五、〇〇	四、〇八三、一八	三六九、〇四	一、四七五、〇〇	二一、三二五、七四
昭和七年度決算	一二、九九五、〇〇	四、〇八七、四四	二九九、七七	一、三一〇、〇〇	二〇、四二七、〇〇
昭和八年度決算	一三、三〇〇、八〇	四、二〇三、二一	八七〇、三三	三六〇、〇〇	二〇、七五八、五四
昭和九年度決算	一三、三三三、〇〇	四、四七三、九一	五五三、四〇	五六〇、〇〇	二一、三六〇、三四
昭和十年度決算	一三、五五〇、〇〇	四、六六二、二七	六一七、九五	三六〇、〇〇	二一、三二五、七四

成田幼稚園一覽

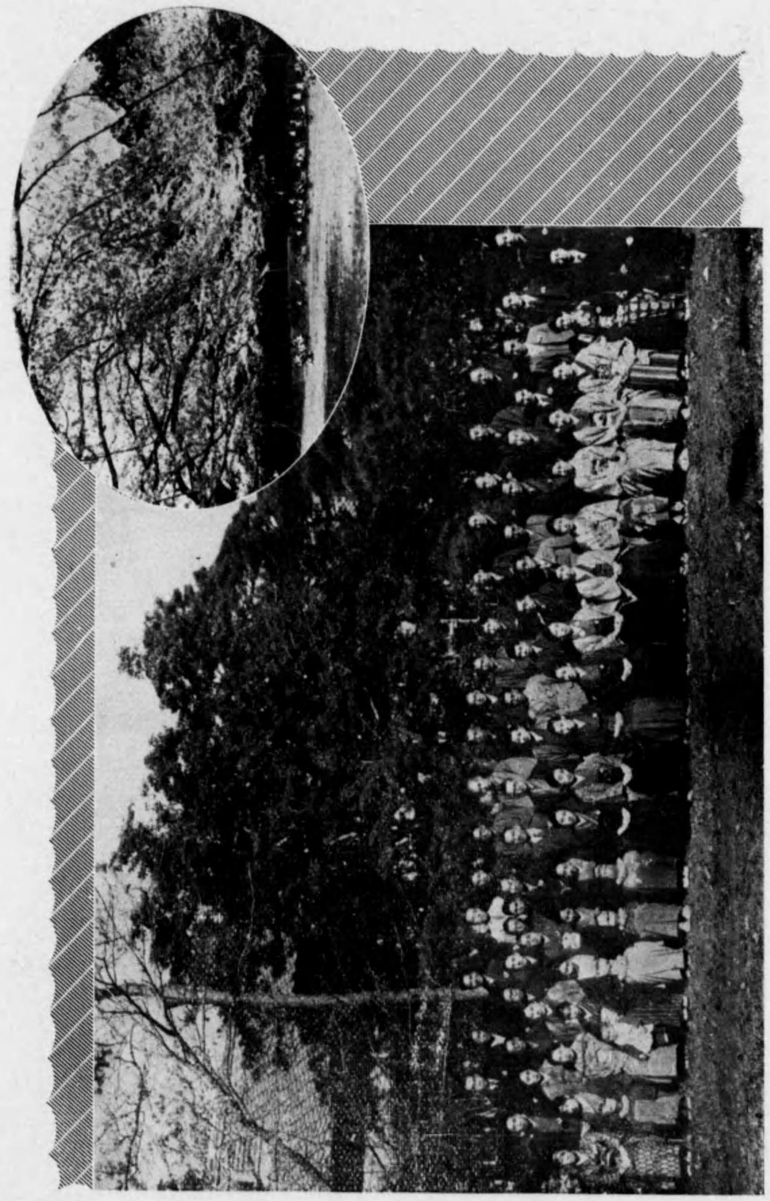
園歌……一
沿革……一
保育の狀況……一
設備と衛生的狀況……二
教授衞生に關する狀況……二
體育運動に關する狀況……二
保育料及入園料狀況……二
入園志願者狀況……二
入退園及年度末現員調……二
保育修了幼兒數……三
服裝の制定……三
修了兒……三
年中行事……三
休園日……三
職員……四
保育課目……四
幼兒保護者心得……五
灌佛會(花まつり)……六
端午のお節句乳幼兒愛護日……六
園生會の發會式(同窓會)……七

生了終青保回一十三第





部一の地國遊



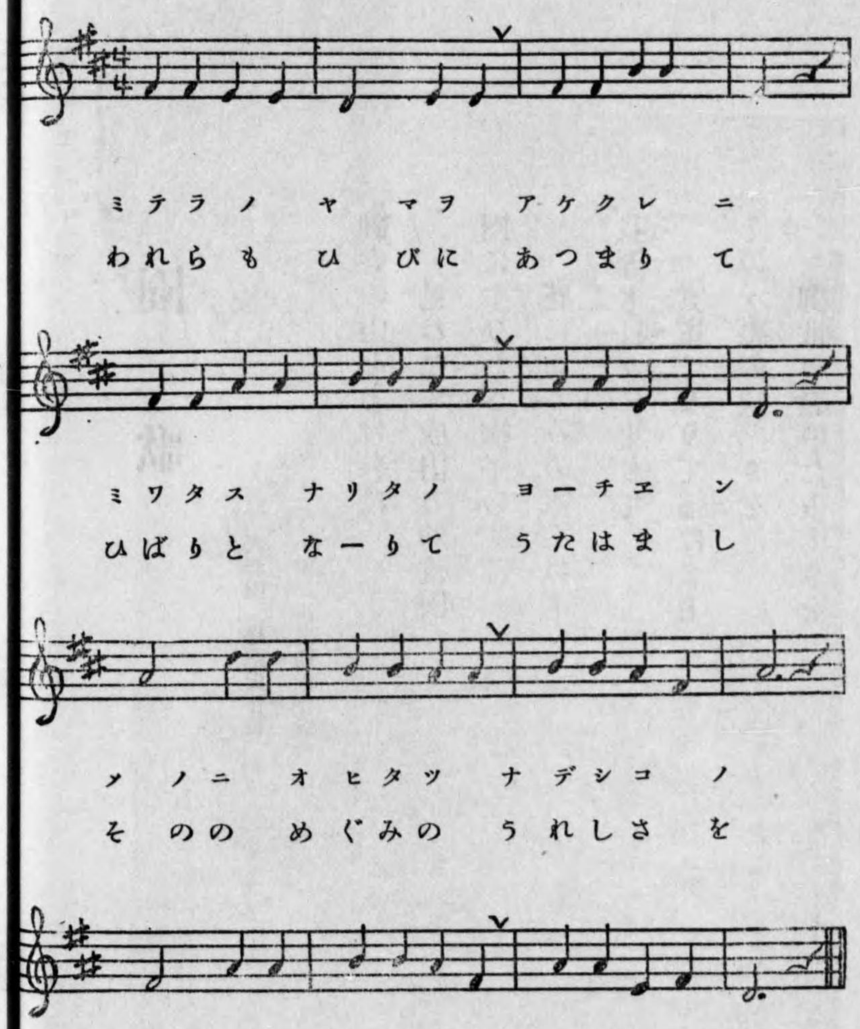
影撮念記式會發會生園

部一の地園遊

園歌

大和田　建樹氏作歌
小山　作之助氏作曲

御寺の山をあけ暮に
　見わたす成田の幼稚園
園に生ひたつ撫子の
　花にめくみの露しけし
我等も日々に集りて
　雲雀となりて謠はまし
そのゝ惠の嬉しさを
　御世の惠のたのしさを



私立成田幼稚園一覽

（昭和十一年四月現在）

一、沿革

明治三十八年五月日露戰役記念事業として成田小學校の一部に假保育を開始し仝三十九年六月現在の新築園舍に移る

一、幼兒保育の狀況

當園は保育期間三年とし滿三歲以上就學迄の男女兒を收容す

從來は二ケ年以上在園のものに限り入園を許可したるも昭和十年度よりは新に一年保育の係を設け希望者を收容する事となつた

現在幼兒數八十名之を三組に編成六名の保姆之を分擔す

各組の編成は年齡別とし保育修了迄同一保姆之を擔任す

保育科目は唱歌　遊嬉　手技　談話　觀察等各組年齡に應じて適度に之を課す

又昨年來ラヂオの放送に於て放送局に於て幼兒の時間を設けられたに付きラヂオを設置し火曜は幼兒の時間の外特に必要な場合を利用して保育の資料とし又幼兒に適するレコードを備へ蓄音機の應用に依り音樂の改善遊嬉の資料とす

保育時間は長きは四時間短きは即ち盛夏の頃とす

一、設備と衞生的狀況

園舍は平家建とし保育室は全部南面して北に廊下を控へ數しれぬ樹木繁茂せる森に包まれ且高燥な地域なれば自然の惠に富み保育室は四季を通して日光の調節宜しく且つ收容幼兒數も小數なれば凡ての点より見て最も理想的幼稚園と見る事が出來る

總敷地　一參千百八十九坪

全部芝生の遊園　一貳千九百參拾餘坪

建坪　一貳百五拾餘坪

尙　遊嬉室一。保育室三。園長室兼圖書室一。職員室一。應接室一。靜養室一。玩具室一。職員住宅二。小使室附屬建物一。電話室及廊下。昇降口等を有す

一、教授衛生に關する狀況

幼兒をして知らず〳〵の內に衛生的良習慣を養ふ目的より登園の際ハタキにて途中の塵を拂ふを先づ第一として携帶品の整理の後藥水にて手を清めたる後幼兒相互の遊ひを開始し食事の前後に於ける手洗ひ口漱き等より幼兒の最も頻繁取扱ふ積木の如きも藥品にて洗ひ强烈なる日光に照したる後に於て使用すボールドの如きも可成室內のものを避け庭園用の小黑板を芝生の庭に備へ付け清き外氣にふれつゝ自然を友として描かしむる場合を多くす又各所に洗面所手洗場を設け室內に又庭園に十分衛生に注意し日常くりかへす習慣より行ひ易き習慣を作り一面衛生的に導く事に留意せるため幼兒は最早行ひ易き習慣なりとて之を實行す

一、体育運動に關する狀況

室內に於ける遊嬉即ち樂器使用に依る運動輪遊びまり投げ等の運動は幼稚園に於ける一小部分の運動に屬し他は空氣清き芝生の庭の運動でこゝかしこに設けられた滑り台シーソーブランコ等より近來盛になつた繩飛で遊び殊に最近新らしい試みとして一人乘自動車拾壹臺を備へつけ廣い庭を西に東に園內を遊ぶ事は面白く且愉快な運動として試みる事となつた

一、保育料及入園料狀況

保育料は明治三十八年創立の際は全額五十錢二人以上の通園者を半額二十五錢とせしも大正十五年全壹圓半五十錢となり更に昭和四年度より全貳圓半壹圓に變更せしも昭和十年度より荒木園主猊下の幼兒教育普及の爲深きおほしめしに依り從來の月額貳圓を半額の壹圓に減額同時に半額の制を廢し昭和十年四月の新學期より實施した又入園料は本園では徵收せず

一、入園志願者狀況

從來は滿三歲の幼兒を少數に二年保育の幼兒を多數に收容の規定なりしも昭和十年度よりは一年保育の幼兒の入園を許す事に改正し之に依り十年四月より三年、二年、一年の各幼兒の入園を許した

昭和十年度入退園及年度末現員調

成田幼稚園

年度		入園	卒業	半途退園	死亡	年度末現員
昭和十年度	男	一三	一三			二五
	女	二〇	二五		二	一五

右ノ外昭和十一年四月末日調査現在園兒數

男 四六、女 三一、計 七七

昭和十年度保育修了幼兒數

男 一三、女 二五、計 三八

保育期間	修了幼兒姓名	保育期間	修了幼兒姓名	保育期間	修了幼兒姓名
三年	田中照一郎	全	伊藤邦義	全	瀧澤京子
全	長谷川昌夫	全	三橋博子	全	增村壽野
全	鈴木恒子	全	坂本富子	全	山內昇
全	清水倭文子	全	大澤順子	全	加納米子
二年	萩原喜久江	全	藤倉通子	全	片山操
全	奥主よし子	全	紺谷良正	全	福田きよ子
全	大木信夫	全	信田孝	全	松浦一郎
全	並木恭子	全	高須賀義夫	全	今井房子
一年	野村昌子	全	牧野重道	全	近藤宏子
全	藤崎俊枝	全	鵜澤勝子	全	大塚なか子
全	大川雅夫	全	田代禮三	全	龜谷エイ
全	芦田陽子	全	山野延子	全	三橋智惠子
全	成田祝子	全	木原正廣		

一、經費

一金六千百六拾九圓十五錢　昭和九年度決算額

一金六千五百四拾四圓五拾錢　昭和十年度決算額

一、服裝の制定

從來幼兒の服裝は各家庭の隨意であつた所昭和十年度より男女別に一定し昭和十年四月より着用する事となつた

一、修了兒

明治三十八年創立以來昭和十一年三月迄三十一回の修了生を出し其數男五百六十一　女五百四十七　計壹千百八人となつた

一、年中行事

一月八日　新年始業式　二月十一日　紀元節(梅のお節句)
三月三日　桃の節句　三月廿日　保育修了式(第卅一回)
四月七日　入園式　四月廿九日　天長節
五月五日　端午の節句と乳幼兒愛護日
六月一日　創立記念日　七月七日　七夕祭

一、休園日　大祭祝日の外

夏季休園　自七月二十一日　至八月三十一日

冬期休園　自十二月二十五日　至翌年一月七日
學年末休園　自三月二十一日　至四月三日
法會式日　七月八日
氏神祭　七月十七日

一、職員

園主兼園長は成田山貫主荒木僧正にして石川甚兵衛專務理事として之を補佐す

職名	氏名	原籍	就職年月
園主兼園長	荒木　照定	千葉縣	大正十三年二月
主任	山口　政子	德島縣	大正三年十月
保姆	若命　喜美	神奈川縣	大正十年三月
保姆	瀧澤　よし	千葉縣	大正七年十月
保姆	高田よしゑ	千葉縣	大正十年五月
保姆	西内　せゑ	千葉縣	昭和六年四月
代姆	山本　勝子	千葉縣	昭和十年四月
園醫(醫學博士)	藤崎　公道	千葉縣	昭和六年一月

一、保育課目

保育課目としては　遊嬉　唱歌　觀察　談話手技の五課目とし其他ラヂオ等より得たる諸種の談話を應用す

入園證書

原籍
出生地
現住所
族籍
職業
幼兒氏名
生年月日

右は今般貴園に入園御許可相成候に就ては本人に關する一切の事件拙者引受可申候也

右保護者
千葉縣印旛郡成田町何番地
何　某㊞

昭和　年　月　日

私立成田幼稚園長荒木照定殿

經歷書項目

一、生父健否　年齡
一、生母健否　年齡
一、兄　姉
一、弟　妹
一、生母ノ乳　乳母ノ乳
一、牛　乳　里　子
一、生來重病ニカヽリタルコト有無
一、性質習慣ノ著シキモノ

右報告申上候也

幼兒保護者　何　某㊞

昭和　年　月　日

私立成田幼稚園御中

一、私立成田幼稚園幼保護者心得

一、家庭と幼稚園の連絡に關する事
家庭と幼兒保育の連絡に就ては相互に協力するにあらざれば効果を得る事能はざるは云ふまでもなき事なるべしされば家庭と幼稚園とは常に氣脈を通じ内外相應じて保育の効を全くせざるべからず今彼此の連絡に關し當園の冀望を掲ぐ
一、家庭より當園の事に付き疑義あるか又は幼兒の事に關して擔任保姆に問合せ協議せられたき事あらば遠慮なく口頭又は書面にて申出でられたし
一、父母兄姉並に直接幼兒の保育に關係ある人は時々來園して當園の實況を視察し之を家庭保育の參考にせられん事當園の最も冀望する所なり
又春秋の頃子供の會を開き保護者諸君の來會を請ふを例とせり是一は實地保育の模樣を諸君に示し又一は諸君より家庭の狀況を聞き幼兒の保育に關し相互に懇話せんが爲なり日時は其都度通知すべければ成るべく來會ありたし
一、幼兒付添人に關する事
當園に於ては付添を斷る
但往復途中の送迎は隨意たるべし
一、幼兒の遊嬉に關する事

遊嬉は實に幼兒の仕事にして心身の發達一に之によるものなれば最も自由快活に之を爲さしむること必要なれども野鄙亂暴に渉るものは之を制せざるべからざるは勿論玩具等に就きても亦よく其良否を選定し繪本の如きは色彩の良否說明せる字の如何に依り幼兒を害する事は恐るべき事なれば其內容を充分に取調べられて幼兒に與へられる樣注意せられたし

一、幼兒服裝に關する事

服裝は園制定のものを着用する事

一、幼兒の携帶品に關する事

幼兒在園中に用ふべき器具其他總て園のものを使用する事なれば手拭鼻紙等必要なるもの、外は幼兒に携帶せしめざる樣致したし

帽子辨當傘の携帶品マントクツ等にも必ず氏名を記されたし

一、幼兒の往復に關する事

幼兒の往復は近來自動車其他の爲に故障生じ易ければ風雨其他注意保護せられたし格別の事情なき限り必ず徒步せしめられたし

一、幼兒の缺席並に家庭の疾病等に關する事

幼兒の缺席一週間を越ゆるときは口頭又は書面にて詳に其事由を屆出でらるべし凡て多人數の集る所は充分注意を爲すにあらざれば或は惡疾傳染の媒をなす恐あるを以て幼兒の家族に傳染病者ある時は直に其病名を記して屆出でられたし

但茲に傳染病と稱するは痘瘡及假痘、猩紅熱、腸窒扶斯、發疹窒扶斯、虎列刺、赤痢、ヂフテリア、ペスト等を云ふ

一、保護者の異動に關する事

保護者の變更は勿論其轉任改氏名等異動ありたる時は直ちに屆出でられたし

一、灌佛會（花まつり）

昭和十年四月八日成田高等女學校を會場として灌佛會が開かれまして幼稚園兒も參加幼稚園兒と小學校兒童の献花灌佛の後園兒、兒童、女學校生徒に依り遊嬉、唱歌、劇等もあり又東京より見えられた先生の童話もあり一日を意義深く送つた

一、端午のお節句と乳幼兒愛護日

昭和十一年五月五日端午のお節句を催した先づ室內には武者人形雄々しく飾り凡てを男の子にちなみて唱歌、遊嬉等も勇ましきものを選びお節句を祝ふラヂオの響き蓄音機の演奏も又樂しく併せて幼兒愛護日としての愉快な時を送つた

庭園は十二間二尺と云ふ竿頭高く吹流しまごひ　ひごひ　は元氣に泳ぐ其鯉のぼりの下に腰かけたり、おすわりしたり思ひ〳〵に集まつて「屋根より高い鯉のぼり、面白相に泳いでる」と幼稚園唱歌を合唱してお遊嬉する姿も元氣一杯で一同幼稚園からの心盡しの御馳走を頂きさつきの空のさわやかな庭の遊びに時を過しおみやげのおかしわ、手技の鯉のぼりを頂いて溢る、笑顏でかへつていつたかくして本年のお節句も樂しく終りました。

一、園生會の發會式（同窓會）

昭和十年は成田幼稚園にとりまして最も意義深い記念の年であり〻した

成田幼稚園は明治三十八年創立以來滿三十年を迎へ卒業生も既に一千百名近くとなり古き歷史をもつ幼稚園としてまた卒業生の樂しい思ひ出を語る會の設けはなかつた折柄第一回以來の卒業生中有志の叫びが起りこの滿三十年を記念するために同窓生を祝福し滿二十年以上の卒業生を會員として會名を園生會（そのふ會）と名つけるなど度々園に集合されました結果昭和十年十一月十一日のよき日を選び總會日と決定致しましたその前日の十日は發起の方も見えられて机腰かけの配置各室の準備など夜に入りて後までも皆樣が御熱心に御協力下さいまして涙ぐましいお力添へをたゞ〳〵難有さの極みに存しました

さて當日の十一月十一日何といふ幸福て御座いませう發會式を學くるにふさはしい申分のない上天氣園族は大空高くひるかへり園內の紅葉も色美しく彩どり花壇には菊の香も高く豫定の時間には七十名近くの會員が見えられた卒業以來園を訪ふ機會の少なかつた昔しの稚兒は久方ふりに昔遊ひなれたなつかしの庭をふみはけて園內に集合されました

この日別室には第一回以後年を重ねた數々の卒業其他の寫眞は室內に所狹く壁間にかゝけられましたが開會をまつ間會員は皆この室に集まつてその時代〳〵の可愛ゆい幼な姿に昔しを偲ふ思ひ出も深く會員の心は皆この寫眞室に注かれて次から次とお話に花を咲かせ忘れ勝ちになつた在園當時を追想されましてこの會ならては見られない樂しい時の移りてあつた愈々開會園生會の誕生に付ての經過又は會則等に付き報告打合せも終り續いて滿三十年を記念されまして園生會から記念品を贈られました

夫はあれこれと苦心されました結果その方面にけいけんの深い會員の心配に依り出來上つた大鏡二面を頂戴したのてあつた

この鏡は迚も立派なもので疊のお部屋に取つけまして園の設備に一段と美しさを添へ一面幼兒保育上に應用する資料ともなり會員の皆樣の園をお愛し下さる賜ものとして永く語り

露光量違いの為重複撮影

傳へんと雖有くお受したのてありました

やかて園旗の下に集合されました皆さんは園創立以來未た嘗て試みた事のない卒業生の樂しい會食に移り秋空の長閑な庭てお話は何れも幼き頃の物語りにのみ話題は進み午後は過し昔同し遊ひに過された唱歌とかお遊嬉とか又はお話に幼兒の無邪氣さをお目にかけ會員中より清元手品なと思ひかけぬ結構な餘興に樂しみを重ね後記念撮影をなし在園兒か覺束なくも造つた製作品をおわかちし會員は手に手に之を携へてさなから幼兒そのまゝの無邪氣に立かへられて思ひ出多い今日の日を深く心に置かれて夕暮も漸く迫る頃園のためにも又皆さんのためにも記念すべき床しい會合は終りました最初より何乎と御心盡しの方々を始め一致この會をなし遂けて下さいました皆樣に感謝を捧く

園生會

目錄（寫し）

一、大鏡　貳面

今般成田幼稚園創立三十週年ノ吉辰ニ當リテ我等同窓相謀リ園生會ヲ發會シテ以テ慶賀ノ素志ヲ陳ヘ併セテ聊カ感謝報恩ノ微意ヲ表シ度ク茲ニ記念トシテ右贈進仕候也

昭和十一年十一月十一日

成田幼稚園長荒木照定殿

成田學園一覽

沿革要項……一
位置……二
目的……二
設備……二
職員……二
關係事項概要……三
退園生狀況一覽……四
現在生狀況一覽……五
生活……五
入園……八
退園……九
教育成績……一三
經費……一四
基本金ノ蓄積……一五
感謝……一五

露光量違いの為重複撮影

傳へんと雖有くお受したのてありました

やかて園旗の下に集合されました皆さんは園創立以來未た嘗て試みた事のない卒業生の樂しい會食に移り秋空の長閑な庭てお話は何れも幼き頃の物語りにのみ話題は進み午後は過し昔同し遊ひに過された唱歌とかお遊嬉とか又はお話に幼兒の無邪氣さをお目にかけ會員中より清元手品なと思ひかけぬ結構な餘興に樂しみを重ね後記念撮影をなし在園兒か覺束なくも造つた製作品をおわかちし會員は手に手に之を携へてさなから幼兒そのまゝの無邪氣に立かへられて思ひ出多い今日の日を深く心に置かれて夕暮も漸く迫る頃園のためにも又皆さんのためにも記念すべき床しい會合は終りました最初より何乎と御心盡しの方々を始め一致この會をなし遂けて下さいました皆様に感謝を捧く

園生會

目錄（寫し）

一、大鏡　貳面

今般成田幼稚園創立三十週年ノ吉辰ニ當リテ我等同窓相謀リ園生會ヲ發會シテ以テ慶賀ノ素志ヲ陳ヘ併セテ聊カ感謝報恩ノ微意ヲ表シ度ク茲ニ記念トシテ右贈進仕候也

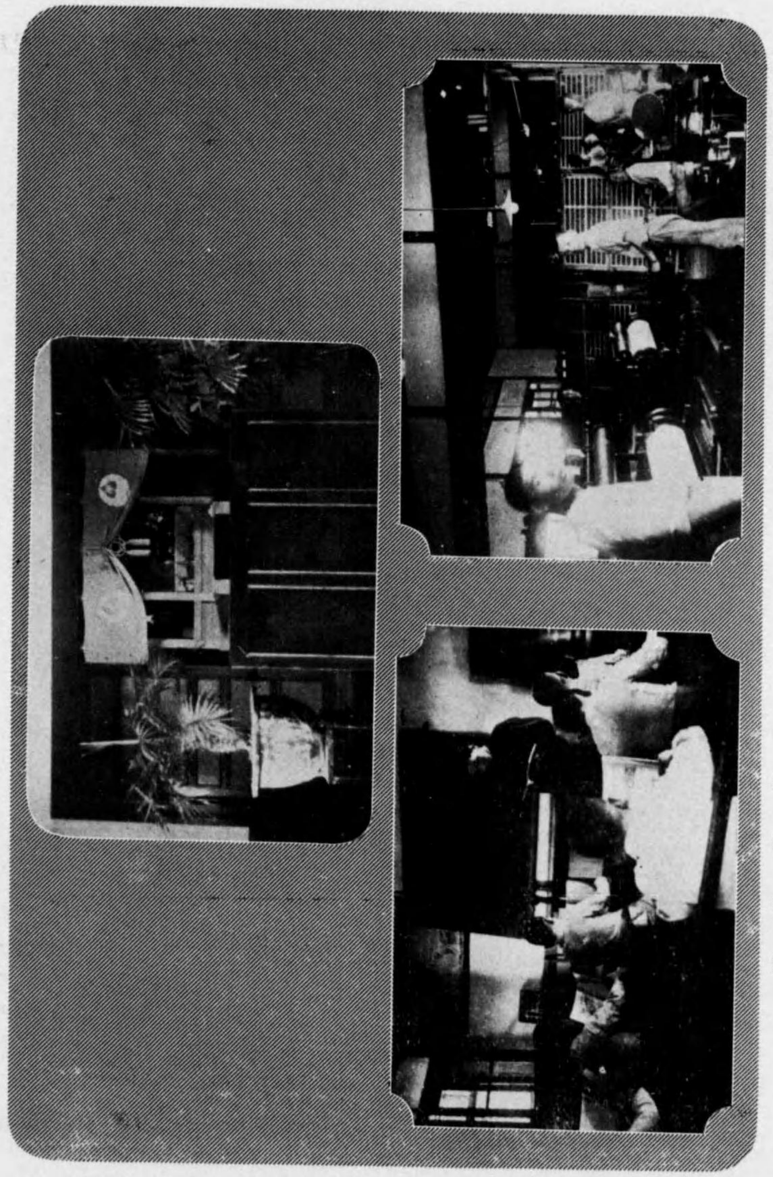
昭和十一年十一月十一日

成田幼稚園長荒木照定殿

成田學園一覽

沿革要項……一
位置……二
目的……二
設備……二
職員……二
關係事項概要……三
退園生狀況一覽……四
現在生狀況一覽……五
生活……五
入園……八
退園……九
教育成績……一三
經費……一四
基本金ノ蓄積……一五
感謝錄……一五

園　魯　田　故



印刷教室

講堂

理科教室

私立成田學園一覽

（昭和十一年三月末日）

◎沿革要項

一創　立　明治十九年十一月廿八日（認可同年五月廿四日）本縣下佛教各宗寺院共同事業として千葉町に創設。

一組織の變更　明治二十一年四月以降成田山新勝寺一手に本園を經營維持することに變更。

一園長更迭　明治二十七年五月二十七日舊園長三池照鳳師辭職。前園長石川照勤師就職。大正十三年一月三十一日石川園長遷化せられ現園長就職。

一移　轉　明治四十一年三月二十五日、現在地に園舍を新築して之に移轉す。

一御謄本下附　明治四十三年九月七日、教育勅語謄本並に戊申詔書謄本各一通下附。

大正十三年四月五日、國民神精作興に關する詔書謄本一通下附。

一皇族御來園　明治四十四年十月十七日山階宮芳麿王殿下　久邇宮朝融王殿下　華頂宮博忠王殿下　久邇宮邦久王殿下　山階宮藤麿王殿下本園へ御成り被遊。尚同月二十二日更に山階宮太妃殿下には御姫君安子女王殿下を御伴はせられ、本園へ御成り遊され生徒一同へ御菓子料御下賜の光榮を蒙れり。

一宮內省より御下賜金　本園事業御奬勵の思召を以て、大正十一年以降殆んど毎年其紀元の佳節に當り御下賜金壹封宛を拜受し今や本園基本金中の首位を占む。

一內務大臣より下附金品　本園事業上從來功績ありとし且つ奬勵の趣旨を以て明治四十二年二月十一日以降殆んど毎年金品御下附の光榮に浴し其金額蓄積して貳千五百圓、外に花瓶一對（市岡榮雲作　青銅製松上ノ鶴模樣）を有す。

一本縣知事より奬勵金　大正十一年以降毎年金圓を下附せられ蓄積して壹千八百拾五圓に達す。

一平和記念東京博覽會より銅牌受領　大正十一年七月十日先に出陳したる本園一覽に對し賞狀並に銅牌を贈らる。

一恩賜財團慶福會より助成金　當園講堂改增築助成金として昭和九年二月十一日金五百圓也の交付を受く。

◎位置

千葉縣印旛部成田町成田四〇二番地の一（電話成田百三番）にして成田山境内に在り、前面成田幸町より新勝寺へ往復する道路に沿ひ、成田停車場よりは約壹粁、成田不動尊よりは山上奥之院大日如來の伽藍を右に見、左方へ約二百米にして來たるを得。東隣出世稻荷への參詣者は左方に古木鬱蒼幽靜の間に一家屋を見るべし本園是なり。

◎目的

良からざる行爲を爲し、又は爲す虞ある兒童を收容し、少年教護法に準據して之を保護教養し、其資質の改善向上を圖るを以て目的とす。

◎設備

建物は明治四十一年三月二十五日の竣工に係り其後昭和八、九両年に亘りて增改築をなせり。敷地建物左の如し。

土地	三千百三十五坪
内譯	
一宅地	九百七十二坪
一裏山	千四百八十八坪
一耕地	六百七十五坪
建物	五棟二百八十三坪二合五勺

◎職員（○印は園内常住）

一園主兼園長	成田山新勝寺住職	荒木照定
一主任	正八位	大友惟誠。
一會計主任		淺井照次
一教師		笈川雪夫。
一實科教師		勝田吉治
一實科教師		押尾清
一保姆		大友靜子。
一實科助手		伊達好友。
一篤志園醫	醫學博士	藤崎公道
一篤志眼科園醫		山崎一雄
一篤志整骨園醫		小倉桂

職員一同は園長の指導監督を受くるは勿論、能く園長の精神を當園職員たるの自覺をにより、職務に從ふの外現在としては別に職員に對する成文の制令なし。唯協同一致して圓滿に且つ規律ある家庭を作るを目的とし、而かも此の範圍に於て自由に活動を許し妄りに牽制を加へざる組織なり。

藤崎公道氏は御岳父關川博道氏（前篤志園醫）のあとを受けて其職に在り、其經營にかゝる如春堂病院醫員を擧げて常に園生の保健に留意せられ、殊に疾病治療に際しては熱心親切に之に當らる。更に山崎眼科醫院長山崎一雄氏は眼科を、小倉整骨醫院長小倉桂氏は整骨外科を擔任せらる。されば入園し來る兒童は精神狀態薄弱なるに共に、身体亦强健ならざるもの多きにも係らず、日を經るに從ひ健康狀態良好となり稀に疾病負傷等あるも、後害を遺せし者なきは本園の最も欣幸とし最も誇りとする所にして、前記諸士の高情に對し深く謝意を表し居る所なり。

◎昭和十年度本園關係事項概要

一、園生入退園ノ狀況

前年度繰越園生	二十二名	新入生	五名
退園生	五名	現在生	二十二名

二、園生ノ疾病

名	病名	治療日	名	病名	治療日
勇	足腫	自四月一日至五月八日	義輝	扁桃腺手術入院	自七月三日至七月九日
信彦	手掌針刺	自四月十三日至五月一日	信彦	仝	仝
道弘	頭部腫物	自四月二十二日至五月十一日	義輝	齒痛	自八月三日
仝	眼病ものもらひ	自四月三十日至八月四日	仝	指腫	自九月三日至九月二十八日
六郎	足腫	自五月二十八日至五月二十一日	新吉	耳ダレ	自九月十六日至十一月八日
義輝	外傷	自五月二十二日	六郎	胃	自十一月十三日
富藏	トラホーム	自六月三日	利雄	足腫手術	自三月二十二日至三月二十二日
克己	仝	自六月三日至六月二十五日	等	眼病	自三月二十二日至三月十五日
八郎	仝	自七月七日至八月七日	勇	足腫手術	自三月十三日至三月十三日
謹次	仝	自六月十八日至六月十八日	利雄	肋膜炎入院	自三月二十二日至三月三十一日
榮	仝	自六月十六日至六月十六日	有勇	ジンマシン	自三月七日至三月七日
國生	仝	自八月四日至八月四日	仝	仝	自三月十九日至三月二十一日
新吉	仝	自六月十日至六月三十日			

三、御下賜金及奬勵金等拜受

一、宮内省ヨリ御下賜金　一封
一、内務省ヨリ奬勵金　四百圓
一、千葉縣ヨリ年末特別助成金　參拾五圓
一、千葉縣ヨリ奬勵金　五十圓
一、岩崎家ヨリ職業指導ヘノ寄附金四百圓
右の外諸方より本年度寄附金合計五十五圓也

四、特殊事項

1、皇太后陛下より御下賜品

四月二十日當園主任大友惟誠、篤志園醫藤崎公道兩名は多年少年教護事業に從事し其勞苦不尠として畏くも、皇太后陛下より特別なる御思召を以て文鎭御下賜の光榮に浴し同日縣廳に於ける其傳達式に臨み恭しく之を拜受せり。

2、修學旅行

春季の旅行は年長、年少の二班に分れ年長班は五月十五日奥多摩方面に年少班は仝月二十五日東京方面に之を實施す秋季は十一月九日全員一緒に房洲館山方面に旅行し館山航空隊を見學し鋸山に登れり。

3、臨海生活

八月五日より仝月十九日まで二週間、本年も山武郡緣海村木戸海嚴寺住職小林祐然師の御厚意により其寺院の一部を拜借して生活を此處に移し愉快の中に心身の鍛錬を圖り少からざる好果を得たり。

4、印刷部

其後仝部は極めて順調に發達し本年度に於ては小型ロールを大型のものと取替へ（目下ロール印刷機は菊八一台四六八二台の計三台）又活字の磨滅を慮り明朝五號及仝六號を仝部新型活字に鎔込替を決行せり。

昭和十年度本園退園生狀況一覽

名	生育府縣名	家庭の職業	生計	生育	退園月日	退園現在理由	成績	現在職業
イ	東京	染物屋	下	實父母	四月八日	改善	良	海軍機關兵
ロ	東京	按摩	下	兄	四月十日	改善	良	活版印刷
ハ	東京	土工	下	實父母	六月廿五日	改善	良	理髮屋
ニ	東京	家具	下	實父母	七月廿八日	請願	良	家庭にあり
ホ	東京	無職	下	實父母	九月十二日	請願	不明	音信なし
ヘ	千葉	無職	下	實父母	十月廿日	請願	良	家庭にあり
ト	栃木	無職	下	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
チ	千葉	無職	下	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
リ	東京	無職	下	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
ヌ	茨城	無職	下	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
ル	東京	無職	下	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
ヲ	東京	無職	下	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
ワ	東京	無職	中	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
カ	千葉	無職	下	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
ヨ	東京	無職	下	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
タ	東京	無職	下	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
レ	千葉	無職	上	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
ソ	東京	無職	中	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
ツ	神奈川	無職	下	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
ネ	千葉	無職	下	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
ナ	東京	無職	下	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり
ラ	千葉	無職	下	實父母	十一月廿日	請願	良	家庭にあり

現在生狀況一覽

略名	生育府縣名	入園年月日	家庭ノ生計	家庭ノ職業	生育	現在ノ年齢	現在ノ學力
イ	東京	七、八	下	お針	繼母ノミ	十九才	高二
ロ	千葉	七、五	下	被雇	實父繼母	十五才	高一
ハ	東京	八、四	中	勤メ人	兄	十八才	高二
ニ	東京	九、九	下	勤メ人	實父繼母	十八才	高二
ホ	千葉	八、七	下	カフエー	實母	十三才	尋五
ヘ	千葉	八、七	〇	〇	〇	十二才	尋四
ト	栃木	八、七	〇	〇	〇	十四才	尋四
チ	千葉	七、五	下	被雇	實父繼母	十五才	高一
リ	東京	九、九	下	勤メ人	實母繼父	十九才	高二
ヌ	茨城	八、六	下	被雇	實父母	十六才	高一
ル	東京	二、一	下	建具職	實父繼母	十五才	高一
ヲ	東京	五、一	下	土工	養父繼母	十五才	尋六
ワ	東京	六、八	中	請負	實父母	十四才	尋四
カ	千葉	九、六	下	被雇	實父繼母	十三才	尋四

◎園内生活

本園の生活は普通一般に於ける温き家庭生活と毫も異なる所なし。尤も普通教育と異なり或る一定の時間を限り教育するにあらずして、普通教育の時間以外、家庭教育として一般の躾をなすと共に、信仰の觀念を生ぜしむるを以て實に本園生活の精神となすが故に、此根本の精神に基き、總ての施設方法を實現し居れり。其生徒待遇の方法に至りては、慈悲仁愛の情を以て之に對するは勿論、一面には亦整然たる規律生活をなさしめ亂雜放肆に流れざる樣最注意せり、然れ共本園家庭内の大小悉く豫て定めたる成文によつて行動せしめ、監督すると云ふが如き

方法にあらず、常に便宜を主とし、温き家風、自然の慣例により之を訓練し、力めて愉快なる生活をなさしむるを以て主眼とせり。約言すれば本園の生活は信仰ある規律正しき家庭生活といふを得べし。

日課　及其説明を擧ぐれば左の如し。

午前五時起床　直に掃除
午前六時　ラヂオ体操
午前六時二十分　御拜
一、皇室の萬歳を奉祝す　二、大廟遙拜
三、成田山不動尊禮拜　四、各自先祖敬拜
午前七時　朝食
自午前八時至正午　學科
正午　晝食
自午后一時至同四時　實科（年長者は五時迄）
午後六時　夕食
自午後六時半至同八時　學科（年長者は九時迄）
午後八時　禮拜後就床

以上の如く定むると雖も、時季により時々變更するは勿論、便宜上臨時變更することあり。

起床　朝起は新勝寺の曉鐘に警醒せられ蹶起せざるを得ざる習慣を作れり。但本園のみならず成田町一般に此良習を存するが如し。

清潔　清潔は本園の最も努むる所也毎朝掃除の外日に數回之をなし時々大掃除及各室の清潔整頓を檢査す。

衣類　普通の衣類を用ゆ。曾ては制服ありしも今は之を定めず。

御拜　毎朝講堂に於て之を行ひ、兒童に敬虔の心を養成せんが爲め職員特に敬虔的態度を持し、最も嚴肅に行ふ。本園修身教育の大本として教育勅語の御聖旨を奉戴する事勿論にして、之が實踐躬行の實を擧ぐるは宜しく信仰の力に依りて之を喚起せざる可らざるを信ず。本園の特徴として成田山不動尊を信仰せしむる所以卽是なり。

訓話　一般に對する訓話は毎朝先祖敬拜の際、及就褥前不動尊禮拜の時之をなせ共、平易簡單にして之が爲め多くの時間を費さず。何となれば職員は生徒と起臥を同うし行住座臥の間、之が師たり父兄たるの心を待し、實踐躬行所謂行を以て訓ふるを旨とすればなり。されど個人に對しては、機會を捕へ之に投じて、其兒童に適切に徹底的に訓話をなすは勿論なり。

食事　常に兒童の榮養狀態を考慮し食事には相當の意を用ゆ。特に先年より試みたる三分搗、（園内に動力精米機を設備し純無砂にて精米す）は、保健上好結果を示しつゝあり。而して職員生徒皆一堂に集りて食を共にす。單に食事のみならず本園の生活は總てに於て、

「共に」　といふ事に最も留意し、學ぶも働くも遊ぶも、常に職員生徒其行動を共にし、美しき園滿なる家庭を作る事に努力す。此**「共に主義」**は特に兩者の親しみを深むるのみならず、教育上最も大切なる個性の觀察てふことが兒童の種々なる場面に於てなし得る便宜多きを喜ぶものなり。

學科　概ね小學校令に據る教科目により、午前中三時間乃至四時間（但雨天又は冬期は午後に及ぶ事あり）夜間二時間殆んど個人的教授をなす。但特に重きを讀方書方綴方算術珠算等の實用學科に置けり。尋常科を卒業せし後尙向上の見込ある兒童にして、且品行最早差支なしと認めらるゝ時は上級の學校へ通學せしむる事あり。

實科　農業、活版印刷及簡易なる製本、手工等を課す、但し冬期は農業を行はず。耕地は目下二段二畝余歩を有す。印刷部は創設日尙淺く、未だ完備の域に達せざるも普通の設備を有し、主として新勝寺關係の印刷物を以て其の實習材料に充て、生徒中嗜好性能之に適せる者を撰びて習得せしめつゝあり、園内に於ける實科に對しては生産的職業的技能を與へ、實社會に出でて直に夫に依て自活し得るものを撰ばざる可らずと論ずる者あり、本園固より考慮したる事にして、先年印刷部創設の如きも其一端なるが、三四の業務を設備したりとて到底、全生徒の個性嗜好に悉く適せしむる事至難にして、强て職業を狹き範圍に押込むる嫌あり、殊に學園に適する授業師たる人物を得る事至難にして、施設の繁多なる割合に好果を收められざる遺憾あり、依て本園は教育終局の目的を主眼とし、身體の鍛錬、精神の訓練、特に勤勞性の養成を目的とし單に以上のものを設くるのみ、尤も年齡其の他の關係よりして、在園中、職業を與ふるの必要ある者に對しては當町内の家を撰み、之に委託して本園より通勤其職を見習はしむることあり。

娯樂　兒童の性情を圓滿に發達せしめ、愉快の中に教化の目的を遂げんとして娯樂には相當の意を用ゆ。

一、庭球及少年野球　娯樂に供する外、體力養成にも資せんとして之等を設けたるに、一同喜びて之を遊び、晴天の日は殆んど其遊び時間を之に費し居れり。

一、娯樂室　疊數九疊板敷十坪二室より成る娯樂室を設けラヂオ（電蓄兼用）ピンポン、カロム、碁、將棋、等の娯樂具を此所に集めて樂しましむ。

一、生徒圖書室　此所に有益なるお伽噺雜誌、寫眞、繪畫等を置き、兒童の閲覽に供す。尙時々圖書館より圖書を拜借し來り此室にて閲覽せしむ。

一、散歩遠足及旅行　毎月一日十五日二十八日及日曜日の午後不動尊に參拜、終つて散歩せしむ。又附近神社佛閣の參拜、水泳、船遊、魚釣、茸狩、栗拾ひ、或は單なる山遊等にて數々山野を跋渉し、郊外に遠足し、娯樂に兼て體力養成を計る。尚春秋二回汽車電車自動車等に乘りて遠方へ修學旅行をなす。

一、四大節及本園記念日　當日は祝賀式後種々なる余興をなして一日を祝はしむるを以て、兒童は頗る樂こなし居れり。

一、誕生祝　園長を始め、職員生徒の誕生日には其夜職員生徒一堂に團欒し、茶話會を行ふ。特に生徒の誕生日には該兒童には一日の休暇を與へ、早朝不動尊に參詣、其立身出世を祈らしめ本園よりは祝意を表して、小遣を贈り又特に御馳走を供す。

一、五月節句　柏餅にて茶話會を開く。

一、降誕會及義士祭　毎年四月八日十二月十四日に於て祭祀を行ひたる後、園生の相談になる趣向に依り餘興をなす。

右の外生徒各自が時節により流行によりてなす遊戯例へば輪廻し獨樂歌留多双六陣取鬼事（其他種々）等は大抵自由に任かし、濫に拘束を加へざるのみならず多くの場合職員之に加はるを常こす。

賞罰　總て普通の家庭こ狀態を同うせしむる希望なるが故に、賞罰の如きも固より格別の定なし。毎年三月二十五日は本園の記念日にして當日は多くの賞與を與ふるを例こするも、平日は格別なる善行ある場合の外は賞與を實行せず。生徒の席順は一日より月末に至る一ヶ月、各生徒の操行成績を調査し、右の結果により（日々の成績表に依るの外更に職員の意見を附加す）翌月一日席順を改むるの例なり。

而して其席次並に勤勞振りによりて更に優劣を採り、夫々手當を給し、貯金をなさしめつゝあり。

おやつ　毎日之を與ふ。尚篤志の人々より時々菓子等を生徒に寄贈せらるゝことあり、又園長手許より生徒を慰めよこて特に珍菓水果子等送り來ること數々なるのみならず、園職員へ他より贈られたる菓子等も大抵生徒に分與するを以て、實際に於ては間食の度數割合に多き方にして、是等の方法は總て一般家庭の生活こ異るここなし。

◎入園

一、年齡　滿七歳以上十六歳未滿。（何れの地何れの家庭より依頼せらるゝも差支なし）

一、謝絶　一、白痴　二、不具者　三、病者　四、不良程度のあまりに深き者。

一、手續　本園の教育を依頼せんこするこきは學校の通信簿を携へ保護者來園のこと。但し遠隔の地に在る方は郵送相談せらるゝも差支なし。而して愈々入園の節は當園所定の書式（別に印刷せる用紙あり、それに記入のこと）による書類こ戸籍謄本を差出さるべし。

一、在園費　在園中は在園費こして左記の通り毎月三日までに前納するを要す。

但し家計の都合上左記の金圓を納め得ざる方には其一部若しくは全部を本園に於て補助す

一金拾圓　滿七歳より十歳まで。
一金拾貳圓　滿十一歳より十三歳まで。
一金拾參圓　滿十四歳より十六歳まで。以上

備考　入園の手續は前記の如く何等面倒なく極めて簡單なり。又前記の書類と雖も依頼人の希望によりては本園に於て代書するも差支なし。入園の際は書籍文具衣類夜具等現に所有するものを持參の事。

保證人は戸主にして身元確實なるものを撰定せられたし。

新に入園生ある時は先づ、入園前の非行に對し懇々訓戒を加へたる後、本園生活の要領を知らしめ、最早不動明王の惠により全く生れ更りたる人こなり善良に進むべきを諭し、講堂に於て入園式を行ひ本園の人こならしむ。

◎退園

生徒の改善を認め退園を許す迄には種々の階段を附せり。第一に不動尊を信仰する態度、第二園外に使に出し時々金錢を携帶せしめ毫も不都合なきこき、及日常の操行、右半年以上乃至一年間同樣に持續するこきを以て改良生こ認め退園せしむ。若し不良の原因、其の家庭にあるこきは可成直に家庭に歸さざるを以て適當こし、父母の同意を得て本園より直に本人の性行に適當する職業を撰び、其家へ紹介し就職せしむるこことになし居れり。此場合に於ても其家庭及周圍に十分注意を拂ひ撰擇をなすは勿論なり。

本園の尤も心勞するは實に此の退園後の成績效果なり。何こなれば在園中如何に改善の成績を占め得たりこ確信する生徒たりこも、退園後の環境其他により、動もすれば逆戻りをなし其効果を破壞せらるゝ虞あればなり。故に本園に於ては退園後の成績効果に對し周到なる注意をなすこ共に、油斷なく左記の保護視察をなす。

第一本園職員の視察。第二本園こ書面の往復。

就中書面の往復は本園の勉めて勵行する所にして事體甚だ平

凡なるも最も有力なる効果あり。尚事情の許す限り退園者とは親戚樣の關係を持續し行く事に努力し居れり。

左記は退園生よりの最近の手紙二三なり。（原文のまゝ）

拜啓昨日は御伺ひ致しました所大變御馳走樣になり又結構な物澤山頂きましてかへつて御迷惑を御掛けして有難く感激致して居ります厚く御禮申上げます先生如め奥樣も私如き者を心より御迎へ下さつて何とも御手紙では申上げる事出來ず感じて居ります成ちやん恭子ちやんもいつ參りましても御惡ひ下さいまして私全く嬉しくてたまりません益々御子樣方の學業優秀を御祈り致します又先生の御かげを持ちまして私を表彰して下さいまして誠に有難う御座いました一層先生奥樣の御殊旨は体し奮勵致しますと供に一時も早く深川の叔母樣にこの喜びを分ちたく思つて居ります昨日私御伺した時奥樣御病氣でずい分心配致しましたが私のあまり上手でない技術御賞めに與り見るまに御全快にお成り全く安心致しました

あの頂いた御金先生の御言付通り獨立の基金に致します

では來月御伺ひさせて頂きます

時節柄益々先生始め皆々樣御身体を大切に奥樣御二人に宜しく

久しく御無音に打過ぎ申譯御座いません

私等結婚式の節は結構なる御祝を戴き誠に有難う御座いました

又式當日は宴會場で有難き御教訓の祝詞を戴きました事は身に餘る光榮と存じます

あのお言葉を拜聽致しておりました私は有難さが身にしみて涙がとめど無く出て參ります事を如何ともする事が出來得ませんでした

昔に變らぬ先生の恩情を何よりも有難く感ぜられました

私達はあのお言葉を終生忘れる事なく腦裏深く刻み込んで先生の御期待に沿ふ樣努力する覺悟でおります

お禮の御手紙早速に差し上げねばならなかつた私等ではありましたが私宅への引越や式後の儀禮に又新しき生活のめまぐるしさから只今迄延引致しておりました事を深くお詫び申上げます

早や私達も婚してより一ケ月の月日を過して參りました其の間只今の處無事一家の者と樂しい毎日を和を以つて暮しております

今後も先生の御教訓を充分活用致して必らず現在の樂しき日を送る樣努力致します

それから先日御送付申し上げました寫眞は都合上複寫燒付けましたもの故明瞭を缺いておりますが惡しからず

申しおくれましたが先生初め皆樣御壯健にお暮らしの事と存じ上げます氣候も日を追うて暖さを增して櫻花咲く日も早や目前に迫つて參りました

でも此の樣な氣候不順の折が兎角身体をこわし易い時です故充分身体に御注意下さいます樣今日はこれにて失禮致します

先づはお禮迄

拜啓御無沙汰致しました先生皆々樣には御障りもなく御暮の事と存じます小生も丈夫で働いて居りますから御安心下さい成彦さんには無事入學なされた事と存じます先般奥樣御上京の節は種々御配慮下され其の上御小使まで頂戴致し誠に御禮の申し樣も御座いません

先生御承知の事と存じますが御主人樣の御言葉には法政よりも市立牛込商業（牛込區津久戸町）の方が良いとの事故後者を受驗致す事に致し二十三日に受驗致しました所算術一題と書取を一字間違えたので心配して居りましたが二十五日の發表に依り御蔭樣で入學致す事が出來ました此れも皆先生皆々樣の御力に依る事と深く感謝して居る次第で御座います此の上は尚一層奮勵努力致し皆々樣の御厚情に報る覺悟で御座いますでは皆々樣の御健康を祝し申し上げます

先づは御禮旁々御報申し上げます　左樣なら

拜啓其の後は永らく御無沙汰致しました

先生にもお變り無く御過しの由何より結構の事と存じます僕もお蔭で無事勤務に從事致してをります扨て昭和十一年度の新春を迎へ吾等在滿將兵は愈々報國の念にもへております

近き凱旋を前に控へ最後の御奉公と吾が十六師團の勇士達は死に物狂ひで討伐に勤務に精勵致してゐます僕も只今のところは勤務で追はれてゐます二月の九日より當隊も興安嶺大壘河滿洲里の方へ大部分の者が耐寒演習の目的で出發する豫定ですあちらは當地よりまだ〳〵寒いさうですチチハルは現在のところ〇下參拾八度ですそれは最底ですまだ〳〵二月に入ればもつと降る事と思ひます

一番に此度の耐寒演習が案ぜられます溫度の低い處でどの位將兵が耐へられるか又有線無線の電話がどのていど迄通ずるかと云ふ關東軍の命令で調査並びに試驗の爲めに行くのです一番凍傷であぶないのが耳手足鼻等がどうかと思ひますが充分氣を附けてやつて來る積りです

話は違ひますが母の住所が解つて手紙を出したら返事がすぐ來ました渡滿して始めて母よりの手紙全く嬉しかつたです今後共通信する積りです（下略）

先生にはいかゞ御暮しで御座いますか私しもその後も相變らず無事健康で目的遂行の爲努力して居ります御安心ください此方も此頃は毎日二十度内外の寒さですがさほど身にもこたへず毎日朝五時半に起床して舍庭にある國旗の元に團員一同集り遙か國境の山を越た故國にむかい滿洲の奥地の大自然の大氣を吸いつゝ皇國の彌榮を三唱する時の氣持は自分等にとつてどのくらい力强く響くかそして新しき社會建設に務める事のできる事を思うとより一層自分等の責任の重大である事を感じると共になんの拘はりもなんの不平もなく眞の人と人の團結あつてせいこうするのだと考へて居ります

あのひねくれ者で有つた私しが今日此の立場に置かれたのも神のおかげ又先生の自然のごきようくんのたまものと思つて居ります皆様にもよろしくおつたへくださいますよう又眞事にもうしかねますがなんぞ修養になる本が御座いましたら御借りしたくぞんじますいかゞでしようか寒さに向う折りから御身御大切になさいますようさようならば又折り折り御手紙をいたします

拜啓長い事御無沙汰いたしまして申し譯ございません
其の後先生様御一家様には何んの御變りも御ざいませんか私共一同も相變らず元氣でつゞけて居ります故御安心下さいませ
又生徒諸君は御元氣ですか私も一度參上いたし度く存じますがいまは少しくいそがしく御座居ます故少しひまになりました時はもう早速スツ飛んで行きますよそれにつけても思ひ出すのは成田の春ですもう櫻もつぼみを持つて今にもあのきれいな花をこの世にのぞかせようとして居る時我々生徒の心は來るべき二十五日の記念日の希望をいだいて活躍したものでした今年も又きつとその通りでしようあの等君八郎君も今年の記念日も笑ひの内にふつ飛ばさうとその種あつめに餘念の無いことであらうと思ひますそして記念日そういへば去年は御前様がいらしやつて「心の鏡」といふお話でしたその前は「機械になるな」といふのでしたねその前は御院代様で「發心決心相續心」等でしたね今年は如何なお話かしらと考へられますさて紀念日も終り花咲く四月そうなると我々の心も浮々として來るのを如何ともし難かつたものでした仮裝の花見客等が通ると思はず外に氣をとられるのもケースにもたれて話の多くなるのもその頃ですしかしそれにつけて思ひ出されるのは先生のお言葉に「心の手綱を緩めるな」といふことです今年はそれを思ひだし直一層心をひきしめ様と決心しました故御安心下さいませ
くだらないことをとりとめもなく書きましたがたゞ學園のことを御不動様のこと成田のこと先生のことをいつも忘れては居らぬことをどうぞお察し下さいませでは御体を大切に　草々

先生昨日は色々と有難う御座居ました僕が大塚へ着いた時は（八時五分）過ぎでした朝大塚を出る省線は勤の人又は學校へ行く人で大變でしたが歸りは五六人位でした家へ着きました時（八時二十分）でしたそれから先生に頂きましたお小使は今日貯金帳につみました昨日は大變御馳走様になりました身體を大切にしてくださいでは先生さようなら皆様に宜しく

◎教育成績

明治十九年開園以來入園生二百四十四人にして歴史の古きに比し其數甚だ少き感あり。之は此教護思想の未だ普及せざりしこと、當園の所在が都會ならざりしことに原因するは勿論なれども、更により大なる原因あり、そは當園が敢て在園生の多きを欲せざりし事なり、在園生の多數といふことは外見上極めて立派なるも、此教育の性質上決して望ましき事にあらずして、教育本位に之を考ふるならば少數程効果的なるは明なることなり、當園が幸に經營上の困難なく、專ら教育効果を本位に考へ外見を飾るの必要なき爲め、常に園生の多きを欲せざりしなり、現在としても優に三四十名を收容するの設備は之を有するも、成るべく二十五名位より多くせざるも此故なり。

以上記載したるが如く形式は兎も角、實質に於ては飽くまで子供本位になし居るが故に、其成績も割合に良好なるを喜び居れり、試に最近の成績をあぐれば左の如し。

大正十年以降の入園者百三名（但入園後二三ヶ月にして教護不能として謝絶したるもの五名あるも此中に含まず）

退園生　八一名

内

時々文通等あり成績良しきもの	五五名
成績良好なりしも死亡したるもの	六名
文通なく成績不明憂慮中のもの	一七名
成績不良にして他に收容せらるゝもの	三名

現在生　二二名

成績良しきもの五十五名の現在職業

商業　七人、印刷業　十人、兵役　三人、鐵工　四人、農業、洋服屋理髮各二人、僧侶、藥劑師、專門學生、滿洲國官吏、商業學生、左官、海軍兵、植木職、土工、興行、寫眞師、自動車助手、石工、大工、漁師、綱屋、活動俳優、パン屋、せんべい屋、給仕、豆腐屋、會社員、染屋、ワイシヤツ屋、各一人

入園時教育程度と年齢（明治三十四年以降）

	九歳以下	10	11	12	13	14	15	16	以上	計
不就學	二	五	三	五	三	二	一			二二
尋一	一〇	二	二	一			二			一七
尋二	三	三	一	一	三	三	二			一六
尋三	二	六	二	二	四	三	二			二三
尋四		一	三	九	五	四	四	三		二九
尋五			二	五	一	二	二	五		二七
尋六				一	五	七	七	五		二五
高一						三	五	三		二一
高二以上							一	二		一三
計	一七	一七	一三	二四	三一	二四	二六	四一		一九三

入園時保護者と年齢（明治三十四年以降）

	九歳以下	10	11	12	13	14	15	16以上	計
實父母	二	一	二	八	一二	九	一〇	一四	五八
實父	一	二		三	四	一	二		一一
實母	二	一	二		二	六	二	六	二六
繼父、實母		一	三	一	二	二	二	二	一三
實父、繼母	二	七	二	五	五	四	六	一〇	四一
養父母	一	一	二	三	二		一	二	一三
祖母	三	二							一
其他ノ親族	五		一		二	一	一	七	八
保護者ナキ者	一	二							一
計	一七	一七	一三	二四	三一	二四	二六	四一	一九三

入園時保護者の職業（明治三十四年以降）

農業	商業	古物商	諸職人	官公社員	會社職員	飲食業	荷馬車業	寫眞業	按摩師	車夫	計	被雇人	山守	墓地守	姿婆屋	相場師	下宿業	產婆	自動車業	遊技場	紙芝居家	教育家	計
三	二	二	一	五	三	〇	二	一	二	二	三一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	二	二一

漁業	家畜	鐵工	無職業	代用人	金貸業	植木業	其他ノ職業者	計	農夫	從業者	場所	人夫	業者	業者	計
二	一	一	一	五	二	三	一	一九三	六	一	二	七	一	八	六

◎經費

本園には嚴密なる豫算なしと云ふ方事實に近し、固より大體の豫算を定め置き、右を標準として支出をなし、嚴に濫費を防ぐ事は勿論なりと雖も、實際には必要に重きを置き、必要なる以上は實費を支出するに躊躇せず、況んや厘錢に拘泥するが如きをや。從て亦豫算内なりとて必要なき費途に無理に消費するが如きときは無論なり。毎月定日本園經費の金額を新勝寺會計主幹より領收し、之を支出するの慣例なるが會計上園長及主幹より未曾て一言の注意質問を受けたることなし、全く深き信賴を與へて濫りに細小の監督を加ふるが如きはあらざるなり。此結果は自然局に當る者に對し自制心を與へ、求めずして總ての節約行はれ、其効果は慥に豫算を限定する以上にありて更に頗る便利を極め居れり。左に記載するは昭和十年度の決算なり。

昭和十年度收支決算

歳入經常部　一五、七八二圓〇二錢

内譯

財產收入	四六〇、八四	基本金利子
在園費徵收	一、〇四八、八〇	
官公廚助成金	七八五、〇〇	宮内省、内務省、千葉縣

作業收入	八、七五五、六七	印刷部收入
經營者醵出金	四、七三一、七一	
歳入臨時部	一、一二五圓〇四錢	

内譯

繰越金	六七〇、〇四	
臨時寄附金	四五五、〇〇	岩崎家殿其他
歳入總計	一六、九〇七圓〇六錢	
歳出經常部	一四、七五一圓四一錢	

内譯

事業費	四、八三七、九四	需用費營繕費人件費雜費等
園生諸費	二、八四一、六九	食費、被服費、手當金、消耗費、學科費、旅行費、退園生保護費等
作業費	七、〇七一、七八	素品費、器具機械費、工費
歳出臨時部	一、七〇〇、八四錢	

内譯

積立金	一、七〇〇、八四	基本金（積立
歳出總計	一六、四五二圓二五錢	
差引殘金	四五四圓八一錢	翌年度繰越金

◎本園基本金の蓄積

明治四十一年三月、本園を千葉市より成田町へ移轉せし以來、各慈善家より本園へ寄附せられたる金圓を蓄積し、將來の基本金を作るの方針を採り着々實行中、恰も前掲の如く宮内省内務省及本縣より本園へ事業資金として金圓の下賜あり、依て政府の斯道に對する意嚮奬勵も茲に存するを知れるも、本園より進んで寄附金を受けんとするの方法を採るは往々世の誤解を受くるの嫌ひあるを以て、全然勸募方法を採らず、一に篤志家の同情義捐に任せ其結果として現下は金一萬七千七百五拾圓九拾五錢と勸業債券拾圓券六拾二枚五圓券二枚（三月三十一日調）を有するに至る。

殊に敬服すべきは、成田町々民諸君の美風にして一朝其家人に不幸あるときは其追善供養の爲め、大抵本園に金圓を寄附し其意を表せらるゝことなり。

◎感謝錄

本年度に於て各篤志家より本園に寄附せられたるもの左の如く、茲に記して衷心感謝の意を表す、但し各團体より寄贈せらるゝ雜誌等は

露光量違いの為重複撮影

之を略せり。

一金五圓也　山本文三殿（成田）
一金五圓也　石川公孫勝殿（成田）
一金拾五圓也　淺井勇夫殿（成田）
一金四百圓也　岩家崎殿（東京）
一金五圓也　杉森孝殿（成田）
一金拾圓也　足立留吉殿（成田）
一金五圓也　鈴木勇助殿（成田）
一金五圓也　久保田潔殿（成田）
一金五圓也　石井五一殿（成田）
一金貳圓也（生徒菓子料）　松田照應殿（横濱）
一金參圓也（仝　）　智光編輯部殿（福島）
一オヅ壹個　宮内正之助殿（成田）
一御菓子澤山　若松分店殿（成田）
一理髮（毎月一回）　平澤光殿（成田）
一鉛筆參拾本　東京日々新聞社社會事業團兒童愛護聯盟殿

以上

創立五十年紀念感謝祝典

初頁沿革の中にも記載してあります通り、當園は最初本縣下佛教各宗寺院の共同事業として千葉町に生れ、やがて間もなく成田山の事業となつたので御座いますが、其設立認可を得ましたのは明治十九年五月廿四日で其秋十一月廿八日に開院式を致して居ります。夫から數へて本年は早くも滿五十年に相當致します。此間多少たりとも國家社會の爲めに盡すことが出來、今や此事業としては我が國最古を誇り得るまでに續いて來たことは不動明王の御加護は申す迄もないが世の御同情御後援の賜と深く信じ厚く感謝して居るもので御座います。

就ては今秋十一月廿八日を期し、さゝやかながら其紀念感謝の祝典を擧ぐることになつて居ります。何卒一層の御後援をお願致します。

入園申込に應じます

家庭教育を誤り御心配なされてゐらるゝ御方を御覽になりましたなら慈善的行爲と思召して少も早く、所謂病膏肓に入らないうちに御相談下さるやう切に御勸告又は御紹介をお願ひ致します、當園はどんな御身分の御子さんでも其住所氏名等は秘密を守り公表致しません。

成田圖書館一覽

圖書館事務體系……一
圖書分類要目表……二
館勢要覽……三
沿革大略……三
建物及敷地……四
費……五
經……五
藏書……五
目錄……五
職員……六
閱覽狀況……六
閱覽統計……七
私立成田圖書館規則……七
成田圖書館圖書貸出規則……九
婦人のための家庭配本規定……一〇
情報……一〇
本館と小學校との連絡……一〇
往來物展覽會と新芝居……一一
婦人のための家庭配本……一一
錄事……一三
圖書寄贈者芳名……一四
雜誌新聞寄贈者芳名……一七

露光量違いの為重複撮影

之を略せり。

一金五圓也　山本文三殿（成田）
一金五圓也　石川公孫勝殿（成田）
一金拾五圓也　淺井勇夫殿（成田）
一金四百圓也　岩家崎殿（東京）
一金五圓也　杉森孝殿（成田）
一金拾圓也　足立留吉殿（成田）
一金五圓也　鈴木勇助殿（成田）
一金五圓也　久保田潔殿（成田）
一金五圓也　石井五一殿（成田）
一金貳圓也（生徒菓子料）　松田照應殿（横濱）
一金參圓也（仝　）　智光編輯部殿（福島）
一オヅ壺個　宮内正之助殿（成田）
一御菓子澤山　若松分店殿（成田）
一理髮（毎月一回）　平澤光殿（成田）
一鉛筆參拾本　東京日々新聞社社會事業團兒童愛護聯盟殿

以上

創立五十年紀念感謝祝典

初頁沿革の中にも記載してあります通り、當園は最初本縣下佛教各宗寺院の共同事業として千葉町に生れ、やがて間もなく成田山の事業となつたので御座いますが、其設立認可を得ましたのは明治十九年五月廿四日で其秋十一月廿八日に開院式を致して居ります。夫から數へて本年は早くも滿五十年に相當致します。此間多少たりとも國家社會の爲めに盡すことが出來、今や此事業としては我が國最古を誇り得るまでに續いて來たことは不動明王の御加護は申す迄もないが世の御同情御後援の賜と深く信じ厚く感謝して居るもので御座います。

就ては今秋十一月廿八日を期し、さゝやかながら其紀念感謝の祝典を擧ぐることになつて居ります。何卒一層の御後援をお願致します。

入園申込に應じます

家庭教育を誤り御心配なされてゐらるゝ御方を御覽になりましたなら慈善的行爲と思召して少も早く、所謂病膏肓に入らないうちに御相談下さるやう切に御勸告又は御紹介をお願ひ致します、當園はどんな御身分の御子さんでも其住所氏名等は秘密を守り公表致しません。

成田圖書館一覽

圖書館事務體系……一
圖書分類要目表……二
館勢要綱……三
沿革大略……三
建物及敷地……四
經費……五
藏書……五
目錄……五
職員……六
閲覽狀況……六
閲覽統計……七
私立成田圖書館規則……七
成田圖書館圖書貸出規則……九
婦人のための家庭配本規定……一〇
情報……一〇
本館と小學校との連絡……一〇
往來物展覽會と紙芝居……一一
婦人のための家庭配本……一一
錄事……一三
圖書寄贈者芳名……一四
雜誌新聞寄贈者芳名……一七

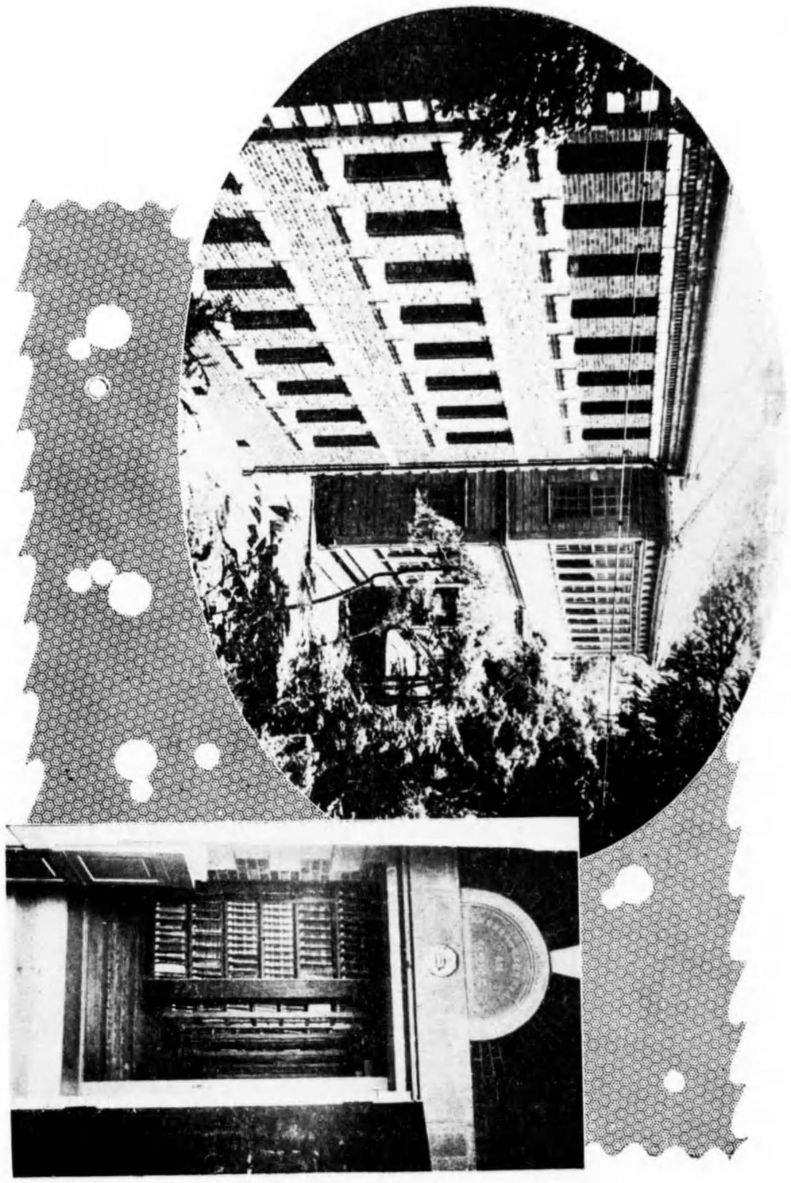
露光量違いの為重複撮影

德道館書圖

▼圖書ヲ投ゲタリ、落シタリナサラヌコト
▼圖書ヲ讀ミ放シニナサラヌコト
▼圖書ヘノ書入レヤ汚損ニ注意アリタキコト
▼圖書ヲ捲イタリ、頁ヲ折ツタリナサラヌコト
▼指ヲナメテ頁ヲ繰ラヌコト
▼讀ミナガラ物ヲ食ベヌコト
▼圖書ハ叮嚀ニ取扱ハレタキコト

圖書ヲ愛シ圖書館ヲ理解サレタキコト

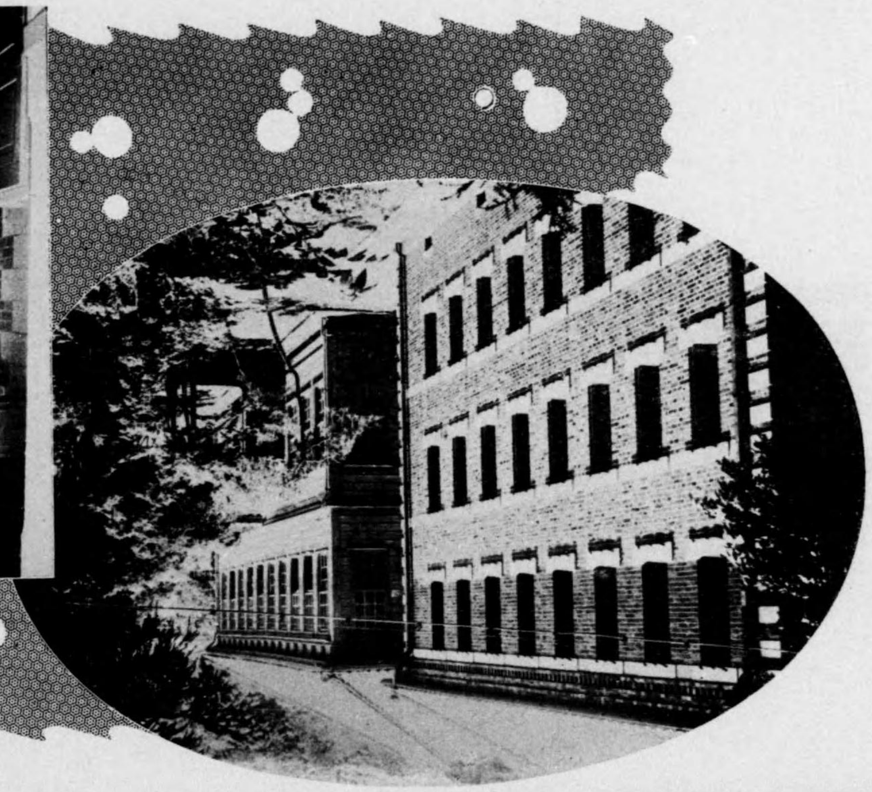
▼他ノ閲覽者ニ迷惑ヲカケヌコト
▼借リタ圖書ハ「また貸」ヲナサラヌコト
▼帶出圖書ハ期限ヲ守ラレタキコト
▼秩序ヲ保タレタキコト
▼閲覽室ハ靜肅ヲ保タレタキコト
▼御所持品一切ハ各自ニ於テモ盜難、遺失ニ御注意ノコト
▼本館ノ規則ヲ守ラレタキコト



廣瀬國田成寺

露光量違いの為重複撮影

庫書



館書圖田成

閲覧者心得

▶ 閲覧者ハ必ズ閲覧者証ヲ提出サレタキコト

▶ 他ノ閲覧者ニ迷惑ヲカケヌコト

▶ 借リタ図書ハ「閲覧者証」ニ記入シテ返サレタキコト

▶ 帯出図書ハ期限ヲ守ラレタキコト

▶ 汚ス事ヲ保タレタキコト

▶ 閲覧室ハ静粛ヲ保タレタキコト

▶ 御所持品一切ハ各自ニ於テ整理、責任ヲ負ハレタキコト

▶ 本館ノ規則ヲ守ラレタキコト

▶ 図書ヲ汚シ、図書館ヲ理解サレタキコト

▶ 図書館ヲ出ル時ハ必ズ一度ハ「閲覧者証」ヲ提出サレタキコト

▶ 図書ヲ持チ帰リタリ、紛ギリナサラヌコト

▶ 図書ヲ閲ル放シニナサラヌコト

▶ 図書ノ書入レヤ汚損ニ注意アリタキコト

▶ 図書ヲ折ッタリ、頁ヲ折ラヌコト

▶ 指ヲナメテ頁ヲ繰ラヌコト

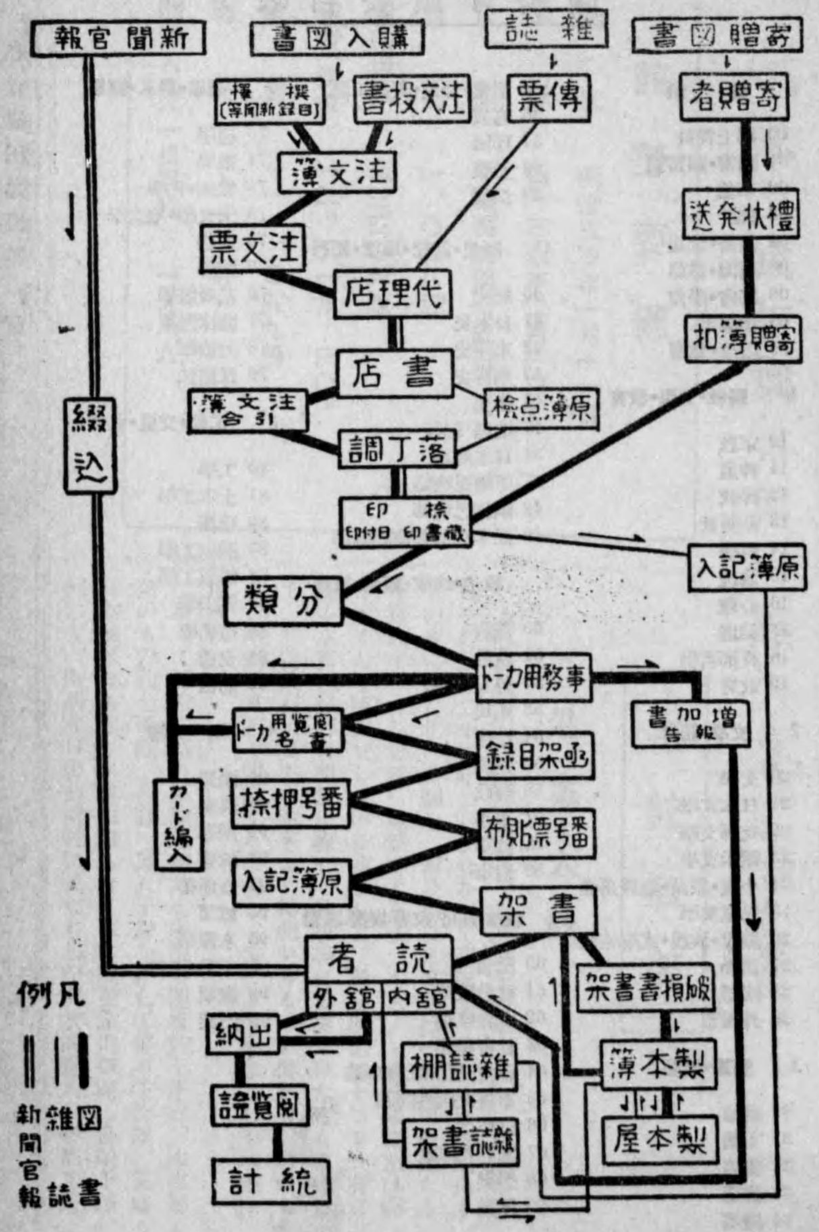
▶ 読ミナガラ物ヲ食ベヌコト

▶ 図書ハ叮嚀ニ取扱ハレタキコト

館書閲覧

圖書館事務系體

すまりこを路經たしうかこる來へ館書圖が本の册一



會覽展物來往

圖書分類要目表

0 總類

00 鄉土資料
01 圖書・圖書館
02 事業
03 統計
04 叢書・全集
05 新聞・雜誌
06 協會・學會
08 稀覯書
09 隨筆・雜書

1 宗教・哲學・教育

10 宗教
11 神道
12 佛教
13 基督教
14 哲學
15 論理
16 心理
17 倫理
18 支那哲學
19 教育

2 文學・語學

20 文學
21 日本文學
22 支那文學
23 歐米文學
24 小說・戲曲・講談落語
25 兒童文學
26 論說・演說・式辭速記
27 語學
28 國語
29 外國語

3 藝術・演藝

30 藝術
31 美術
32 書畫
33 書道
34 繪畫
35 彫塑・骨董・美術工藝
36 寫眞
37 印刷
38 音樂
39 演藝

4 歷史・傳記・地理・紀行

40 歷史
41 日本史
42 東洋史
43 西洋史
44 傳記
45 地理・紀行
56 日本地誌
47 亞細亞地誌
48 歐羅巴地誌
49 亞米利加其他諸國誌

5 政治・法律・經濟・軍事

50 法制
51 政治
52 外交・國際
53 殖民
54 法律
55 經濟
56 財政
57 軍事
58 陸軍
59 海軍

6 社會・風俗・家庭・娛樂・運動

60 社會
61 社會政策
62 社會運動
63 社會思想
64 社會問題・社會事業
65 家族及両性問題
66 風俗
67 家庭及家政
68 娛樂
69 運動

7 理學・數學・醫學

70 理學
71 數學
72 物理・化學
73 天文學・地文學
74 博物
75 醫學
76 基礎醫學
77 臨床醫學
78 治療學
79 保健法

8 工學・交通・通信

80 工學
81 土木工學
82 建築
83 機械工學
84 電氣工學
85 鑛山學
86 造船學
88 交通
89 通信

9 產業

90 產業
91 農業
92 園藝
93 林業
94 畜產業
95 蠶業
96 水產業
97 工業・工藝
98 鑛業
99 商業

私立成田圖書館一覽

（昭和十一年三月末日現在）

館勢要綱

創立　明治三四年一月一一日
開館　同　三五年二月一日
位置　千葉縣成田町成田
敷地　一、〇二八坪
建物坪數　延三三〇坪餘
經費（決算）　一二、三一九円三〇錢
藏書　一一一、〇五九册
職員　十二名
閱覽人員（一日平均）　一九八人

本館概要

◎沿革大略

本館は成田山の經營に屬し、明治三十四年一月十一日創立認可を得、翌三十五年二月一日を以て開館す。所在地は成田山本堂の東に位し北に公園を、南及東に市區を控へ好適の位置たるを疑はず、されど茲に遺憾とするは、もと〳〵本館閱覽室は圖書館として建設せしものに非ずして、最初明治三十三年一府三縣の水產物品評會開催に際し、其會場に貸與されたるものにして、其後故石川貫主の歐米より歸朝せらるゝや僧正の發意により、斷然圖書館を開設するに決し、茲に洋行記念として本館は生れたり。

斯くて開館に當り不取敢新勝寺所藏の圖書約七千餘、山主書齋のもの約七千餘、合計一萬五千册を移して甫めて開館、當時は勿論書庫もなければ目錄もなく單に閱覽室の四圍に書架を羅列して、所謂今日の公開書架式なりしが漸次閱覽人の增加と共

に職員も增し三十五年六月には和漢書分類假目錄完成、次いで三十八年二月より館外貸出を開始、爾來年を逐ふて藏書增嵩愈々書庫の必要を痛感し、三十九年三月書庫新築、四十年六月九日之が落成式を擧行し此日を以て本館永遠の記念日となすに至る。

藏書も四十一年に及んで四万册を越えたれば玆に印刷目錄の必要を感じ四十三年十月和漢書分類目錄第一編を刊行し、更に大正三年第二編の印刷目錄を刊行するに至る。

四十四年一月より夜間開館を實施倍々閲覽者の便宜を圖る。降つて大正十三年、館長石川僧正物故せられるに及び直に現貫主荒木僧正後を襲ふて館長となる。

この間、主事高津親義氏は開館以來の主事として館務を鞅掌し來りしも、昭和二年十二月老齡の故を以て勇退願出となり、翌三年五月小林力彌氏後任として就職、次いで昭和四年四月仝氏の退職に伴ひ、同年五月高井觀海氏の就任を見たるも昭和六年四月引退す。其後二年有半空位なりしも昭和九年一月司書成田善亮氏昇任主事となり今日に及ぶ。

一方藏書は逐年增加に加へ、屢々特殊蒐書の移管入藏ありて愈々内容の充實を加へ、内外諸般の活動も逐次敢行し得るに至りしを以て今後は漸次地方文化の啓發に寄與し得ると共に益々その機能を發揮し得るや必せり。

◎建物及敷地

閲覽室（木造二階建）	延　七十七坪
目錄室（木　造）	六　坪
事務室（仝　〃）	九　坪
宿直室（仝　〃）	四　坪
使丁室（仝　〃）	三　坪
休憩所（仝　〃）	三　坪
應接室（煉瓦造）	六　坪
書　庫（仝三階建）	延　九十坪
雜誌書庫（木　造）	六　坪
住宅其他附屬建物（木　造）	延　百廿六坪餘

閲覽室は固より舊物利用のものなれど多少遺憾の點あるは免かれざるも、之を適當に指定區分し閲覽者の自治的觀念に委ねてゐる。即ち階上を一般閲覽室とし、階下は婦人、兒童、新聞の各席に指定しあるも嚴密なる區分を施さず、寧ろ自由開放と云ふも差支へなき程度のものである。又事務室は階下閲覽室の一角に設け、事務と監視とを兼ねつつある。

書庫は明治四十年の新築なるも、年々續報の如く藏書充滿、愈々增築の必要切なるものがある。

◎經費

○昭和十年度決算額	
（一）職員給、雜給	六、九八八円五〇
（二）需用費其他	一、一五〇、八六
（三）圖書費（新聞、雜誌費等ヲ含ム）	三、八二二、五三
（四）營繕費	三五七、四一
計	一二、三一九、三〇

◎藏書

○昭和十年度增加書	
和　漢　書	二、二六五册
洋　　書	二一册
計	二、二八六册
○昭和十一年度三月末日現在圖書數	
和　漢　書	一〇六、〇〇〇册
洋　　書	五、〇五九册
合計	一一一、〇五九册

藏書として購入すべき圖書の標準は勿論一般公共圖書館のそれと大同小異であるが、宗教地である本館としては勢ひ宗教的文獻に力を須ひざるを得ない立場にある。

藏書の增加率は大體寄贈を合して年々二千餘册ではあるがそれでも今日では表記の如く十萬を以て算するに至つた爲め、成田町の人口一萬人と見るも優に一人當り十册餘となる譯で萬事都會中心に偏重しつゝある今日眞に地方的貢獻をなしつゝあるといふも過當ではなからう。

尙雜誌は新聞を合して約二百餘種の備付けがあるが、この中雜誌は年々合册製本して一般藏書と同樣の取扱をなしてゐる。殊に佛教雜誌に至つては明治後半期より蒐集しあるもの相當多きを以て近時專門學徒の研究に供し得るは喜ばしき事である。

◎目錄

目錄は大別して來館者の爲のカード目錄と外部にある者に對する印刷目錄との二種に分ける事が能きる。

本館備付のカード目錄は「分類」と「書名」の二種であるが實際上使用率の多いのは矢張分類目錄である。更に之を時代別に見るときは舊きものより新しきものが使用されてゐる。

尤も昭和四年以前の分類は多少杜撰であるに加へ其後のものは從來の八門分類制を廢し別記新制の十進分類に改めたるを以て無論組織も一變し精細となりたる爲檢索上の利便を增大した事にも依る。

印刷目錄は第二編迄の刊行成り、大正三年初期迄の藏書を發表し得たのであるが其後種々の關係上印刷の機會なく今日に遷延してゐるものゝは云へ事實其の內容は優に第四乃至第五編迄刊行し得る見込である。隨つて他日續編上梓の曉は一段の貢獻をなし得ることゝ思ふ。

次に、新着圖書の紹介方法としては整理濟の圖書を閱覽室の新刊書架に排列公開し、この中主なるものは季刊のパンフレット「增加書の知らせ」に登載して希望者に頒布しつゝある。

◎職員

館主兼館長　荒木照定
顧問　今澤慈海
顧問　高津親義
主事　成田善亮
司書　高田定吉
司書　小川益藏
司書　旭壽雄
事務員　武士田文哉
同　岩館衛
雇　瓜生百合子
配本手　綿貫實

◎閱覽狀況

囑託　佐藤凜明

閱覽圖書の第一位が文藝物にあることは、何れの公開圖書館に於ても同樣の現象ではあるが、讀書の階梯は先づ文藝物から入るのが、通例であるからこれ等の大衆は寧ろ誘掖指導すべき讀者層として大切なるお得意と見做すべきである。

尙、堅實なる方面の特殊傾向は、近年佛敎關係雜誌を研究する遠來の學徒が增加して來た事である。これは本館が比較的舊刊の佛敎雜誌を收藏し居る事と、一方都會に於ける有數圖書館は其利用上地方のそれと異り煩雜不便なる點多々あるが爲である。

次に、一般入覽者の種別を見るに、從來男子に比して婦人が極めて劣勢であつたが、別揭の如き家庭配本を實施してより斷然面目を一新した傾きがある。

又、館外貸出は、個人としては現在三四五名を算し、而も累年增加の傾勢にあり、團体としては、隣村靑年團への貸出をはじめとし「新更會」への巡回文庫用貸出（常時約二百册位）及成田中學への課外讀習用貸出（約百五十册）等である。

次に揭ぐる閱覽統計中、兒童の數に於ては本館の設備上特に兒童室の設けなく自由開放制なる爲、統計洩れの閱覽も相當あるを以て事實は、より多き數字になるものゝ見なければならぬ。

昭和十年度　**閱覽統計**（開館日數三二七日）

閱覽圖書類別

種別	館內	館外	合計	百分比例
總類	五八九五	六三八二	一二三七七	一二、〇
宗教・哲學・教育	三七八三	七五九一	一一三七四	一一、〇
文學・語學	一四三七三	一五九三九	三〇三二二	二九、一〇
藝術・演藝	二八四八	一七六六	四六一四	四、六
歷史・傳記・地理・紀行	四二七四	三三一〇	七五八四	七、三
政治・法律・經濟・軍事	二七八二	一五九七	四三七九	四、二
社會・風俗・家庭・娛樂・運動	四五三〇	二五一〇	七〇三〇	六、八
理學・數學・醫學	三九三七	七二九	四六六六	四、五
工學・交通・通信	一〇五八	四七三	一五二一	一、六
產業	三三四六	二四四	三五九〇	三、五
兒童圖書	一四五四一	一四七三	一六〇一四	一五、五
合計	六二三三七	四三〇一四	一〇三三五一	一〇〇、〇
一日平均	一八七、三	一三五、〇	三一五、八	

閱覽人職業別

種別	館內	館外	合計	一日平均
官・公・軍	二六八	一五八	四二四	一、二
教職員	三一五	二五五	五七〇	一、八
宗・神	一五一	二〇七	三五八	一、一
學生・生徒	八七七三	四〇七五	一二八四八	三九、二
農業・漁業	二六七九	四九三一	七六一〇	二三、二
商業・工業	二七七八	三一三三	五九〇一	一八、一
銀行・會社	三一八	一八〇	四九八	一、五
其他	五八四八	八三三八	一四一七六	四三、五
婦人	四九七二	五三四一	一〇三一三	三一、六
兒童	一一六二八	六〇一	一二二三九	三七、三
合計	三七七三〇	二七一七九	六四九二七	一九八、五

◎私立成田圖書館規則

第一條　本館ハ主トシテ一般圖書、雜誌等ヲ蒐集シテ廣ク公衆ノ閱覽ニ供シ社會ノ智德啓發ニ裨益スルヲ以テ目的トス

第二條　何人ニテモ滿十二歲以上ノ者ハ本館ニ來リテ圖書ノ借覽ヲナスコトヲ得

第三條 本館ハ左ノ時限ヲ以テ開閉ス

開館時限	閉館時限
四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月	午前八時	午後八時半
十一月 十二月 一月 二月 三月	午前九時	午後八時

第四條 本館ノ定休日ハ左ノ如シ但臨時休館ハ其時々掲示ス

歳首 自一月一日 至同七日 館内掃除 毎月末日
紀元節 二月十一日 天長節 四月二十九日
記念日 六月九日 明治節 十一月三日
曝書期 九、十月中 凡十日内外 歳末 自十二月廿八日 至同三十一日

第五條 本館内ノ閲覧ハ總テ無料トス

第六條 圖書閲覧希望者ハ圖書閲覧證ヘ求需ノ書名册數番號及住所職業氏名月日ヲ記入シ出納所ヘ提出シテ借受クベシ

第七條 貸附圖書ノ員數ハ求覧人ニ對シ一時ニ和裝書ハ二種十二册洋裝書ハ二種二册ヲ限リトシ和洋併借ノ時ハ各其半數ニ過グルヲ得ズ

但語學ニ關スル辭書ノ併借ハ此ノ制限外トス

第八條 借受ノ圖書ハ閲覧室外ヘ携帶スルコトヲ得ズ

第九條 過失ト故意トニ關セズ借受ノ圖書ヲ紛失シ又ハ汚損毀傷シタル時ハ同一ノ圖書若クハ相當代價ヲ辨償セシム但汚損ノ狀況ニ依リ本文ヲ斟酌スルコトアルベシ又其行爲ノ次第ニ依リ一ケ月乃至一年間登館ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十條 本館ノ規則ニ違背シ又ハ不法ノ行爲アル者ハ其狀況ニ依リ登館ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十一條 閲覧室ヲ一般、婦人、兒童ノ三區ニ別チアレバ猥リニ他席ヲ侵スベカラズ

第十二條 閲覧所内ニ於テハ一切音讀、談話、喫煙ヲ禁ズ

第十三條 何人ニテモ圖書ヲ寄贈セラルヽトキハ其目錄員數及住所氏名ヲ詳記シ奇贈圖書ニ添ヘテ送付セラレタシ但寄贈圖書運般費用ヲ自辨シ難キハ時宜ニヨリ本館ヨリ支辨ス

第十四條 凡ソ公衆ノ閲覧ニ供シ若シクハ保管ヲ請フノ目的ヲ以テ本館ニ圖書ヲ委託セント欲スル者ハ其事由目錄員數ヲ詳記シ必ズ本館ヘ照會シ承諾ヲ得タル後其圖書ヲ送致サルベシ

委託ノ圖書ハ館藏ト同一ノ取扱ヲナスベシ

委託ノ圖書ハ厚ク保藏スト雖モ不幸火災盜難其他天災ニ罹リテ損失敗亡ヲ來スコトアリトモ本館ハ其責ニ任ゼズ

第十五條 館外圖書貸出ハ別ニ之ヲ定ム 以上

◎成田圖書館圖書貸出規則

第一條 本館圖書帶出ノ希望者ハ左記ノ手續ヲナスベシ

一、圖書帶出願書ヲ差出スベシ（用紙ハ本館交附）

二、圖書帶出願書ニ本館ノ承認セル保證人ヲ要ス

三、帶出料金壹圓ヲ豫納スベシ

四、成田中學校、成田高等女學校、成田學園、成田幼稚園、新更會ノ教職員ハ同校長、主任若クハ理事ノ保證ニ依リ帶出ヲ許可ス

五、新勝寺徒弟詰合員ニ限リ同寺執事ノ證明ニ依リ成田尋常高等小學校職員ニ限リ同學校長ノ保證ニ依リ帶出ヲ許可ス

六、四、五ノ場合ニハ帶出料ヲ要セズ

第二條 本館ハ前條ノ手續ヲ了シタル上ニテ帶出簿ヲ交附ス

第三條 帶出有効期間ハ一ケ年トス

第四條 貸出圖書數ハ一回ニ付和裝書ハ三册以内洋裝書ハ一册トス

第五條 貸出期間ハ一週間以上三週間以内ノ範圍ニ於テ本館ノ見込ヲ以テ其時々之ヲ定ム

第六條 期限ニ至リ尙續借セントスルモノハ一旦返納シ更ニ借受ノ手續ヲナスベシ

但他ニ同書ノ借覧ヲ請フモノアル時ハ續借ヲ謝絶スルコトアルベシ

第七條 特許借受ノ圖書ト雖モ本館ニ於テ要用アル時ハ臨時返戻セシムルコトアルベシ

第八條 帶出權ヲ得タルモノニシテ他所ヘ轉居シタル場合又ハ改名シタル場合ハ其都度屆出ヅベシ

第九條 保證人死亡其他ノ事故ニ依リ資格ヲ失ヒタル時ハ更ニ保證人ヲ定メ定式ノ證書ヲ差出スベシ

第十條 左記ニ該當スル圖書ハ帶出ヲ許サズ

一、大部ノ圖書

二、各學科ノ事業、辭書類、書目、新聞

三、館内閲覧人ノ請求多キ圖書

四、新刊圖書ハ二ケ月乃至三ケ月後定期刊行書雜誌類ハ裝釘ノ上ニ非ザレバ貸出セズ

第十一條 借覧期限ヲ經過シ本館ノ注意ヲ受クル二回ニ及ビ尙返戻セザル時ハ本館ハ圖書帶出ノ効力ヲ取消シ其事情ニヨリ再ビ之ヲ許可セザルベシ此場合ニ於テハ帶出圖書ノ代金ハ保證人ニ辨償セシムベシ

第十二條 借受圖書ヲ紛失シ若クハ汚損シタル時ハ本人及保證人ハ辨償ノ責ニ任ズ

第十三條 圖書帶出ハ開館期間中ニ限ルモノトス

第十四條 圖書帶出ヲ中止セントスルトキハ其旨屆出ヅベシ

但帶出料ハ返戻セズ

第十五條 圖書帶出有効期間滿期トナリ引續キ希望ノモノハ更ニ帶出願書ヲ差出スベシ 以上

◎婦人のための『家庭配本』規定

一、家庭配本とは、御家庭にある主婦の方を始め、いろ〳〵の事情で圖書館へ通ふことの出來ない御婦人方の爲めに自宅に居ながらにして本を讀める樣にお好みの本を圖書館からお屆けすることです。

二、加入者の範圍は、成田町（當分のうち鄉部、園護台、不動ケ岡を除く）に居住する方なら、どなたでも差支へありません。但し、場合により保證人を要することがあります。

三、加入御希望の方は『申込書』をお出し下さい。『申込書』は本館から差上げますが、お申出の形式は口頭、電話葉書何れでもかまひません。

四、申込は凡て月ギメとし、一家族のうち何人でも差支ありませんが、一人一口として銘々に御申込下さい。

五、加入された方には、希望の本を選ぶべき『配本用圖書目錄』をお貸し致し、又新刊書の目錄を發行の都度差上げます。

六、目錄によつて御希望の本がきまりましたら、配本手が伺つた時、請求用紙（配本手持參）に記入の上お渡しになれば、次回に配本致します。

七、毎回の貸出期間は一週間とし、配本は月四回、冊數は一人一冊と致します。

八、配達料及雜費として一口につき一ケ月金廿五錢の手數料を申受けます。

九、かりた本は必ず期日にお返し下さい。これを守らないとお互の迷惑になります。尙本をなくした場合はそれと同樣の本、又は代價を頂きます。

十、『家庭配本』と『一般貸出』とは全然別に扱ひますから假に一家族のうちで兩方御加入になつてゐても『一般貸出』の方は、配本手に托することを堅くお斷り致します。

以上

情報

◎本館と小學校との連絡

讀書の鼓吹といふ點については、成人間に之を力むるよりも寧ろ幼少年の時代より書物に親しむの習慣と精神を胚胎せしむるの要あるは、今更言を俟たない事柄である。それについては先づ圖書館と小學校との連絡を第一に考へなければならない。この點を本館は深く考慮し、先年來小學校と協定の結果、差當り五年級以上の兒童を、各級交替にて、殆んど隔日位に登館せしめ、約二時間自由讀書の良習を養成し、一方校外教授の目的を達する傍ら、圖書館の實際智識を體得せしむるの方法を講じつゝあるが、其結果成績頗る良好である。

歐米諸國にては、既に實行し居る處も多々ある模樣なるが、我國としては未だその例稀にして、小學校圖書館の極めて幼弱なる現今、大いに各地通俗圖書館の進んで實行すべき性質のものであらうと思ふ。

◎往來物展覽會と紙芝居

昭和十年度本縣主催讀書週間に際し、本館の行事として、左記の通往來物展覽會の開設、並に紙芝居の實演を行つた。

往來物展覽會　中古より江戸時代迄、庶民教育に使用された教科書を展覽し、一般に閑却され易い、前時代の寺小屋教育を回顧記念すると共に、初等教育に對する一般社會の認識を深める爲、十一月廿二日より廿四日まで三日間、本館に於て開催した。出品物は熟語類、消息類、訓育類、歷史類、地理類、實業類、合書類、理學類の八類に分ち、總數六百數十點の資料に互り極めて有益であつた爲、各方面に多大の好評を博し、觀覽者千四百名に達し、相當に効果を收めた。尙之が開催に際しては日比谷圖書館より大なる應援を得、出品數の大半を提供していたゞいたことは、全館に對し大に感謝する所である。

紙芝居の實演　兒童の好む童話を紙芝居に演じ、讀書奬勵をなすを目的として、全週間中十一月廿日より廿六日まで七日間、本館前で實演したが、毎日兒童の觀覽者は多數に上り、相當に効果を擧げた。此紙芝居は從來街頭でやつて居るものとは違ひ、レコードの說明と伴奏付で繪を替へて行く仕組であつて、兒童も非常に喜ばれた。期間中に演じたものは、『ガリバー旅行記』『スピート三郎』『擧れの軍馬』其他數種類である。尙本催しは駿河臺圖書館より借用實演したのだが、本縣としては始めてのことで、教育家、其他研究者に對して、相當の裨益を與へた。此點全館に深く感謝する所である。

◎婦人のための『家庭配本』

何れの圖書館の統計を見ても、その閱覽者中特に婦人が劣勢にあるのは公開圖書館の通弊とも見るべきであらう。家庭教育の重大責務を帶びる一家の主婦、若しくは將來主婦たるべき婦人が男子に比して讀書率が低下してゐるといふ事は、先進國として大いに憂慮すべき事態と云はねばならぬ。この缺陷を幾分なりと匡救するの目的を以て夙に研究中のところ、漸く昭和九年十月より別揭の如き規定によつて積極的に各家庭の婦人に向つて希望の圖書を直接配達する方法を實施し得るに至つたのである。斯うした企劃は諸外國では既に實施してゐるところであるが、我國としては其例稀にして讀者と共に同慶に堪えないところである。

今昭和十年度の成績を擧ぐれば左の如し

字別及月別に見た配本人數

	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	合計
花崎町	九	一〇	六	六	六	五	五	七	七	七	七	八	八三
上町	一四	一三	一七	一六	一五	一〇	九	九	九	一〇	九	八	一三七
幸町	一五	九	一一	一四	一四	一一	一〇	一〇	一〇	八	六	八	一三三
仲町	一	一	四	四	四	四	九	六	六	八	八	八	五八
本町	九	五	六	八	五	五	四	五	四	一一	五	四	六九
田町	四	九	一〇	七	四	三	五	五	四	六	五	五	六七
砂田町	三	二	〇	〇	二	一	二	二	二	三	三	四	二四
士屋	四	五	五	五	五	五	四	六	三	二	三	三	五〇
寺台	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇	一	一	二	五
合計	五九	五四	五九	六〇	五三	四三	四二	五一	四五	五六	四七	四八	六一六

分類別に見た配本冊數

分類別	配本冊數
總類	四五
宗教・哲學・教育學・語學	三〇六
藝術・演藝	三六
歷史・傳記・地理・紀行	九五
政治・法律・經濟・軍事	二八
社會・風俗・家庭・娯樂・運動	一八五
理學・數學・醫學	三五
工學・交通・通信	二二
產業	二〇
兒童圖書	一三二
合計	二四五九

昭和十年度 錄事

昭和十年
六月十七日　三越にて開催房總觀光協會主催の房總展覽會に鄉土資料出陳。
自十月一日　曝書及調査。
〃十月十日
十月廿一日　日本佛教協會員參觀階上に朝鮮本及古版洋書等を陳列し供覽。
自十一月廿二日
〃廿四日　往來物展覽會並に童話の紙芝居開催
十二月廿五日　昭和十一年一月五日より高島屋にて開催の成田山開基一千年祭展覽會に成田山關係書出陳。

昭和十一年
一月九日　前記、往來物展覽會目錄印刷中のところ出來各方面に贈呈。
三月三十日　館員岩館衞文部省圖書館講習所入學許可。

昭和十年度

圖書寄贈者芳名

（五十音順敬稱省略）

高松宮家　五
熾仁親王日記　二卷・三卷
轍仁親王日記　上卷・附錄
選奬錄　第三輯

愛知石川會　一
青森縣立圖書館　一
旭壽雄　一
安部貞松　一
阿部良玄　三
石井しげ　一〇四
池田翁礦邊先生頌德建設委員會　一
石川縣立圖書館　三
石川甚兵衛　六
石田傳吉　三
石橋俊一　一
石橋豐房　二〇二
磯ヶ谷紫江　一
一戸岳逸　二
岩館衛　一
上田十郎　一
宇野會　一
海野正造事務所　一
大草時仰　一
大倉邦彥　一
大阪市社會部庶務課　一
大阪毎日新聞社　一
大谷大學圖書館　三
大野亀之助　一
大橋岡書館　二
岡野清豪　五
小川保　四
小澤隆八　一
小原太衛　一
尾張大根切干同業組合　一
尾張德川黎明會　一
恩賜財團愛育會　一
海軍協會千葉縣支部　八
海軍々事普及部　二四
外務省　一
外務省調査部　一
葉子研究會　二
加藤誠平　一
加藤萬治　一
神奈川縣社會教育課　一
金杉博士彰功會　一
金子義一　一
雅文會　一二
樺太　二
樺太廳長官々房文書課　五
川邊幸吉　四
川村昌助　一
簡易保險局　二八
漢學會　一
觀音瞻仰會　一
氣學修齋會　一
岸偉一　二
北里闌二　二
木村莊太　六
木村雄山　一三
京都市染織試驗場　一
京都專門學校　二
京都帝國大學圖書館　一
金融研究會　五
久保木保壽　一
黑川富夫　二一三
黑田亮　一
鷄頭陣社　三
啓明會　七
侯爵前田家　一
甲田健之助　二
皇典講習所　一
興風會圖書館　二
神戸モスリン回教々會　一
古溪哥會　一

小島謙　四
互尊文庫　二
駒澤大學圖書館　一
埼玉縣立圖書館　一
西東書房　一
佐賀縣立圖書館　一
佐倉種畜場　一
佐倉中學校　二
佐藤俊三　二
澤崎英一郎　四
篠田著山　一
社會教育會　六
神宮皇學館庶務部　一
神宮文庫　一
新更會　一
人事興信所出版部　四
仁壽生命保險株式會社　一
神道天行居　二
巢鴨高等商業學校　二
杉浦丘園　一
杉田直　一
駿河台圖書館　一
成美堂書店　一
淺草寺觀音會　一
第一高等學校昭信會　一
台南市立圖書館　一
大日本國民教育協會　五枚
大日本憂國青年同盟本部　一
大日本雄辯會講談社　一
台北高等商業學校　一
台灣總督官房調査課　一
台灣總督府圖書館　一
高岡市立圖書館　一
高木由二　一
高田芳技　六
高屋宵哲　一
瀧富太郎　一
拓務省　一
武田勝藏　四
田中作次郎　一
玉置佳定　二
筑霞保勝會　二
智山學會　一
千葉醫科大學　一
千葉縣學務部　一
千葉縣教育會　一
千葉縣警察部健康保險課　一
千葉縣社會事業協會　一
千葉縣總務部　四
千葉縣圖書館　四
中央義士會　一
中央大學々員會　一
朝鮮總督官房文書課　一
朝鮮總督府　一
朝鮮總督府遞信局　一
塚本源三郎　一
机書店出版部　三
坪井德光　五
坪谷善四郎　一
帝國圖書館　一
帝室博物館　一
遞信省郵務局　一
寺田憲　一
天理圖書館　一
東京瓦斯株式會社　二
東京玩具卸商同業組合　一
東京工業大學　一
東京帝大佛教青年會　一
東京天文台　五
東京府　一
東京文理科大學圖書館　一
東福寺派宗務本院　七
東洋協會　一
東洋女子齒科醫學專門學校　一二
東洋文庫　一
特許局　三
德島縣　一
富山市立圖書館　一
長崎縣中央圖書館　二
長谷岩吉　一
永野健　一
梨木神社々務所　二
涛川高之助　一
行力喜一　五
成田學園　四
成田善亮　一
成田町役場　一
南洋廳長官々房　二
新潟高等學校　一
西宮市立圖書館　一
西山清太郎　一
千葉縣學務部　一四

日滿經濟調査局　一
仁木松雄　四
仁田大八郎　一
日本醫科大學　一
日本外交協會　一
日本學術振興會　四
日本建築協會　一
日本興業銀行調査課　二
日本弘道會　一
日本國際馬術協會　一
日本互尊社　二
日本商工會議所　二
日本赤十字社　二
日本潛水株式會社　一
日本大學　一
日本圖書館協會　一
日本ニッケル時報局　二
日本のローマ字社　五

日本放送協會　二
日本萬國博覽會協會　二
農村自治研究倶樂部　四
野村合名會社　一
函館市立圖書館　二
花柳壽輔　一
馬場尋常小學校　一
濱野照貫　一
哈濱爾圖書館　一
藩祖伊達政宗公三百年祭協讃會　一
牛田商業學校　一
日比谷圖書館　二
被服協會　五
平塚廣義　一
藤井喬　一
藤崎章　一
武士田讓　五
不動貯金銀行　一

秘露公使館　一
穂坂興明　一
馬越恭平翁傳記編纂會　一
增永茂十郎　一
松田照應　五
松本茂　一
松山與兵衛　一
滿洲文化普及會　二
御園生卯七　一
三土忠造　一
水野葉舟　二
三橋武雄　二
宮木宥弐　三
三宅俊成　二
高心寺大法會事務局　一
村上貞一　一
明治大學圖書館　五
文部省社會教育局　三

木幸吉　一
山一證券株式會社　四
山形縣立圖書館　三
山口縣立圖書館　一
山本堂　一
山本久　二一
吉田忠太郎　一
吉田彌平　一
ライオン齒磨口腔衛生部　三
ラスピハリボース　一
李王職　一
陸軍省　六
林業試驗場　四
若名東一　一
早稲田大學國文學會　二

雜誌新聞寄贈者芳名

昭和十年度

（毎號寄贈者のみを掲ぐ）（五十音順敬稱省略）

愛土出版部　愛土
青山書院　禪の生活
秋田縣立圖書館　秋田圖書館報
石川縣立圖書館　石川縣立圖書館報
石川縣圖書館協會報　石川甚兵衛
外交時報
國家學會雜誌
大日本國防義會々報　內觀
三田評論
石川富士雄　科學雜誌
牛込新報社　牛込新報
英語青年社　英語青年
大阪出版社　英文大阪毎日學習號
大阪商船株式會社　海
大阪府女子專門學校家政理學研究會　家政理學
大竹又次郎　サンデー毎日
大友惟誠　兒童保護
海防義會　海防
外務省情報部　國際事情
神奈川縣圖書館協會　神奈川縣圖書館協會報
カナモジカイ　カナノヒカリ
鎌田共濟會　鎌田共濟會雜誌
神崎照惠　近江教育
嚴松堂書店　嚴松堂展望
觀音膽仰會　觀音
錦旗會本部　日本思想
組合金融研究會　組合金融
クリチック社　クリチック
經濟市場社　經濟市場
慶嘆會　爐邊者
鷄頭陣社　鷄頭陣
京阪電氣鐵道株式會社　京阪
研究社　研究社月報
高知縣立圖書館　高知縣立圖書館報
神戸市立圖書館　神戸市立圖書館增加圖書月報
高野山時報社　高野山時報
高野山大學密教研究會　密教研究
國際佛教協會　海外佛教事情
ザ、ヤング、イースト

古溪哥會
わかうた
時事新報成田專賣所
時事新報
思想と文學發行所
思想と文學
實業之世界社
實業之世界
社會教育會
社會教育
尺貫法存續聯盟
昭和の光
ジャパン、ツーリスト、ビューロー
ツーリスト
修驗社
修驗
新更會
新更
新勝寺收納方
日本勸業銀行債券月報
神變社
神變
須田寛治

週刊朝日
聖道社
聖道
淺草寺
淺草寺時報
大衆往來社
大衆往來
大小タイムス出版所
大タイムス
大藏出版株式會社
ビタカ
大東文化協會
大東文化
大日本國民中學會
新國民
大連圖書館
書香
台灣總督府圖書館
新著圖書月報
高田定吉
東京每夕新聞
高田芳枝
婦人倶樂部

玉置きく
南海日日新聞
智山公論社
智山公論
智山派宗務所
智山派宗報
千葉縣教育會
千葉教育
千葉縣女子師範學校
季刊新報
千葉縣統計協會
統計
千葉縣圖書館
讀書
千葉縣圖書館報
青年處女
中央大學々員會
中央大學々報
朝鮮圖書館研究會
朝鮮之圖書館
槻の木會
槻の木

土筆社
土筆
帝國水難救濟會
海
帝國圖書館
帝國圖書館報
寺島敏巧
北總時報
天理圖書館
日本文化
東京科學博物館
自然科學と博物館
東京
東京堂月報
東寺事務所
護國
東洋協會
東洋
特許局
特許公報
實用新案公報
鳥取縣立圖書館
鳥取縣立圖書館報

富山市立圖書館
富山縣中央圖書館報
長野縣立圖書館
長野縣立圖書館報
行方喜一
經濟知識
奈良縣立圖書館
奈良圖書館月報
成田高等女學校
校友會雜誌
成田小學校
校報
成田中學校
成邱の光
校友會雜誌
西宮市立圖書館

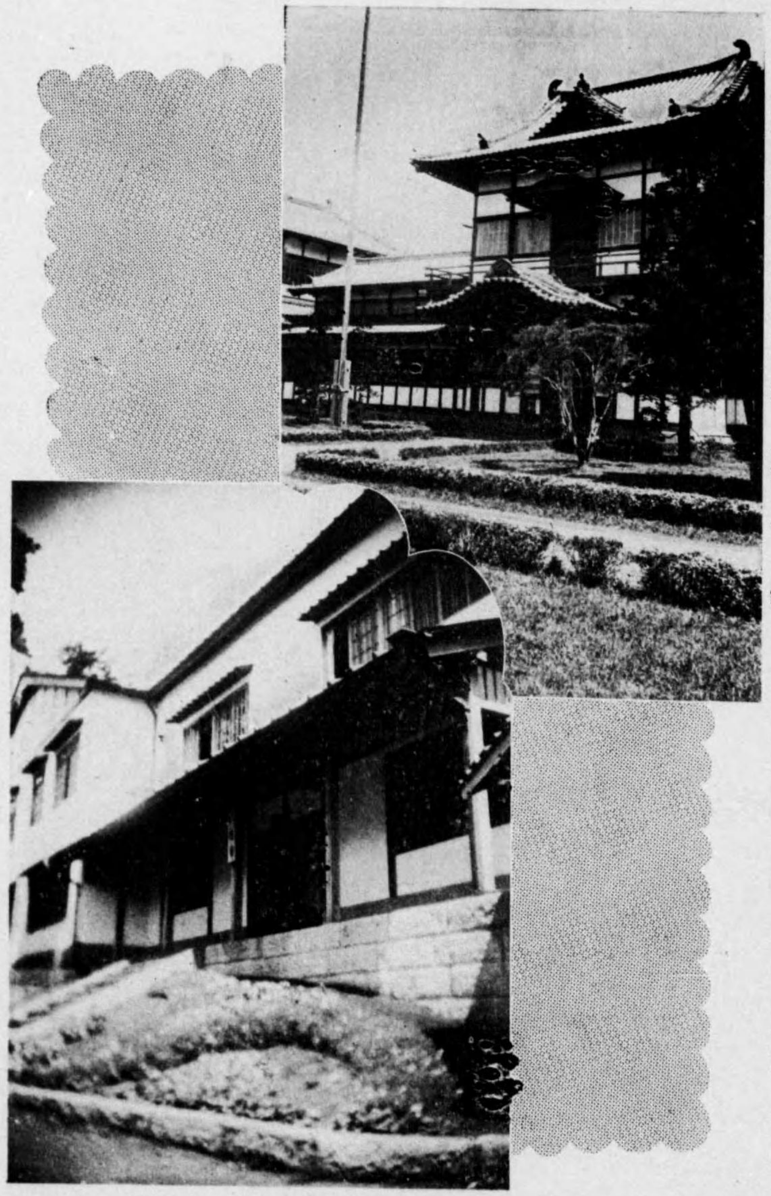
西宮市立圖書館報
日本弘道會
弘道
日本のローマ字社
ローマ字世界
ローマ字の日本
野々宮毅
家の光
博愛發行所
博愛
哈爾濱圖書館
增加圖書目錄
ばんだね社
ばんだね
平民病院
凡人の力

房總新聞社
房總新聞
邦文タイムス社
邦文タイムス
保險加入者協會
ライフ、ジャーナル
法華會
法華
末世の福音社
時兆
滿鐵社員會
協和
水野葉舟
ローマ字
明治大學圖書館
明治大學圖書館報

森江書店雜誌部
三實
文部省圖書館講習所
學友會誌
山口縣中央圖書館
山口縣中央圖書館報
謠曲界發行所
謠曲界
横濱市圖書館
横濱市圖書館報
よろこび會
よろこび
隣人の友社
隣人の友
早稲田大學學友會
早稲田學報

新更會一覽

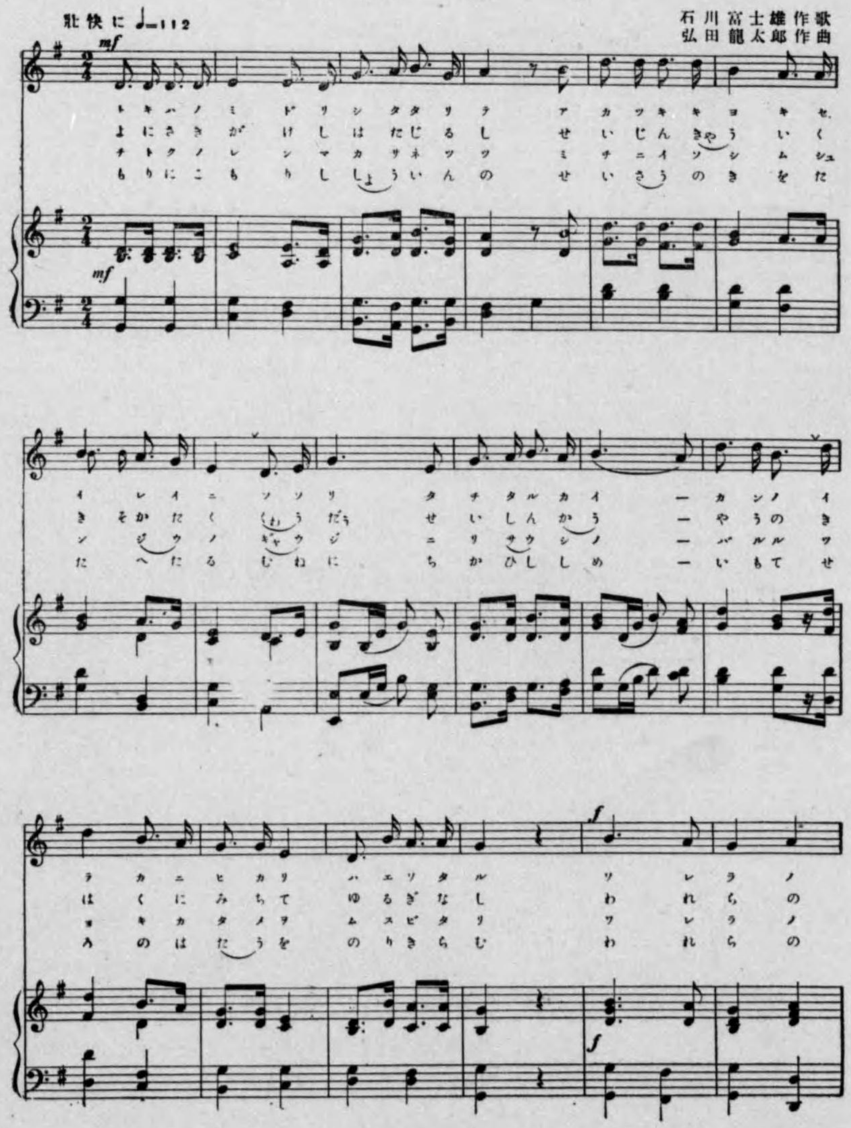
沿革……一
趣旨……三
新更會の使命……四
會則……五
役員及職員……七
新更會館平面圖……九
弘誓寮平面圖……一〇
事業報告……一一
新更學院……一七
新更學院學則……一七
新更學院職員……一九
新更學院卒業生……一九
會員分布現在數……二九
支部分布現在數……三二



新更會館

弘誓寮

新更會歌



新更會歌

（男子の部）

一、常磐の翠滴りて
曉淨き成嶺に
そゝり立ちたる會館の
甍に光り映えわたる
我等の團結 新更會

二、世に魁けし旗標
成人教育基礎固く
皇道精神高揚の
氣魄に滿ちて搖ぎなし
我等の團結 新更會

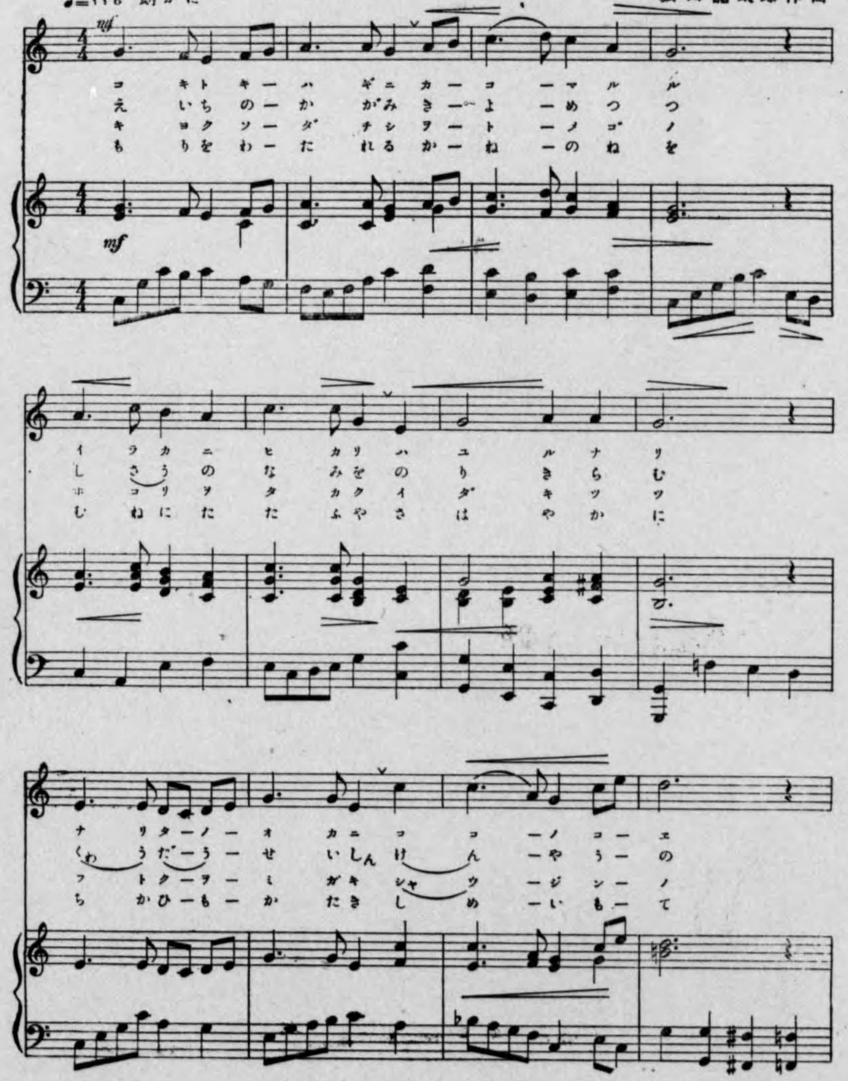
三、智德の練磨重れつゝ
道にいそしむ春秋の
行事に理想偲ばるゝ
繋き固めを結びたり
我等の團結、新更會

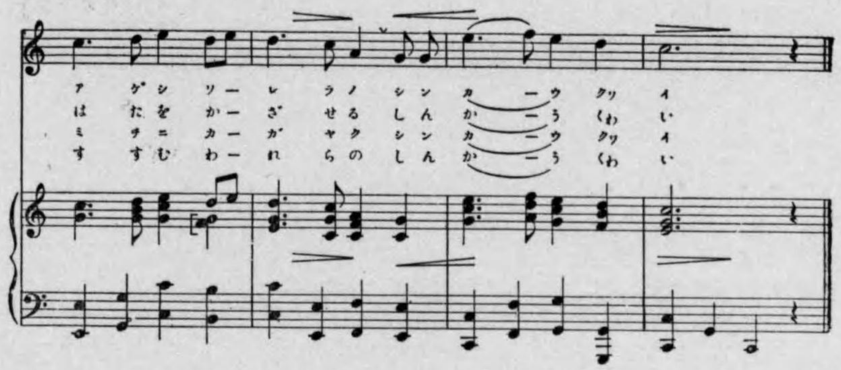
四、杜に籠りし鐘韻の
清爽の氣を湛へたる
胸に誓し使命もて
世路の波濤を乗り切らむ
我等の團結 新更會

新更會歌

石川富士雄作歌
弘田龍太郎作曲

♩=116 朗かに





新更會歌

（女子の部）

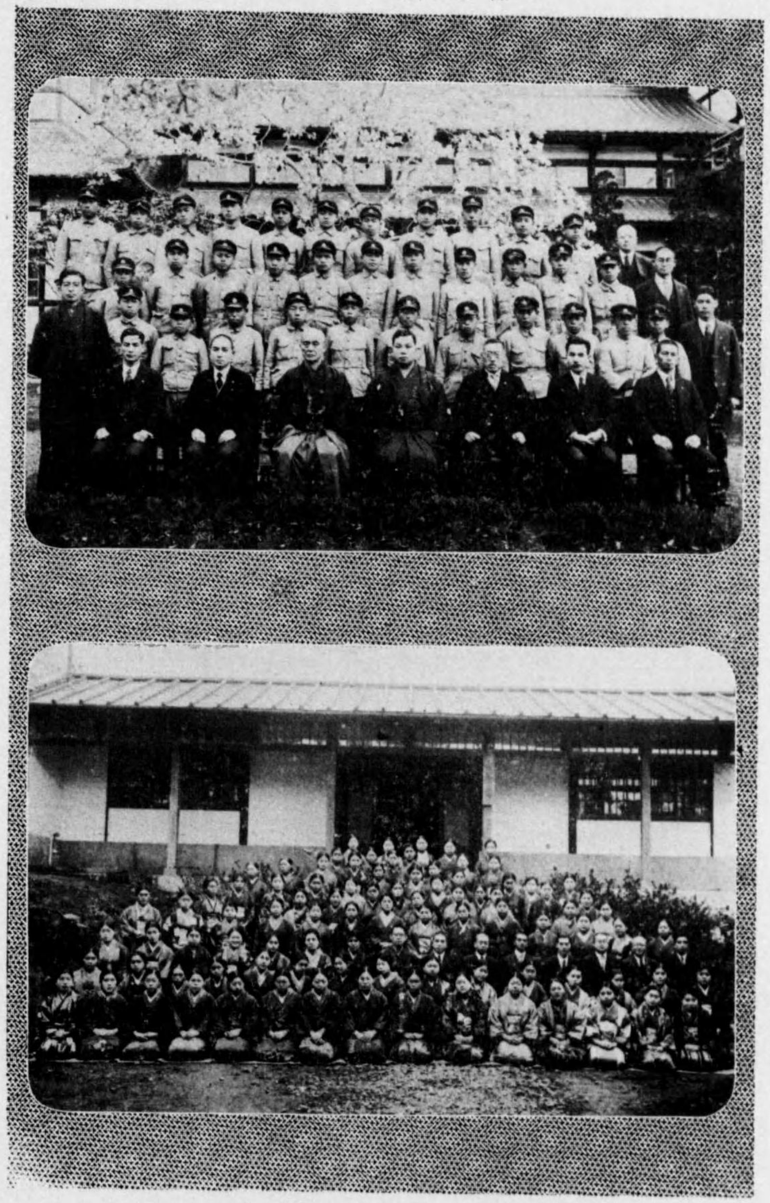
一、濃き常盤木に圍まるゝ
　蕊に光映ゆるなり
　成田の岡に呱々のこゑ
　あげし我等の新更會

二、叡智の鏡淨めつゝ
　思想の波を乘り切らむ
　皇道精神顯揚の
　旗をかざせる新更會

三、清く育ちし少女子の
　矜恃を高く抱きつゝ
　婦德を磨き精進の
　道に輝やく新更會

四、杜をわたれる鐘の音を
　胸に湛ふや爽やかに
　誓ひも固き使命もて
　進む我等の新更會

第四回卒業生



女子青年講習會

新更會一覽

一、沿革

本會は現成田山貫主荒木照定僧正の發意に依るものにして、僧正は、常に社會教育の必要なる事を痛感せられ、**昭和三年二月六日**當時の檀徒總代人たる、關川博道、山内平治郎、古矢大助、小野寺弘、諸岡勝太郎氏及び石川甚兵衛、高津親義氏等と、協議の結果茲に社會教育事業を創むる事に決し、成田町の有力者三十一人を招きて、二月九日成田圖書館樓上に於て發起人會を開き、滿場一致、社會教育を目的とする會の設立を可決し、ついで

一、會名の選定
一、會則の起草
一、會員の募集
一、その他必要なる事項

の處理を關川博道、石川甚兵衛氏等前記七氏を特別發起人となし、之に一任することせり。

その後諸般の準備をなすと共に、會名の撰定に就き種々協議を重ねたるも衆議容易に決せず、三月一日にいたり、御本尊不動明王の御寶前に於て靈籤を拜受せるに

第十大吉

舊用多成破　新更始見財
政求雲外望　枯木遇春開

に接せり、茲に於て衆議一決『新更會』となせり。

かくて昭和三年六月五日創立總會を開催し、茲に新更會は創立せられたり。（役員名は之を略す）

昭和三年六月六日　創立當時事務主任として諸般の事務を擔當せる高津親義氏は後任者佐々木祖門氏に事務引繼をなせり。

昭和五年十二月二十五日　理事會開催、佐々木祖門氏辭任し、神崎照惠氏適當なる後任者選定まで事務を擔當することとなれり。

昭和六年一月二十五日　理事會開催、左記職員を設置す。

主幹 澤田五郎氏
幹事 神崎照惠氏、諸岡市郎左衛門氏、渡邊和一氏
（内一名神崎照惠氏を常任幹事とす）

昭和六年三月 從來機關誌として新聞紙型の「新更」を發行せしも、之を雜誌型のものとせり。

昭和六年六月五日 本會の精神に基き地方青年に日本國民としての智德を涵養せしむるため、新更學院を開設せり。

昭和六年十一月 本會はその目的達成の爲め春に青年講習會、夏に夏季大學を開催し來れるも、未だ女子に對する施設なかりしを以て茲に第一回女子講習會を同月二十一、二十二、二十三の三日間に亘り開催しこれより毎年之を行ふことせり。

昭和七年八月 臨海圖書館、文庫貸出し等隨時文書の運用をなせるも、本年度に入るや各地に支部組織の完成せるに依り巡回文庫部を設置し、各支部に右巡回文庫を貸出し、會員に廣く之が利用の便を計ることせり。

昭和八年五月二日 先に設立せられたる新更學院は同日を以て千葉縣知事岡田文秀殿の認可を得たり。

昭和八年十月 小學校に於ける圖画教育の向上を計り兒童の美意識を陶冶すると共に本會の感化を廣く一般の小學兒童にも普及するの目的を以て同月一日より十五日まで童画展覽會を開き爾來毎年開催することせり。

昭和九年十月 書道の奬勵をなし、併せて日本精神涵養に資する爲め書聖弘法大師の千百年遠忌を記念として同月十五日より二十三日まで書道展覽會を開き、爾來毎年開催することせり。

昭和十年三月 本會には從來合宿道場なかりし爲め、合宿講習の如き場合には不便を感ずる事多大なりしも昭和九年秋より起工十年三月落成總裁猊下より「**弘誓寮**」と命名せられ、新更會に於ける修養の道場として同二十日より使用せり。

昭和十年七月 十年三月弘誓寮落成せるに依り爾來新更會各支部を始め各種團体の講習會を弘誓寮に於て隨時行ふことせり。かくて現在會員數四四五二名、支部數三十、月刊雜誌「新更」發行部數四五〇〇にいたれり。

昭和十年十二月 新更學院は同月三日附を以て陸軍、文部両省令第一號第一條第一號の規定に依り青年學校同等以上たるの件認可さる。

二、趣旨

新更會を組織して

荒木照定

近時外來思想の浸潤漸く著しく、社會相には種々の波紋を畫き、人心は極度の動搖と不安とを感ずるに至れり。此動搖と不安とに對し、世の先覺者は、極めて眞面目に、邦家の前途を憂慮し、これが對策として、『宗教の必要』を叫ぶもの、是れ亦漸く多きを加ふるに至れり。

『宗教の必要』は敢て今日に限れるにあらず。人生と宗教、絶對に不可分の關係にあるものなるが、只現時は異常なる思想的刺激を受け、その之を懇ふるもの特に甚だ急なるのみ。曾て我國には、或は政治的に、或は武力を以て、或は法權に依りて外來思想を防壓せんと試みたる、尠き幾多の經驗を有せり。然も今日の情勢は、何の威力を以てするも、到底其不可なるの結論に到達し、遂に『思想は思想を以て抗する』外なしと、識者間の輿論殆んど一致して、茲に『宗教の必要』を高唱さるゝに至れり。

明治維新以後に於ける我國は、特に歐米文物の移入に專らにして、深く内容の適否を顧みるの暇なく、新を逐ひ奇に走り、國情の如何を省みず、一掃的に舊文明を破壞して、徒らに外來文明の摸倣にのみ急なりしの感ありき。其流弊は今日に至りて、事新らしく『建國精神の顯揚』、及び『宗教の必要』を絶叫せざるを得ざる立場に至りしを悲む。然れども先覺者の既に此に氣附きたるは、恰も山巔に達したるもの、先づ旭光を拜するが如く、一道の光明地上を照すも、蓋し甚だ遐きにあらざるべし。然も此等の叫びは、聲尚微にして、一部の有識階級に限られたるの感あり。此に於て吾等は自ら其力の甚だ弱少なるを知ると雖も、一片の丹心自ら禁ずる能はず、此叫びを滿天下に徹底せしめ、以て人心の不安と、社會の動搖を除去し、轉一歩更に創造の世界へ、其心境を進ましめんと希ふに外ならず。

今回吾等の『新更會』を組織せる本旨は、實に此に在り。而して世に思想善導を目的とせる團體は、其數甚だ多し。今吾等の『新更會』も蓋し其一ならんのみ。只本會は、單に講話講演、若しくは宣傳雜誌發刊等を專旨とする機關にあらず。又新たに所謂社會事業を創設せんとするものにあらず。要は會員各自靜思反省、實踐躬行以て現代社會の純化淨化に資せんと欲するのみ、特に記して本會々員諸氏に告ぐ。

昭和三年五月中浣

新更會の使命

總裁　荒木照定

○

本年二月來創立準備に取り掛り、去る六月五日成田圖書館樓上に於て、盛大なる發會式を擧行したる、我新更會の使命に就き、一言を費したい。

現今我國の世相が、頗る不安の狀態に陷りつゝあることは、識者の等しく痛歎する所である。然も此事が眞に國民意識として、國民の總意に上つて居るや否や、甚だ疑なきを得ない。

曾て我國が明治維新以來、歐米文物の移入に力を致し、上下擧つて今日の文化を實現せしめ、今日の富强を養成した。之れは云ふまでもなく、全國民の向ふ所を明かにし、全國民の總意が、同一方向に一致し、然も夫れが確立不動の精神を以て一貫した、卽ち全國民の努力の賜ものであると信ずるのである。

然るに明治の末葉より今日に至るの間、此國民意識の上に、甚だ鮮明を欠き、一種の暗影を生じ來つた感がある。爲めに人心漸く弛緩倦怠の狀を呈し、其當然の結果として、倨傲自尊の風を生じて來た。其間隙に乘じて外的刺激は近時彌强烈を加へ內的思想は漸次惡化し、遂に今日の如き異常なる、世相の動搖を見るに至つた。

此時に際し、畏くも　今上陛下には、朝見式の際、『創造ニ勗メヨ』との御詞を下し賜はつた。此御詞は實に現代及び將來の、我國民の向ふ所を明かに御示しなされた誠に尊い御詞である。卽ち現今の我國は、正に模倣時代より、一步創造の時代に入り來つたのである。故に吾人は大に此氣運を釀成し、助長し、徹底せしめて、以て國民意識の響ふ所を明かにし、社會人心の不安を除去して、玆に新日本の文化を創造建設し、一は以て、聖慮を安んじ奉り、一は以て全國民と與に、永く其慶に賴ることを勗めねばならぬ。

是れ吾々が本會を設立したる第一使命である。

○

我國は東洋の一孤島、長く蓬萊宮裡の甘夢を貪つて居た。然るに現代文明は、之を速度文明とも稱すべく、特に交通機關の發達は、陸上に、海洋に、空中に、異常の進步を促し、今や我國も亦歐米文物の中心地と接近し、如何なる寒村僻邑と雖も、直ちに其刺激と影響を受くるに至つた。

我國の現狀は實に斯くの如くなるも、然も吾人の實際生活は、彼等の文明と猶ほ相當に隔りがある。此隔りこそ、我社會相に種々の波紋を畫かしめたる最大なる基因であると信ずる。

果して然らば此間の融合を計り、彼れの長所美點を取り入れて、我實際生活と調和せしめ、接觸せしむることに務めたならば、自然相互間に理解が出來、感情の融和が生れて來るであらう。此理解と融和は、人生平和の最大關鍵で、吾人は社會人心の不安と動搖とを一掃する爲めに、此點に深甚の考慮を拂はねばならぬ。

而して其目的を達するには、何としても教育の力に俟つ外はない。現今我國の學校教育は、公私共其完備に全力を竭しつゝあるは、吾人の大に意を强ふする所である。然も吾人は尙此基本的教育機關のみを以て、滿足することは出來ない。之れが補助機關として、圖書の運用發達、夫れと相俟つて成人教育、其他の方法に由り、最も迅速に、最も誠實に彼我兩者の調和、實際生活の向上を策し、玆に新たなる文明の建設、創造に務めんと欲するものである。

是れ本會の國家社會の爲めに盡さんとする、第二の使命である。

○

更に今一つの問題がある。夫れは『宗教的信念の培養』である。現代我社會人心の動搖は、人間として確乎たる信念なく、浮草の風に隨ふ如く、安定を得て居らぬからである。其精神の動搖不安は、宗教的信念に住し、宗教的信仰生活を營む外、人生を光明の道途に導き、不安を除去するものはない。此信仰問題に就ては、我國の現狀甚だ寒心に耐えない。殊に文明國としての我國民の多數は、彼の歐米諸國民に比して、此點遺憾ながら頗る色がある。

是れ本會が懷ける第三の使命である。

○

以上の三使命を、當面の喫緊問題として本會は生れ出でたのであるが、更に一言すべきことは、我國の從來採り來れる子弟の教養は所謂縱の教養である。此縱の教養訓練より漸く欠陷を現はし來りたる現今の我學校教育に、此際更に橫の教養訓練に力を致し、以て其缺點を補ひ、玆に文化の進運と、現代の要求に副はんとする卽ち本會の設立が夫れである。（創立總會挨拶筆記）

三、會　則

第一條　本會ハ皇國傳統ノ健全ナル思想ト鞏固ナル宗教的信念トノ下ニ國民精神ヲ作興スルヲ以ヲ目的トス

第二條　本會ハ新更會ト稱ス

第三條　本會ハ第一條ノ目的ヲ達成スル爲ニ左記事業ヲ行フ

一、合宿講習會ノ開設　會員相互ノ精神的團結向上ノ爲ニ

指導者ト會員トノ寢食ヲ共ニスル講習會ヲ毎年二回以上開催ス

二、成人講座ノ開設　會員ノ研究修養ノ爲ニ隨時講義會ヲ開催ス

三、修養講演會開催　會員及一般公衆ノ爲ニ隨時講演會ヲ開催ス

四、鄕土史料ノ陳列　史料中文書ニ屬スルモノ又ハ歷史技藝ニ關スルモノヲ努メテ蒐集シ新更會館ニ陳列シテ會員及公衆ノ閲覽ニ供ス

五、雜誌及圖書ノ刊行配布　本會ハ月刊雜誌『新更』及其他ノ圖書ヲ刊行配布ス

六、圖書閲覽及貸出　成田圖書館利用ニ關スル各般ノ施設

七、會館ノ貸與　本會ノ目的ニ適合スル各般ノ集會等ニ本會館ヲ貸與ス

但シ長期ニ涉ラサルコト

八、其他第一條ノ目的遂行ノ爲ニ必要ナル事業ヲ行フ

第四條　本會ノ會員ハ左ノ三種トス

正會員　成規ノ手續ヲ經テ入會シタルモノ

賛助會員　篤信者ニシテ本會ノ目的ヲ翼賛スルモノ

名譽會員　高僧名士ニシテ本會ノ特ニ推薦シタルモノ

第五條　本會員タラントスルモノハ會員二名以上ノ紹介ニ依リ理事會ノ承認ヲ要ス

第六條　本會ニ左ノ役員及職員ヲ置ク

一、總　裁　一名
一、會　長　一名
一、理　事　八名（内二名ヲ常任理事トス）
一、評議員　若干名
一、顧　問　若干名
一、主　幹　一名
一、幹　事　三名（内一名ヲ常任幹事トス）
一、書　記　若干名

第七條　總裁ハ成田山貫首ヲ推戴ス會長理事ハ評議員中ヨリ互選ス

評議員及顧問ハ總裁之ヲ依囑ス主幹及幹事ハ總裁之ヲ任命ス

第八條　會長及理事ノ任期ハ二ケ年トス

第九條　總裁ハ本會ヲ統率シ會長ハ會務一切ノ處理ニ任ス理事ハ會長ヲ補佐シテ會務ヲ分掌ス評議員顧問ハ總裁ノ諮問ニ應ス主幹及幹事ハ總裁及會長ノ命ニ依リ事業ヲ遂行ス

第十條　本會ハ毎年一回通常總會ヲ開ク但シ必要ノ場合ハ臨時總會ヲ開クコトアルヘシ通常總會ニ於テハ庶務會計ノ

報告ヲナスモノトス

第十一條　本會ノ經費ハ寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條　本會々員ニシテ本會ノ體面ヲ汚損シ又ハ本會ノ目的ニ違背シタル行爲アリタル時ハ理事會ノ決議ニ依リ除名スルコトアルヘシ

第十三條　本會々則ノ改正ハ評議員會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

第十四條　本會ハ會員二十名以上ニ達シタル地方ニ支部ヲ置ク支部規則ハ本會々則ニ準シテ各支部毎ニ之ヲ定メ支部長及支部幹事ヲシテ支部ノ會務ヲ處理セシム支部長ノ任命ハ總裁コレヲ行フ

第十五條　支部長ノ職務權限ハ本會評議員ニ準スヘキモノトス

第十六條　年一回以上總裁ノ名ニ於テ全國各支部ノ支部長會議ヲ招集ス但シ必要ニ應シ地方別ニ召集スル事アルヘシ

第十七條　本會ノ本部ヲ千葉縣印旛郡成田町成田山公園内新更會館内ニ置ク

四、役員及職員

總裁　成田山貫主

會長　荒木照定

會長　宮崎廣

理事（○印常任理事）

石川甚兵衛　○小野寺弘　高津親義
山内平治郎　古矢大助　○淺井照次
諸岡勝太郎　關川藤右衛門

評議員

石川甚兵衛　岩館熊太郎　萩原村次
大友惟誠　大塚篤三　大野市太郎
大木儀兵衛　小野寺弘　高川直三郎
高津親義　山内平治郎　今澤慈海
古矢大助　小泉榮助　小林治兵衛
小島照本　大野濱藏　淺井照次
淺井儀助　成田善亮　秋山照英
佐藤國二　木内民雄　木内喜右衛門
三橋金太郎　宮田半左衛門　宮崎廣
平山清助　諸岡勝太郎　關川藤右衛門
川名照通　渡邊和一　諸岡市郎左衛門
大野市平　鈴木民次郎　神崎照惠

顧問　高井觀海　兒玉九十

主幹　澤田五郎

幹事（○印常任幹事）

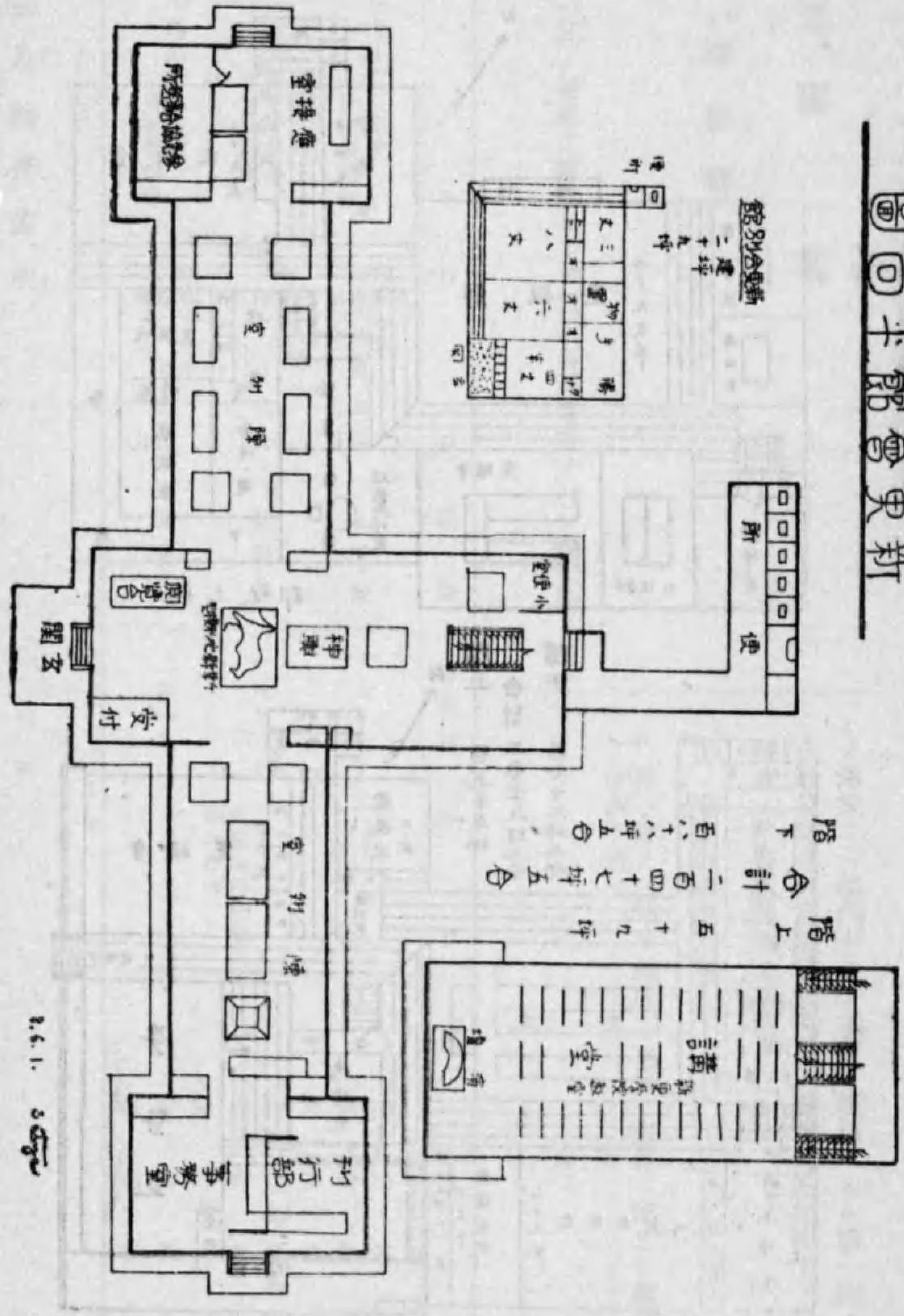
○神崎照惠　渡邊和一　諸岡市郎左衛門

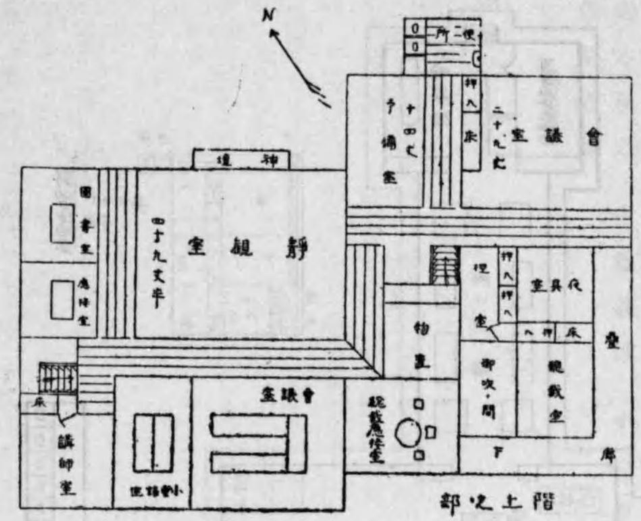
書記

石橋廣　大野政治　林幸治郎

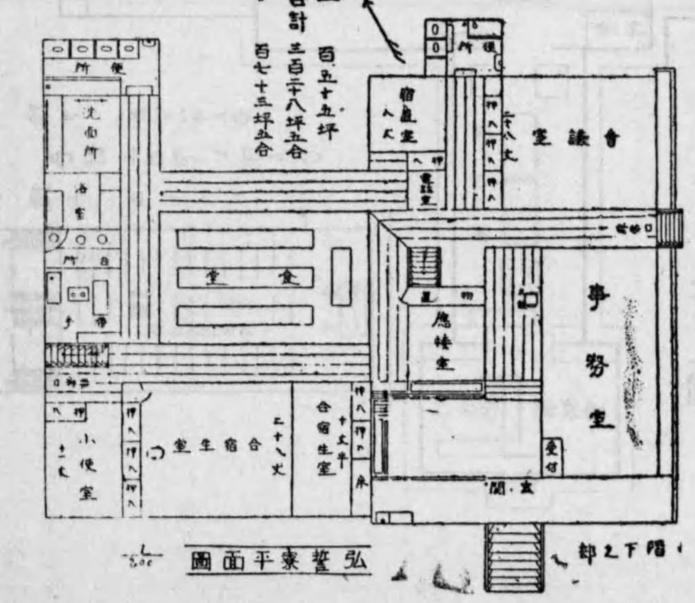
岩本倶之　伊藤義雄　小川貞雄

佐伯光盛





階上 合計 百五十五坪
階下 合計 三百二十八坪五合
百七十三坪五合



弘誓寮平面圖

五、事業

一、講習會

趣旨

本會ハ其ノ趣意ヲ徹底センガ爲ニ各種事業ヲ行フ講習會ハ其ノ事業ノ一部門ニシテ本會ノ標語トスル第一條ノ精神ニ則リテ社會文化ノ發展會員相互ノ精神的團結向上ノ爲ニ合宿講習會並ニ特殊講習會ヲ開催ス。

（一） 定期合宿講習會

〔第一條ノ目的ヲ達成スル爲ニ寮規ニ則リテ精神的訓練ヲ施ス〕

會名	月日	場所	合宿員	課目	指導者
第十三回成人教育合宿講習會	昭和十年自八月二日至仝七日	弘誓寮	三一	〔夏期大學合宿者ト仝〕	澤田五郎 神崎照惠 渡邊和一
第一回新更女子青年合宿講習會	昭和十年自十一月廿日至仝廿三日	弘誓寮	八五	新更會行持要綱ニ準ズ	諸岡市郎 左衞門大野政治 林幸治郎
第十四回成人教育合宿講習會	昭和十一年自三月廿二日至仝九日	弘誓寮	四九		岩本俱之 伊藤義雄

成人教育講座

會名	月日	場所	聽講者（合宿者ヲ含ム）	講師	講座
第十三回成人教育講習會	昭和十年八月三日至仝七日	新更會館	一三八四（延人員）	〔第七回新更夏期大學ト仝〕	（仝上）
第五回新更女子青年講習會	昭和十年十一月廿一日至仝廿三日	仝	一四五六	伊藤正平 岡田道一 高神覺昇 塩田節子 三輪田元道	農業に於ける婦人の地位 女子の健康法と應急手當 宗教講話 明るい農家の建設 婦人と修養
第十四回成人教育講習會	昭和十一年三月廿三日自至仝廿九日	仝	四〇八	高神覺昇 石川富士雄 渡邊誠三 永澤慈海 今石傳吉 澤田五郎	新興日本と宗教 武士道の缺陷 近年蔬菜の栽培並に販賣傾向 農産加工に就いて 讀書と修養 農村振興と日本精神要諦 國体明徴と選擧肅正

（二）一夜合宿講習會〔弘誓寮竣成ト同時ニ開設サレタルモノニシテ隨時開催シ一夜合宿ヲ原則トス〕

支部名	月日	場所	講習者數	課目	指導者
新更學院生徒	昭和十年七月一日	弘誓寮	五五		澤田五郎
印旛郡教育會第二部會	七月六日	仝	三〇		神崎照憲
中郷支部	七月廿九日	仝	六六	（特例）	渡邊和一
飯野支部	〔自八月十七日至八月廿日〕	仝			諸岡市郎
更科支部	八月廿七日	仝	四〇		大野左衛門
成田小學校 第六學年	八月卅日	仝	六四		林幸治郎
成田町青年團	八月卅一日	仝	二八		岩本俱之
成田小學校 高等科	十一月二日	仝	四〇		伊藤義雄
印旛郡教育會 二部會	昭和十一年一月十七日	仝	四六		
大須賀支部	一月十三日	仝	三六		
中郷支部	一月十五日	仝	八五		
本大須賀支部（青年團）	一月十八日	仝	三六		
東京農業大學	二月一日	仝	二七		
松尾支部	二月十一日	仝	三七		
大須賀支部（青年團）	二月十六日	仝	二五		
成田支部	二月廿一日	仝	三三		
大須賀支部（女子青年團）	二月廿六日	仝	二〇		
大平支部	二月廿九日	仝	三〇		
南郷村青年團	三月五日	仝	四五		
成田女學校生徒	三月十二日	仝	一八	（特例）	
日本青年協會々員	三月十四日	仝	四〇	生活改善	
縣社會課	二月十五日	弘誓寮（貸與）			
青年學校教練指導員	二月十三日	弘誓寮（貸與）			
富里支部	二月十日	仝	五〇	（特例）	
	三月二日				
	三月四日				

（三）特殊講習會〔農村文化啓發ヲ目的トシ隨時開催ス〕

支部名	月日	場所	講習者數	講師	課目
大須賀支部	自十一月廿日 至十二月一日	大須賀尋高小學校	九六	小林誠良	染色講習
八街支部	十二月七日	二州小學校	五〇	永野健	漬物講習
成田支部	自一月十五日 至一月十八日	成田町不動ケ丘		永野健	炭燒講習
遠山支部	自二月八日 至二月十日	遠山小學校	一〇四（延人員）	小林誠良	染色講習
大平支部	自二月十五日 至二月十七日	大平小學校	一二六（延人員）	小林誠良	染色講習
豐住支部	全二月廿三日	豐住小學校	二五	渡邊誠三	育苗講習

二、夏期大學講座

趣旨　本會事業中ノ一部門ニシテ本會精神ニ則リ所謂皇國傳統ノ健全ナル思想ト鞏固ナル宗教的信念ヲ發揚シテ、國民精神ヲ涵養シ、指導的地位ニ有ル士ノ國民須知ノ學理ヲ講究シテ、社會文化ノ進歩ニ寄與セン事ヲ唯一ノ念願トシテ開設ス。

會名	月日	場所	聽講者（合宿者ヲ含ム）	講師	講座
第七回新更夏期大學講座	昭和十年自八月三日至八月七日	新更會館	一三八四	藤村作 兒玉九十 米田實 西川光二郎 高井觀海 佐々井信太郎 田澤義鋪 田中能成 澤田廣五郎	日本文學と日本精神 青年の心理と其教育 國際情勢の今日及明日 論語の話 佛教講話 報德主義に就いて 青年と政治 皇國傳統の精神 天皇機關說批判

三、研究會

研究會は支部會員相互の向上、發展を主眼とし、各方面に渉りて開催せるものにして、今の所巡回文庫、文藝等を主として開催せり。

會名	月日	場所	參加者	備考
巡回文庫研究會	隨時	支部又は本部に於て	支部員	一、廻覽法實行ニ關スル研究 1、支部員ニ對シ廻覽並ニ實行方法 一、廻覽法ノ主眼点 一、圖書組合セニ關スル研究 一、交換日程表ノ作成
短歌會	毎月末	弘誓寮	平約三〇	作歌、觀賞、講評
俳句會	毎月廿五日	弘誓寮	平約五〇	作句、觀賞、講評
自由詩會	隨時	弘誓寮	平約二〇	作詩、觀賞、講評

四、行事

會名	月日	場所	參加者數	備考
建國祭	二月十一日	成田山堂庭	四〇〇〇	成田町各種團体主催ニテ擧行シ本會モ之ニ參加盡力ス
二宮尊德先生八十年祭	十月十八日	新更會館	五〇〇	昭和十年は幕末にあつて殉教的熱意を以て興國安民の大理想のために一身一家を捧げし、二宮尊德先生逝いて八十年に相當するを以て、特に國民生活再建の急叫ばるゝ今日、二宮先生追慕の式典を擧行し兼ねて記念講演會を催す。